

別添資料

第Ⅴ期・第3講

— 「思考力」が「**人間の価値**」を不動にする —

— 自己と向き合う —

第Ⅴ期・第2講の〈気づき・振り返り〉

書いて、書き直して、書けなくて、

時をおいて、

また、見直して、また書き直す。書き加える。

そして、

初めて知る、自己の現実(実体)

それを

同じ高い価値観を学ぶ仲間と開放し合い、

共に知り、共に伝え、

共に学ぶ。

そして、共に育つ。

共に立つ。

同志を持つ安心。

共同体。パートナーシップ…

S e 医療法人
院長 H.G.
年齢(?)男性

一部開放可

【高次元経営第5期2講 感想文】

—前 略—

5-2 受講後の感想文

楠本代表、准子さん、日本的経営研究会の皆様、いつも、大変ありがとうございます。
このような学びの場、実践の場を頂いている事に大変感謝致します。

今回の振り返りは、雑多ですが、遺書と思って書きたいと思いましたので、目次をつけ
させて頂いております。

認められるための振り返り

今回感想文を書くにあたって、何故かどうしても引っかかる事、気になる事が、下記の言葉です。今まで振り返りを書いてきましたが、その殆どが「反省」になってないか、とても
気になります。不安があります。だから、現実是不変なのではないかと思えます。

第4期 第4講 筆耕

認められるための振り返り

自我とは意識出来る世界です。意識出来る世界で、こういう勉強をしたり、事件が起
こった時に我々は振り返ります。意識出来る世界に於いて、失敗をしたことを振り返る

と、偽りの振り返りになります。仮面、つまり常識です。そして、そのことを「反省」と言います。反省だけなら猿でも出来るというCMがありました。

部分的な反省で同じことが起きても対処は出来ませんが、本質論ではないです。偽りの反省とは、このように振り返ったら認められるだろうと言うための振り返りになります。「振り返らないと代表から叱られる！」となります。ですから、私は「振り返ったフリはするな。」と言います。これでは認められるための振り返りになります。

自我による反省、振り返りは自我の主張性の独断となりますから、最後は自分の価値観に戻ります。そしてどうなると思います？自分は正しいとなります。相手が間違っているとなります。「こんなに反省をしたのに受け容れてくれない。」と、最後は自分の価値観に戻ります。

今回、質問会で質問に答えて頂ける機会があった事で私は確信しました。

私は今まで、「利益も考えるけどちゃんと患者さんの事も考えようとして、そこで葛藤している善良な歯科医師」だと思っていました。しかし、今回の質問会で楠本さんにご指導頂いた事で、「どうやら、自分はお金の事ばかりを考えている歯科医師だ。そうではないと思っていたけど、楠本さんが言うならそうだ。」しょうがない認めよう。

このように私は、思想的に生きたいと思っていながら、実際は「直接叱られないと自分の事だと思えない」情けなくどうしようもない人間です。頭で考えてしまっ、いつまで経っても、振り返りがぐるぐるループして、現実が変わりません。

脳がオーバーヒートして、目が点になって、死んでました。よく妻や、スタッフから、「目が点になって、一点を見つめている」といわれていました。思想と出逢う前は特に酷かったです。

結果、中途半端な振り返りや、筆耕を続けて、ただただ時間だけを消費し、身近な方に迷惑をかけているだけの、思想をちょっと齧っているだけの、情けない人間です。それなら、そんなことせずに、周りの人のために時間を使っている方がマシ。

だからこそ、そこから抜け出すために、楠本さんに近づかなければなりません。Kアラに入らなければ、頭がおかしくなってしまいます。

遺書と思って振り返りを書く

この言葉に、何か大きな勇気を頂きました。そして、この時間がとても大切なものだと感じる事ができるようになりました。ですので今回の振り返り文は、遺書をイメージして目次をつけさせて頂きました。

楠本代表に近づく

前回の第5期第1講の感想文にて、Kアラへの参加を申し出させて頂きました。その一番最初のキッカケはこちらの過去の講義でした。

第1期 第5講 補講 筆耕 より

何故「20年も思想の勉強してきたのに、高次元経営を聞いて何も分かっていなかったと気づいた」と言う方が多いのか?それは何か?

～ 中略 ～

都合の良い距離

もう一つは、自分にとって都合の良い距離で聞いているからです。自分にとってとは、これまでの自分の価値観で聞いていると言う事です。都合の良い距離は、これ以上近づいたら、何かもっと大変かもしれんから、深入りするまいと、いつでも逃げれるように、世間で言うところの忙しい理由を用意して、根拠にしてこの距離で聞く事が良いと言う距離で聞く。この事を聴きたいように聞いていると言います。話をされる講師の立場ではなく、自分にとっての都合の良い距離で聞いています。

この後の若い子の感想文にも出てきてびっくりした話です。一時間も前から来て、前の席を

取って、必死で書き込んで、終わってから、控え席で相談質問する人もいるかと思えば、揃って来て、後ろの方で聞いてポロッと帰っていく人もいます。今はませんが人間講座の場合は本当に多かったです。そういう聴き方は、自分が話の中で使えるところと都合の良いところを聴こうと思っていると言います。

自分の価値観に手をついて、そこで弄っています。自分の価値観の問題を見つけないといけないのに、自分の価値観で聞いていますから、それでは何 10 年聞いても結果が出ません。

一番最初に、これを筆耕した時は、「これはヤバい、兎に角早く会場に行って、一番前に座って、楠本代表のエネルギーを正面から受け止めなければ！」と思いました。そして、それをそのまま実行しました。筆耕や振り返り文に全ての時間とエネルギーを注ぎ込みました。

そしたら、「俺はこれほど一生懸命思想の勉強をしているのに、他の人たちはやっていなくて、全然思想的でない。何年勉強されているのだろう。」とってしまいました。

第 1 期 第 3 講 筆耕より

一生懸命勉強している自分を自分で正当化する

私は、私とその周りの方、例えば家族や社員の為に、思想がとても大切なお話しだから私自身が一生懸命勉強していかないといけないと思いました。そして物凄く勉強しました。

ところがその問題に全く気づかないと言う問題があります。私は良い事だと思って勉強していて、その事についての振り返りがなされていません。私は、経営者として、或いは税理士として、この業界に対して、日本と言う国に対して、家族に対して、このお勉強が必要だと思います、一生懸命勉強をしました。

しかし、それが自分の為である可能性が無いかです。

そうなっていると「こんなに勉強している私は結構イケてる、頑張っている」と言って一生懸命勉強している自分を自分で正当化します。これでは「決定的な自己の問題」＝「ありのままの現実」との向き合いが浅くなり理解にしか留まらなくなります。

もうこの通りです。グウの音も出ません。

今思うと、とんでもない思い上がりで、ちょっと分かったから、ちょっと気づいたから、自分が思想的だと出来上がっている、思い上がりです。GD の場で、そのままこの疑問をぶつけた、生意気な私を快く受け容れてくださる、S 社長や C 社の皆さんには頭が上がリません。

これは、私の根本的な問題です。他に頼るものが無いから藁にもすがる思いでこの勉強をしたいと思いながら、公言しながら、それでも根強く「近づいたらヤバイ。いや、前より近づいたけど、これ以上は物理的に無理だし。」今でもそう思っています。ですから、思想が身につきません。結局自分が大事と言う事です。

現実の会社の事実と向き合っていない

そういう方は、必ず現実の会社の事実と向き合っていません。向き合っていったら、社員が育つか、利益率が変わるか、顧客が変わっているか、仕事が変わっている筈です。だって、現実と向き合っていく、そして学んだ全てで自己を振り返っていったら、選択するものが変わっていく筈ですから。現実の会社の事実と向き合っていないから、何も変わっていないのです。

楠本代表は何故「そうだ」と言えるのか、分かるのかについてです。まず、こうした行動に出てないです。先程からクドイですが大切な人に伝えていません。例えば、部下に伝えていません。奥さんに伝えていません。そして伝わっていません。或いは伝えても関係性が何も変わっていません。部下との関係性が変わっていなかったら、それは当然、自分の価値観で聞いている以外に無いです。

少し変わったけど、やっぱり変わっていない。変えたい。相手を変えたい。その思いが抜けません。これは、絶対私の根強い自己の問題があります。あるはずです。

相談・確認をしない

だから相談、確認をしません。何故なら、伝えたり、伝わらなかったりしたら、分からない

から、相談に來たり確認しに來る筈です。つまり私で言うなら、お上人様のところに、もっと近づく筈です。しかし、絶対近づかない人がいます。何故か分かりますか。それは人によって、それぞれご自身が、自己流の聞き方や行動で、その事に何ら問題を感じていないからです。いったい何を根拠にそうなのか自己を振り返るべきだと、こういう事です。

「前の席に座ったから近付いた」ではありません。「振り返りを出したから近付いた」では、ありません。もっと近づかなければならない。近づきたい。勿論大好きです。でも、それだけではないです。

第1期 第3講 筆耕より

価値観の問題が分からないので、ぐるぐる同じところを回ります。

何か分からないが、今自分がつまづいているところ、振り返りの次元が低くて、同じところを思考がぐるぐる回っている気がします。前よりはましですが、新たな壁にぶち当たっている気がします。でもそれは、身近な人が教えてくれているはずですが、お互いに言語化が出来ないので、何か違和感がありながらも、ぐるぐるループしているように感じています。

第1期 第3講 筆耕

最初にした失敗と二回目の失敗は、別の原因であると思ってしまいます。そして、三回目の失敗の原因が他にあると思ってしまいます。しかし、違うんです。表面的にみると、異なる原因で全く性格の異なる失敗に見えたとしても、実は失敗の原因は一つです。それはすべて、価値観の誤りからもたらされたものです。

私は、この言葉がもう忘れられません。少し成長して問題が表面化しにくくなると、何か平和になったような気がして、水面下に潜んでいる問題を見ないようにしてしまいます。そんな事があってはなりません。

この事に徹底的に向き合うには、徹底的に現実の問題と向き合いたい。そう思いました。

怖い

そう思ったはずですが、ここまで思考して、楠本代表に近づく自我に気づきました。楠本代表に近づかなければ不安です。怖いです。現実の問題に徹底的に向き合うと、人間と人間の生身のぶつかり合いになります。やはり人間が怖いです。

ですから、これまで少しでも武器を手に入れようと、過去の講義を全て筆耕し、付随する資料も全部モノにしたい、お上人の書籍も、ネットでお上人の過去の経営人間学講座の資料も何か無いかと探し回っていました。それは人間が怖かったからです。「助けて、楠本代表！」そう思っている自我です。

第1期 第3講 筆耕

家の中に虎を飼っている

「楠本先生は家の中に虎を飼っているのに、気づかれていません。私から見ると、その虎は今は呑気に歩いてるだけだが、いつお腹がすいて貴方の首を今にも、楠本先生の首をガブッと噛みに来るが、私はもう見ていてドキドキします。」と言われました。その時の楠本は、何を言うんやろうと、全く分かりません。

だって私結構儲けてましたし、業界でも結構有名でしたし、別に事業がどうかなんて事は、もう全然心配していませんでした。ですから、お上人様が何を言ってるのかが、サッパリ分かりません。「この敵を、楠木先生は、その虎の首根っこをグーっと押さえつけなければダメです」と言われました。

結局、自分の中の虎が怖いと言う事です。「楠本代表、虎をやっつけて」ではなく、自分で押さえつけなさいと言う事です。

そうすると、「だとしたら高次元の講義と筆耕と振り返りだけでいいではないか！だって問題は身近な人が教えてくれているはずだし。」なぜ、わざわざKアラに！？

思考がぐるぐるまわりはじめました。何か低い次元で止まってしまっています。しかし、その解決の糸口は、楠本代表からの宿題（シン共同体への参加条件）にありました。これが楠本代表に近づくと言う事で得られる恩恵ではないかと思いました。

余裕がない

第4期 第3講 筆耕

時間というのは、創るのです。創れるのです。生めるのです。何故なら、価値観の中にあるからです。皆さんよく見たら分かると思いますが、この人は素敵な人だなと思う人や、大変な事をしていると思われる人は、時間がない、時間がないと言ってはいいないのです。余裕があるのです。

私はいつも時間がありません。暇そうにしている人、余裕がある人を見たら腹が立ってしまいます。それがすごく器が小さいように感じます。そして、それがいやで、自分がやる事を減らして余裕があるように見せたりします。でも、そうしたらやるべき事やりたい事がすすみません。でも、それをやると余裕がなくなります。睡眠を削っても、長くは続きません。1日の活動量の限界もあります。いつも、その葛藤、いつも、そのループです。

そこで次の言葉に出逢いました。

シンプルに生きる

第1期 第7講 筆耕より

シンプルに生きようになる

目的達成の為だけに一点集中する事から、全ての無駄を省く事が出来ます。その結果、目的

達成に向けて巨大なエネルギーが集約的に、かつ奇跡的に自分自身に与えられる事になります。だから皆さん、色々な人と付き合う必要はありません。色々な人と付き合ったら、なんかその人事に、何かしていく事になります。そうではなくて、私が歩いている、目の前に現れる人とは、向き合っていきます。あっちの人と、こちらの人とかとも、会う必要が無いです。シンプルになります。

お上人様から言われた事

昔そうしてお上人様から言われて、私が物凄く分からなくて苦しんでる時に「もう楠本さん講義聞かんで良いから、控え室で自己を振り返りなさい」と言われた事あります。

スタッフとしてお手伝い行ってるのに、何回も、何日間も、講義を聞かせてもらえませんでした。その時に、講義の音が入ってくるんで、聞いても良いかと言った時に、「思想的な人は、生き方が非常にシンプルになります」と仰っていました。なんか今の現代人は、「複雑な人の方が頭が良い、なんか深い」と錯覚してます。違いますよと言われました。

両親

私は父親がシンプルな人でした。「ああそうか、父親に近づけば良いんだ。」と思いました。

私は、考えすぎて頭がこんがらがることがしょっちゅうです。振り返りもダラダラと長くなります。「複雑な人の方が頭が良い、深い」と考えているのは私です。

何か自分の執着している価値観があり、それに気づかず、手放せない仕事があるのかもしれない。また、他の人がこの人を助けなければと思えるような、志を持てていないからでしょうか。

そのように受け止めております。このような受け止めでよろしいでしょうか。ご指導頂けましたら幸いです。

中庸

講義筆耕より

中庸

仏教などの高いレベルでいうところの中庸について。

「右に寄りすぎてもいけない、左側に寄りすぎてもいけない。やっぱり人間は真ん中のね、程々が良いのよ。」というのを、頭悪いと言うんです。程度が低いと言うんです。

お上人から教わった本当の意味での中庸について。右に立たなければならない時は、超極右のこれ以上行くと落ちるというところにも立ち、左に寄らなければいけない時は、左のこの先はもうないという左に立つ。

そして、どこにも囚われないというのを、中庸の意味だという事でした。もし、そうじゃない意味で中道とか中庸という意味を使っているとしたら、教えてあげてもらいたいわけです。それだけでも僕は驚きました。それまで自分が勉強してきた読んできた本と次元が全然違うわということなんです。

もう、この言葉が頭から離れません。

私は妻の立場にこれ以上行くと落ちるというところまで立ち切れているのか、弟の立場にぐーっっと立ち切れているのか、父の立場にこの先はないということまで立ち切れているのか、スタッフの立場に立ち切れているのか、その事を自己に問わなければならないと思いました。

AI を使った筆耕について

講義 筆耕より

大変申し訳ないけどH先生のだけ名前入れちゃったので、すいません。答えなきゃいけないんで。

全然 OK です。破門するとかそんなことはありません。

我社の事務やっていたら K さんは、天神オフィス出してからだから長いんです。前に

も言ったけど、僕が帰った時はワープロ時代なんです。我社に最初入ったときは、ワープロができる。そしたら活字が印刷したみたいな文字で出る。

ワープロができるかって入ってもらったんです。そういう時代がありましたね。

ChatGPTにしても、今で言ったら、色々な事ができるとか、流行りものがいっぱいあるでしょう。でもそれって、いつかそうなるという事です。

僕らは何を掴んでいたら、安心なのでしょうか。

とても重要な投げかけを頂いていると感じました。

このお勉強を始めてから、私は無数にある自分の損得計算に気づき、これはとんでもない、自分は何という情けない、恥ずかしい人間なんだと思いました。そして、そんな自分を変えなければいけない。変えなければいけないと思いました。もっと言うと、修正しなくてはならない、こうあるべきだと思いました。

第1期 第2講 筆耕より

あるべき論

自己について質問です。「自分の価値観で人間はこうあるべきだと言う理想の自分を自己と考えるとあったが、これでよろしいか。」

これは違います。「人間はこうあるべき」ではありません。あるべき論・倫理道德の話ならこれで良いです。

そうではなく、あえて言うのであれば「むしろこうありたい」とこのお話を聞いていて、何かそこにすごく共感するものを素直にそう思えた自分。「そうありたい」と自分がその時心動いたとするなら、その自分を信じて励ましてあげたら良いと思います。

「ねばならない」などのあるべき論は辛いし、しんどいし、私は出来ません。

第1期 第1講 筆耕

「損得計算で動いちゃダメだ、立派な人間になりましょう」を「綺麗事」と言います。それは倫理道德です。

この質問されている方と同じで、あるべき論として、私はこの講義を聞いてきました。油断すると、あるべき論、修正論、倫理道德で聞いてしまいます。今までそうやって生きてきました。だから苦しかったです。

しかし、楠本代表は損得計算、技術や能力を使ってはいけないとは言っておりません。「何のために、使うのか。」ここが重要だと改めて感じました。

1～4期、社員編、実践事例開放研修会の筆耕につきまして、推敲の途中ではありますが、一旦提出させていただきます。

統合学術研究所

統合学術研究所のお話を聞く度に、何かとても大切なもので、そのために今この場で学ばせて頂いている気がします。私や家族、社内と言う部分と社会、宇宙全体を関係させるとても重要な場である気がしてなりません。

ですから、この高次元経営という場に参加させて頂いていると言うことが、とても重要で、自分さえ良ければ、家族さえ良ければ、社内さえ良ければ、顧客さえ良ければにならない事に繋がる気がしてなりません。

この事を、今回の講義で明確に伝えて頂き、大変救われました。

第5期 第2講 筆耕より

本来学問に区分けはありませんでした。訪ねていったら1個です。それがバラバラになっち

やったから、境界領域の間に色々な問題が起こっているのです。これを今から一つに統合させていかなければなりません。

その試みに出られたのが統合学術研究所です。これを一から再構築することに全力をかけることと、Kアラのメンバーの1人1人を強くすることと、受講生の皆さんの役に立つことは、私の中で一つです。色々じゃないです。一つです。

そうすると受講生の皆さんと私とこの講座との関係性です。どうなるかという、受講されている皆さんのお1人お1人に、今私が申し上げたことを私も含めて、楠本くんも含めて支えていただいている方々ということになります。もうその通りなんです。

つまり私も、統合学術研究所の再生も、新たな形の経営のあり方も、支えている当事者であるということです。そのご認識を持っていただいて学んで頂くと有難いと思っています。

現実の問題と向き合って、自分や、身近な人が良くなっても、それが世界に対して、全宇宙に対して、何の価値があるのだろうか。「自己満足になっていないか、自分さえ良ければ良い、自分の会社さえ良ければ良い」になっていないか、その心配がありました。

ですから、私が統合学術研究所に入らないと、お役に立てないと思っていました。しかし、そうではなく、今、ここで現実の問題と向き合っていくことが、すでにお役に立てるのであれば、安心して、現実の問題と向き合える。そう思いました。

やっと、人生を全てかけられる場に出逢えた、その為であればあらゆる艱難辛苦を歓迎出来ます！このような受け止めでよろしいでしょうか。

運がいい人

講義レジュメ 14 ページ

松下幸之助氏は日本でもっとも「運がいい人」のひとりだと言えると思います。その彼が採用試験で必ず最後に聞く質問があったそうです。それは「君は運がいいか?」というものでした。そして「はい。運がいいです」と答えた人のみ採用したそうです。

講義の中で上記のような参考資料がありました。

僕は正直、「運がいい人ですか」と聞かれると、返事に困ります。僕は問題が起こると、運の悪い人だと思ってしまいます。ですから、思想を学んでいます。思想に出逢う事が出来ました。そして、自己の価値観の誤りに気づいて、運命を変革します。そう言う意味では、運が良いと思います。両方が僕にはあると思います。ですから、返事に困ります。

しかし、思想を学んでいるのですから、「運が良いです。」で良いのかもしれませんが。

祈り

私はこれまで、祈りと言うものをバカにしてきていました。「何という、非科学的な事だろう。そんな事で現実是不変ならない。宗教に染まってる人は弱い人だ。」と見下していました。恥ずかしい事にそう思っていました。

しかし、そんな中、2年ほど前に大澤社長に誘われてスウェットロッジに参加した時の事です。

スウェットロッジ

アメリカ・インディアン儀式のための小屋、またはこの小屋で行う「治癒と浄化」の儀式。このスウェット・ロッジ（発汗小屋）は、全米のインディアン部族に見られるもっとも一般的で、しかも重要な儀式である。薬草の香気を含んだ蒸気によって身を清め、汗をかくことで健康を回復させる「治癒」の意味と、「心と体の浄化を伴う文化的な集まりの場」の二つの意味を持っている。

スウェットロッジは一般の方が多く参加されていて、その中で障害のお子さんを持つお父さんが、汗だくになって、意識が朦朧としている中、ご家族の幸せを祈っている姿に「自分は何と情けない、人生を歩んでいるんだろう。この方のように必死で生きていない。」と思いました。

つまり、自分は今まで自分の人生は自分の力で切り開けるし、これからもそう出来る。だって、俺はそこそこイケていて立派だからと思っていたからだと思います。自分の弱さを全く認めきれていません。

しかし、今回の身近に起こった出来事で、自分が如何に非力で、弱い人間で、もう自分の力ではどうしようもない。恥ずかしい事に、僕はバカなので、人生で初めて、そこまで困って、ようやく、自分の弱さに気づき、祈るしかない状況、問題に出逢わせて頂きました。

その後、高次元経営を始めた事で、スウェットログには行かなくなりましたが、このお勉強を続けていく中で、

第2期 第1講 筆耕 より

祈り

楠本アライアンスの祈りの「祈り」に丸をつけて下さい。これが量子力学で言うところの集中です。人間の意識の事です。集中が起こると、時間が動くと言われています。そんな馬鹿なっていう感じです。

だから同じ人生でも、違う時間帯に来てると言う事です。そしてこの祈りを、私も毎朝しています。そして、毎朝、国民の事を考えて祈ってくれている人が、天皇家です。

明確に祈りについて言われている事に気づきました。それでも、僕はまだよく分かっていなかったのですが、「思想で行く」と決めていたので、行動を起こしました。祈ろうと決めました。

一方で、次のようなお話もありました。

第4期 第1講 筆耕

お上人様のお話で出てきますけれど、「お墓参りに行ったり神社とか仏閣によくお参りに行

く経営者がいます。そんな事をして会社が変わりますか？」と言います。やるべき事をやらないと。

これは、ただ単に神様仏様に祈っても、現実は変わらないと言う意味だと受け止めました。

第2期 第5講 筆耕

道場清規について

正確に言うと「言い聞かせる。そして、言って聞かせる。」いいですか、言い聞かせる、次に言って聞かせる。もう一つ3番目があります。これ大事です。「思い出させる。」

ここにこうしてご縁があって座って頂いてる貴方は、自己の中にこの言葉があります。あるからこの言葉と出逢っています。それを忘れちゃっています。今世になって出てきたのか分かりません。それを思い出させます。

そこで、何を祈って良いか分からなかったので、「経営人間学講座 道場清規」と、楠本アライアンスの祈り」を祈る事にしました。楠本アライアンスの祈りは「祈り」って書いてあるからと実に安直な理由です。

経営人間学講座 道場清規

一、経営とは、経世済民の高い志しを、実行に移すことである。

一、経営とは、人間の究極の理想と目的を、実業の現場で実現することである。

一、経営とは、人間のもつ無限にふかい可能性に、確信の信を置き、価値の創造に努めることである。

一、経営とは、人間のもつ最も醜い力を、もっとも美しい価値に、転換させることである。

一、経営とは、いかなる絶望的な境遇にあっても、その中からつねに智恵と力と勇気を、奮い起こすことである。

～楠本アライアンスの祈り～

人間らしく生きたい。

信頼の関係を築きたい。

人として生まれ、誰もが心から願う事である。

人間として恩を忘れない人でありたい。

感謝すべき人に感謝できる私でありたい。

しかし、その大事な、大切なことが出来ない。

気付いてみると、

恩ある人を平気で裏切り、

感謝すべき人に対して恨みを抱いている。

人間らしく生きる私でありたい

だからこそ、

人が人として、人間らしく生きる為に

高い価値観に基づく「理念」と

共に目指す「目的」の共有が

自己を振り返る上で重要かつ必要な理由が

ここに明確に存在する。

神様に祈るのではなくて、自己に祈るという意味だと受け止めていますが、何か対象があった方が良いのではないかと、寝室と職場の机の上に神棚を作り、朝2回、夜1回、2ヶ月の間祈ってきました。長男が「ひとつ けいえいとは」と言い出すぐらいになりました。それを見て妻が微笑んでいます。

講義レジュメ 18 ページ

ではどうしたら脳を変化させることができるのか。「運のいい脳」にすることができるのか。

その方法のひとつが「祈り」です。よい祈りが、脳にプラスの影響を与えることはすでに述べました。たしかにたった一度の祈りでも、それが心からのよい祈りであれば、脳内にはよい変化が起きるでしょう。しかし、毎日の行動や考え方に影響を及ぼすほどの脳の変化を期待するなら、たった一度の祈りでは効き目はありません。人間の細胞が入れ替わるには、約3ヶ月かかるとされています。

とりあえず、毎日やってみようからスタートしたのですが、この記事を見て、あと1ヶ月祈ると、何か変化があるかもしれないと思いました。

天皇陛下と祈り

そして、祈りを調べていると天皇陛下の記事に出逢いました。しかし、今の今まで天皇陛下が何をなされている方なのか全く分かっておりませんでした。

ビートたけしさんの言葉

あるテレビ番組でビートたけしさんは、天皇陛下に初めて会ったとき、死んでもいいと言った。また、タケシさんは別のあるテレビ番組で、皇室に関する様々な熱い議論を繰り広げていたのだが、番組のエンディングで初めて陛下にお会いされたときのことを次のように話していた。

初めて陛下にお会いしたのは平成 28 年のお茶会だった。天皇陛下というのは神に近い存在、あらゆる日本人の苦難を背負っておられる気がするけど、それをカバーするオーラがあって、不謹慎を承知でいえば、戦争で天皇陛下の名前を叫んで散るのもわかる。

外国の権力者は力づくで大きくなり、最後に王になったりするが、天皇陛下は元々いる存在という感じ。元々いる存在だから原点を決める必要もないし、日本という国があつて、そこには必ず天皇陛下がいて、その下に派生する枝葉の中に日本文化とか礼儀とか、あらゆるものが全部あるため、そういう意味で天皇陛下は日本の象徴というのも納得できる。

ビートたけしさんが何かすごく感じたという記事に出逢って、もっと知りたいと思うようになりました。

「元々いる存在」という言葉が何かとても心に残りました。

初期仏教 (wikipedia) より

ゴータマ (ブッダ) は、仏教という特定の立場を設けることをしなかった。ゴータマは、他の宗教の実践者を否定せず、いかなる宗教をも容認する立場を取っていたとされている。

仏教について wikipedia で調べているときに、ブッダが言われていた事と同じではないかと感じました。

第 1 期 第 5 講 筆耕より

関係的思考と言う現代の新たな存在論を解明した哲学的ルーツを求めるとするなら、インド哲学にあり、仏教思想である事が、量子力学の先生方が分かってきて、勉強し始めてくれました。ちなみに仏教では普通に知ってるレベルです。これは実体的思考の根拠を自我と捉え、関係的思考の根拠を無我と捉えている事も広く用いられている通りです。

天皇陛下も、ブッダも、共に、どちらの立場を取ることもない無我の状態でいらっしやうと受け止めました。

別の記事です

天皇とは「祈り」。2000 年以上受け継がれている日本人の心とは

平成 31 年はまもなく幕を閉じ、5 月 1 日の皇位継承に先立って新しい元号が発表される。そもそも元号とは？天皇とは？そして日本とはどんな国なのか。皇位継承の日が近づく 2 月、宮中とゆかりの深い伊勢の地で、旧知の仲である竹田さん、松本さんが天皇について語り合った。

竹田恒泰さん（写真左）

作家。昭和 50 年、旧皇族・竹田家に生まれる。明治天皇の玄孫。平成 18 年『語られなかった皇族たちの真実』（小学館）で第 15 回山本七平賞受賞。『日本はなぜ世界でいちばん人気があるのか』（PHP 研究所）など著書多数。年間 200 本以上の講演を行う。

松本栄文さん（写真右）

花冠「陽明庵」主人、作家。一般社団法人日本食文化会議理事長。『日本料理と天皇』（柊出版社）でグルマン世界料理本大賞 2015 の最高位「殿堂」、及び「創設最高賞」を受賞。メディアや講演会を通じて日本の伝承・伝統文化の普及に努める。

日本人にとって天皇とは？

松本

あらためて天皇陛下のご存在、竹田さんにはどう映っていますか？

竹田

日本は歴史がある国です。先人たちの軌跡は記録で残され、考古学でも 2000 年はさかのぼることができる。これは素晴らしいことです。鮭が産卵のために川をさかのぼって自分が生まれた場所を目指すのは、それが子孫を残す最も確実な方法だからです。

そして日本人が 2000 年以上大切にしてきたものが天皇です。その理由はもはや誰もわからずとも、そこには何か意味があるわけです。

松本

天皇とは何か？これを言葉で説明するのは難しいことですね。

竹田

とても多面的で、いろいろな価値や趣をもっていますから。でもそこに存在理由があると思はれます。

つまり天皇があつての日本であり、いわば日本そのものを守り続けている存在であるといえるのではないのでしょうか。宮中は古いものを残すことに価値を見出してきた世界です。

ここまで読んで、天皇は日本を守り続けてきた存在。

どうしてそうなってきたんだろう、、、そう思いました。

日本の古きよきものが、社会では失われていても、宮中で継承されています。

近代化の中で失われてきた大切なものが、宮中にはあるんだ。何なんだろうと思ひました。

松本

三種の神器（『古事記』によれば、瓊瓊杵尊（ニニギノミコト）が地上世界に降りてくる際に託され、ひ孫で初代天皇である初代神武天皇へ継承された）はその最たるものではないか。

竹田

そうですね。三種の神器とは神代に神々の手によってつくられた剣、勾玉、鏡ですが、初代天皇以来、第125代にあたる現在の天皇陛下まで継承されています。いわば天皇が天皇であるための証しですね。

その価値とは物質的なものではなく、そこに天照大御神（アマテラスオオミカミ。日本神話の中の最高神。天皇の祖先であり、すべての国民の祖神（おやがみ）として伊勢の神宮（内宮）をはじめ、日本の多くの神社に祀られている）の御神霊が宿るということ。

三種の神器には物質的ではない、見えない価値が宿っているのか。それはどんな価値なんだろうと思ひました。

そして 2000 年以上の長きにわたって、歴代天皇は国民一人ひとりを我が子のように愛し、その幸せを祈り続けてきました。ですから 天皇とは何かと問われたら、祈る存在だとお答えするのが一番正確かもしれません。

ビートたけしさんが言ってた事と同じだ！「祈る存在」

「君が代」は、実は古今和歌集がルーツ

松本

日本とはどんな国かを考えると、国歌である「君が代」を知ればその姿が見えてきますね。

竹田

外国の国歌と比較すれば、君が代がいかに素晴らしいかがわかるでしょう。

多くの外国の国歌は、国家のために敵を打ち負かし、正義の戦いに勝ち抜いてきたという誇りを歌い上げた軍歌です。

君が代はその対局にあります。五七五七七からなる和歌であり、古今和歌集に祝いの歌として収録されていたもの。

「君」は大切な人という意味で、国歌では天皇陛下を指します。つまり天皇陛下に長生きしてもらいたいということを神に祈る歌なのです。

松本

そもそも陛下は和歌を通じて国民の幸せを祈ってくださっています。

竹田

歴代天皇がお詠みになる和歌を御製(ぎよせい)といいます、御製とは日本国民の幸せを願う祈りそのもの。五七五七七は神に直結するリズムです。

それに対して我々が天皇陛下にできることは、君が代を歌って陛下の長寿を祈ることぐらいなのです。

自分の中で、君が代のイメージがガラッと変わりました。
君が代を好きになり、日本を好きになりました。
そして天皇陛下を好きになりました。

天皇陛下が強い立場だとずっと思っていました。
しかし、そうではない事に気づきました。

ゴリゴリの理系で、理屈屋で、人の気持ちなんて全く分からなかった私が、
僅かですが、人の気持ちであったり、自分の事であったりに興味を持ち始めたのは、
科学と宗教が統合されたからです。
ゴリゴリの理系の人は科学が入り口ないと、入っていきません。

生まれた時から、日本国民を支えるお立場。
もうそれに抗う事はできません。
わたしのよう反抗することもできません。

ルールが既に決まっていて、放り出すこともできません。

とても、とても、弱い立場。

そして、なんの権限もなく、
祈るしかできない

それを、代々ずっとされてきた一族の方だと受け止めました。

天皇は「神道の司祭」だと聞きました。

とても、尊い存在だと思いました。

松本

君が代にさざれ石という言葉を用いたのが、なんとも日本らしいと思います。

竹田

古事記では岩そのものが永遠の象徴です。さざれ石はただの石ではなく、もともと小さな石が何万年、何十万年という時間を経て岩に成長する、という悠久の時間と永遠性を秘めた存在です。しかもそこにびっしりと苔がむす、それほど君が代が続いてほしいという意味です。

松本

日本人の豊かな精神性に気づかされます。今後の儀式の中で多くの国民が万歳をします。その万歳（いつまでも生き、長く栄えること。まためでたいこと、喜ぶべきこと）にも意味がありますね。

竹田

万歳も、まさに君が代に通じるものです。日々国民の幸せを願ってくれる天皇陛下が、お元気で長く生きていただきたいというお返しです。

これまで、万歳は、自分が何かをやり遂げた事への鼓舞だと思っていましたが、とんでもありません。

天皇の「祈り」が日本を束ね上げてきた

松本

皇位継承の儀式で最も重要なものといえば、なんといっても大嘗祭(だいじょうさい)でしょうか。

竹田

大嘗祭は、新天皇陛下がはじめてなさる新嘗祭（にいなめさい。「新」は新穀を、「嘗」は奉ることを意味し、新穀を神に奉り、その恵みに感謝し、国家安泰、国民の繁栄を祈る祭り）です。新嘗祭は年間で20件近く行われる宮中祭祀の中で、最も大切なもの。

昨年の11月23日、天皇陛下は最後の新嘗祭をあそばされました。儀式はひと晩のうちに2時間ずつ2回行われ、正座だそうです。

近年、陛下はこの日のために正座の慣らし訓練をなさったと聞こえてきますが、陛下が真剣に祭祀の準備をし、祭祀に向かう姿が国民の目に触れることはありません。天皇の祈りとは非

公開なのです。

皇族すら見ることを許されない中で、真剣に神事を続けてきたというのが日本の歴史です。

天皇陛下はとても、とても、尊い存在だと思いました。

松本

これらの行事で掲げられる御旗には、菊花紋と並んで八咫鳥（やたがらす。日本を建国した神武天皇を、大和の橿原まで先導したとされ、導きの神として篤い信仰がある。八咫は大きい、または長いという意味。太陽の化身で3本の足があり、天、地、人を表す）が描かれていますね。なぜ八咫鳥が登場するのでしょうか。

竹田

八咫鳥は、日本建国のときに神武天皇を大和の地に導いた鳥です。

古来日本では、建国のときの出来事が歌を通じて伝承され、それが古事記や日本書紀に収録されています。以降、天皇の御代替わりの行事で建国の物語を再現し、それを繰り返すことで私たちの起源を後世に伝えているのです。建国に深くかかわった八咫鳥もまた、ずっと国民の記憶に残るでしょう。

ちなみに、歴代天皇の御即位のときには、神武東征の戦いの和歌を、そして天皇が崩御あそばされたときは、日本武尊(ヤマトタケルノミコト)が薨去なさる際の悲しみの歌を歌います。それが2000年以上を経た現在もずっと続いているのです。

松本

五色旗、そして高御座(たかみくら)と御張台(天皇位、皇后位を象徴する座のこと)、同じ理由がありますね。高御座はなぜあのかたちなのでしょう。

竹田

高御座が八角形というのは、もとは中国の陰陽五行説の影響だと思います。それが日本では陰陽道となりました。陰陽道(おんみょうどう)の色彩が色濃かったのは幕末までですが、いまでも残っているものがあり、そのひとつが高御座や御張台だと思います。

松本

日本は異なる文化を否定せず、ともに歩んで自分流に整えていく。それが大和の精神です。

日本と中国、韓国の宮廷文化は切っても切れない関係で、文化的にすごく距離が近い。にもかかわらず、遠い存在に感じます。だからこそこの機会に日本文化を知り、他国との文化交流に発展することを切に願います。

まさに、和合！

最後に、私たち「いやさか」（日本人が守り伝えてきた大和言葉で、本来の生命力をいきいきと発現させ、ますます栄えるという意味）という言葉を使いますね。

竹田

いやさかも君が代や万歳に通ずるものです。天皇陛下がお元気であられ、日本が栄え、そして私たちみんなお幸せにというイメージをもって「いやさか」と唱える。これは言霊ですから。すると日本そのものがまた力を持ち、国民も幸せで、一人ひとり自分らしく生きている。

これは「八紘為宇」（はっこういちう。日本書紀に神武天皇の言葉として記されたものに基づく。私たち日本人はさかのぼれば皆親戚で、日本列島は家である。だからみんなで協力して幸せになろうと説いた）という言葉をもって日本を束ねていった神武天皇の建国の精神そのものです。

松本

まさに「和」ですね。

竹田

天皇陛下が4月末に譲位なさり、新天皇陛下が御即位になります。これは祭祀の継承ということで、三種の神器を受け継ぎ、現在の天皇陛下がなさっている祈りを、今度は新天皇陛下がお引き継ぎになります。

世界ではたくさんの国ができてはつぶれを繰り返してきました。いろいろな国家統治のスタイルがあったと思います。軍事力、カリスマ性、頭脳……。

では日本の天皇はといえば、「祈り」です。

誰も見ていないところで、祈りを通じて国を束ね上げていらっしやった。人々の心がひとつに束ねられ、国土、文化、経済などあらゆるものが強固になり、いまこうして日本という国が存在しています。これが我が国の国体なのです。

松本

あらためて日本人っていいなと思います。

決して自分一人では生きていけない、だからこそお互いを思い合い、その和の心で国家が成り立っている。国民を思って常に祈り続けてくださる天皇陛下という存在を忘れずに、私たちも生きていきたいです。

文：増本幸恵 / 写真：板野賢治

文中図絵：© 2007. Kyoto University Library

※本記事は、『Discover Japan』2019年4月号より、冒頭部分をカットし、一部編集して掲載しております。

参照) <https://discoverjapan-web.com/article/8732>

祈る事の大切さが、何かすーっと自分の中に落とし込まれました。

天皇陛下の事をすごく大切に思えるようになりました。

ありがとうございました。

独断的

第5期 第1講 質問会 筆耕より

私が帰った時に、父親の理念があり、問題を発見しました。コミュニティですから問題があります。うちの父親でいうと、天皇だったので独断的でした。それは良さでもあり、悪さでもありました。つまり、成長していませんでした。

第1期 第6講 筆耕より

宗教の問題は独善性と一人出来上がりです。

一方で、このお勉強の中で、天皇と宗教の問題についても触れられていました。この時に、代表はどういう意図や背景があってこの事を伝えられていたのか、思考を深めてみました。

その枠から出られなくなる

第2期 第1講 筆耕より

その枠から出られなくしてしまい、その人の器以上の人はその中から出てこないからです。そのコンサルタントの先生が信頼されればされる程、その枠以上の事はその会社から出来なくなります。

これまで私自身が独断的な人でしたし、そののどこが問題か分かりませんでした。しかし、その事の弊害を私自身が生み出していました。私を超える人は、私の会社からは出ません。私が正しいという前提に立って関わりを持っている以上、ここからは抜け出せないと思います。

妻との事

私が自分の「一人出来上がり」を認識した時の事です。この勉強を始めた頃、妻との間で問題が起きると、振り返って、自分の間違いに気づいて、「ごめん、次から●●するわ。俺が悪かった。」と伝えて、自分の行動を改めていきました。

そんな事が何回か続いたある日、また新しい問題が出た時に、「ごめん、ちゃんと自分を振り返る。ちょっと待つて。」と僕が行った時に、妻が「一生振り返っとけ！」と怒った事がありました。

当時は分かっていませんでしたが、この時に僕は、「振り返って、自分が完璧になれば問題はなくなる」と思っていたと思います。

これを「独善的」というのではないのでしょうか。分かりませんが、そう受け止めています。　だとしたら、祈って、振り返って、自分を完璧にするだけでは足りないものがある気がします。

今改めて、K アライアンスの祈りがすごいなと思いました。

～ Kアライアンスの祈り ～

人間らしく生きたい。

信頼の関係を築きたい。

人として生まれ、誰もが心から願う事である。

人間として恩を忘れない人でありたい。

感謝すべき人に感謝できる私でありたい。

しかし、その大事な、大切なことが出来ない。

気付いてみると、

恩ある人を平気で裏切り、

感謝すべき人に対して恨みを抱いている。

人間らしく生きる私でありたい

だからこそ、

人が人として、人間らしく生きる為に

高い価値観に基づく「理念」と

共に目指す「目的」の共有が

自己を振り返る上で重要かつ必要な理由が

ここに明確に存在する。

祈りの最後に、『人が人として、人間らしく生きる為に、高い価値観に基づく「理念」と共に目指す「目的」の共有が重要かつ必要』と書いてありました。確かにすごい。理念と目的の共有が重要かつ必要。なんで、こんな当たり前の事に今まで気づけなかったんだ！

妻は、僕が完璧になるだけではなく、妻の心になって聞いて欲しかった。たったそれだけの事だったのではないかと思います。

—後 略—

感想文の公開：②匿名希望

【高次元経営第 5 期 2 講 感想文】

いつもお世話になっております。

楠本代表を始め、スタッフの皆様、第 2 講のご講義ありがとうございました。感想文を提出させていただきます。

前講の冒頭で代表が「私という実態はあるのか？ないのです。」と仰いました。

「私という実態」という言葉が強烈に私の中に入ってきたように思います。

これを自分が実行しようとなると、まず自己自身のことがはっきりしないと、環境と自己自身とのそれぞれの説明が自分で理解できなければ駄目でしょう。自己とはいったい何なのかということです。自己というのは、自分と自分以外の人間、周囲の人間との関係性なのです。その関係性を自覚している自分だといえます。

私の実態は私の中にあるのではなく、周囲の方との関係性の中にあるということ。

今まで当たり前のように私は私として生きてきました。

でもそれは自我の私で、自己の私は、例えば夫との関係性、長男との関係性、次男との関係性、長女との関係性、母親との関係性、兄や弟との関係性、義母との関係性、友人との関係性・・・本当にきりが無いほどの方たちとの関係性の中に私が存在して、その中に私の実態があるということなのだと思います。

私は、どうしても実母のことを受け容れられず、母のことを想うと腹が立ったり、悲しくなったり、モヤモヤしてしまいます。

母から見ると、折に触れ色々な援助をしてくれる親孝行な娘に見えているのかもしれませんが、ただ、私の中には心から母を想っているとは言い難く、そんな自分を母から隠す為の親孝行ごっこなのだと分かってやってきました。

このまま例えば高齢の母に万が一のことでもあれば後悔するのではないかと思いながらも、乗り越えることが難しい感情です。

私は何故、母に対してモヤモヤとした受け容れがたい感情をもっているのか？

母は父への依存心が強く、父のやることに對して自分の考え、意志を持っていなかったこと。

母はいつも「私が、私が…」と自分の事ばかり話すこと。

母は「〇〇（兄や弟）には内緒にして…」と内緒の話をしたがること。

母は私のコンプレックスを軽々しく人前で話し、簡単に傷つけること。

母は私が結婚式前の衣装選びを一緒にしてほしいとお願いしても、忙しくていけないと断ったこと。

母は私の産前産後の大変な時期も、何の手助けもしてくれなかったこと。

母は3人目の出産後間もない私を、（私が断れないことを知っていて）自分の都合で連れまわし、その後私が肺炎になって授乳もできない大変な状況になって初めて謝りにきたこと。

挙げていくときりがないので、その場面、場面で「なんでお母さんはこうなんだろう」と一人で泣いたことを覚えています。

いつも自分勝手に私には金銭的な事も含めて色々な要求をしてくるのに、私が「これだけは（結婚や出産の事で）」とお願いしてもできないと断ってくる。それに振り回されないように自然と母から自分を遠ざけていたように思います。

友人の母親や世間一般の母親像に自分の母親を当てはめて、何もしてくれないこと、いつも無理な要求をしてくることが悲しいやら腹が立つやらで、母を受け容れられず、できれば関係性をもたたくないとまで思っていました。

ずっと心の中で思ってきたことを、初めて書き出したものを冷静に見ると、私は母の一部分を見て、こんなところが嫌、あれをしてくれない、これをしてくれない…と勝手に傷ついていたように思いますし、当時の私には考えられないことですが、今の私には取るに足らない大したことではないとさえ思えます。

そして、

私の中にも依存する心や、軽々しく人を傷つける言動、自分の都合だけで行動する身勝手さなど、きりがなく存在しています。

また、大人になった私が忘れてしまっている多くのことを思い出しました。

母は料理がとても上手で、おいしいものを沢山作って家族や親戚にふるまっていたこと。

母は自分の親以上に、父の親を大事にして最後まで面倒を見ていたこと。

母はとてもきれい好きで、いつも家の中がきれいだったこと。

母は私や兄の友人が大勢遊びにきて、大勢泊まっていても、大歓迎で受け入れてくれたこと。

母は自分の事よりも家族や周りの人の幸せを想い、とにかくよく働いていたこと。

母は父にとっても愛されていたこと。

なぜ、こんな大事なことを忘れていたのか、そして、この母の姿はすべて私そのもののなの
です。

母は私であり、私は母なのだということです。

今まで何を私は見てきたのだろうか、ただ自分を守る為に、「私は悪くない、母のせい
だ」と、自己保身の塊だったのだと思います。涙が溢れて、母に申し訳なく謝りたい気持ち
になりました。

同じことが主人や子供たちにも言えます。

それぞれとの関係性の中に私が存在していること。主人がワクワクして仕事と向き合
う姿や、顧客と信頼関係で結ばれている姿、子供たちが自分の仕事や目標を定め日々歩ん
でいる姿は、私の喜びであり、そこに私は実在しているのだと実感します。

夫が私を妻にしてくれ、子供たちが私を母にしてくれていることを想うと感謝しかありま
せん。

そして、母がいたからこそこの私であり、子供たちだという当たり前のことが分からず感謝
できなかったことを恥ずかしく思います。

私の実態についての振り返りとなりましたが、まだまだ学んでいかなければいけないのだ
と実感しています。

今後ともご指導よろしくお願いいたします。

会社名：Q
役職：代表 氏名：A. K.
年齢：56 歳 (男性)
感想文の公開：①開放可能

【高次元経営第 5 期 2 講 感想文】

2024 年 6 月 3 日

楠本代表、准子さん、いつもご指導くださり本当に有り難うございます。事務局の皆様、準備、設営、運営、本当に有り難うございます。

今回の感想文もなかなか書けませんでした。

しかし、今までとは書けない理由が違っていました。

何かわからないのですが、体の奥の方から人生・仕事への想いがどんどん湧き上がってきてしまい、この気持ちをどうやって言葉にして良いのかわからず、講義を聞き返せば、聞き返す度に感動と興奮が収まらず…。

今も言語化ができると思えないのですが、まず最初に強烈に感じたことは、
私は自然を克服しようとした愚かな『ぶーふーうー』です。

そして、この湧き上がる気持ち（興奮）を言葉にするなら、

人間ってすごい！！！！！！！！

人間って素晴らしい！！！！！！！！

思想に出逢えて本当に幸せだ！！！！！！

このお勉強を仲間と共にできている私は、本当に幸せだ！！！！

と、喜びと感謝の気持ちで一杯になり涙が自然に流れます。うまく言えないのですが、この涙は、衝撃と希望に満ちた、そして何か大きなものに包み込まれたような**安心感**です。正直なところ、苦悶に満ちている私（自我）も存在しているのですが、その自我の私でさえ包み込んでいただいている、とても不思議な感じです。

また、「今まで自分のためだけに勉強してきた」「この思想を大切な人に伝えなくてはならない」という私の薄情さと責任を強く感じました。何のために楠本代表 (准子さん) そして、事務局の皆さんが命を削ってまで、この場を作ってくれているのか、私は全くわかっていませんでした。

私は、感想文を書く時、冒頭で楠本代表、准子さんに感謝の気持ちをお伝えしていました
が、私がお伝えしなければいけなかったことは、

楠本代表、准子さん、本当に申し訳ありませんでした。愚かです。私は、お二人（お上
人様）の気持ちを全くわからず、考えず、2年以上もの間、このお勉強をしてきました。自
分のために勉強をしてきました。思想を大切な人に伝えていく（＝実践していく）。この使
命を私の命を持って勤めたい。いえ、勤めさせていただきたいのです。それをやるのは私で
す。

何卒よろしくお願い申し上げます。

①私は、仕事を創っているのか？

（高次元経営 5_2 筆耕）

「今皆さん各自がやっている仕事の目的は何かということを念のために申し上げます」**今、
皆さん番頭のメンバー1人1人やっているのが、自分が惚れる仕事を自分が創る**のです。自
分が惚れる仕事を今、皆さんは自分で創っているのです。

自分が惚れる自分の仕事。それは**自分が自分で誇れる仕事を自分が創る**。創ろうと思っ
たら、皆さん創れるのですよ。本当なのです。創ろうと思ってないからです。それは「創れる」
の意味なのです。

そして「それ」というのは上述していることが、自分が惚れる仕事を自分が創る。つまり、
自分を創るとは…、それは仕事でしょ。そうしたら「**仕事を通して自分を創っている**という
意味です」という話をしました。

つまり**仕事**というのは**生きている**という意味なのです。**生きる**というのは**人生**という意味
なのです。**人生は自分らしくいかなきゃいけない**のです。**自分らしさとは人間らしさ**だとお
上人様は言っているのです。**それは喜び**なのです。

そして、喜ばれ、感謝してもらえるのです。自分が強くなっていくことで。

その**自分が幸福を創り出している**。その自分が**社会、顧客**というのは**社会**ですからね。この
問題に対して、あなたが仕事をして与えたものが幸福となって必ず自らに返ってくるので
すよ。それは**金銭**なのか**人脈**なのか何かわかりません。

それをまた**社会に返す**のです。私は今、返しているのです。**そのことが幸せを生み**、そのこ
とが**積み重なる**のです。それだけは年を取っても、もっと言うなら**死後**にも**持っていける**も

のだというふうに言っています。

こういうお話をしてくれる会社が好きなのか、嫌いなのかなのです。

私は、このお話を聞いて「自分が誇れる仕事を創っていきたい！」と大声で叫びたくなりました。

自分が惚れる仕事を自分が創る
仕事を通して自分を創っていく
仕事とは生きていると言う意味
生きると言うのは人生という意味
人生は自分らしく生きなくてはいけない
自分らしさをと人は人間らしさ
その自分が幸福を作り出している
その幸福を社会に返す
そのことが幸せを生み
そのことが積み重なっていく

私は、何度も、何度もこの言葉を繰り返し口にしました。声に出す度に「嗚呼、そうだったのか。それでいいのか。本当に、本当に大切なことを教えて頂いた」と心が震えました。

仕事についてまだまだ具体的に言葉にはできていませんが、「自分が誇れる仕事を自分が創っていく」、そう考えると私はなんとちっぽけなことに悩み、苦しみ、そして大切な人（家族、仲間、顧客）を苦しめてきたのか。そんなことに構っている暇はない、私は、社会、顧客、チーム、家族の問題と向き合いたい！と勇気が湧いてきます。

私は、奇跡的に思想に出逢い、自己の振り返りを通して、仲間との新たな出逢いと新しい仲間との出逢いがあり、自分が今まで、仕事というものをどのように捉えていたのかが
わかってきました。

私は今まで、仕事は自分にしかできない特別の技術を身につけて、今、相手がしたいこと、困っていることをして差し上げる。そして役に立つ。そして感謝される。そして立場とお金が入る。その立場を使ってまた選んでもらう。これが仕事であり、社会の一部の役割を担うことになると本気でそう思っていました。そのことに全く疑いを持ちませんでした。

私が目指していたことは、誰かが作った仕事を真似して（スキルを手にして）、それを使って「お金」と「立場」を手に入れようと努力してきたと知りました。「自分で仕事を創る」という発想はどこにもありませんでした。そして「自分で仕事を創る」ことが「私自身を創る」ということも全く知りませんでした。

Sさん、Mさんのように「自分で惚れる仕事を創り出している人」と出逢い、本当にかっこいい。私もあのように生きていきたいと心から思いました。そしてもう一つ、このことを実践している（そうでありたいと心から願っている）方々の会話に出逢いました。

先日、KKさんがSさんにヒアリングをした時の言葉を共有していただきました。

Sさん：充実した人生（毎日）を送りたい楽しい、うれしい人生（毎日）を送りたい。

KKさん：その為に具体的にやるべきことは何か？

Sさん：目の前に起こった問題（クライアントの問題（潰れそう等）、組織の問題（クレーム等）・家族の問題）を自分の問題として逃げずに全力で向き合う事であり、縁のあった方と一緒に価値創造していく（今回のKKさんのように）事だと捉えています。

KKさんの関わりからこのように感じているSさん。Sさんにそのように関わっているKKさん。この二人はなんという会話をしているのか！言葉では言い表せない何かを感じました。

私は、これから自分が誇れる仕事を自分で創ります！

②依存させるための問題解決

私はこれまでの振り返りの中で、顧客の問題を私が勝手に特定し、その問題を私の専門分野で解決することで褒められる。その一方で専門分野以外は踏み込まないことで相手にとって心地よさを感じさせる。その結果相手を依存させ、顧客を危機に晒してしまう。このようなことをしてきた自分を知りました。そしてこれは、メンバーにもしていました。

（高次元経営 5_2 筆耕）

問題解決とは、『依存させないこと』なのです。弊社の1人1人のメンバーが将来やいろんなことの過程においても不安があったり心配するということは、「問題」なのです。私が問題を解決するためには、その部下なら部下に依存させないことなのです。私が助けるのではない。本人がそれを解決できるようにしてあげることなのです。

これは子供の教育も一緒です。小さい子供さんがいる人はよく勉強してください。子供は国家の未来です。**問題解決とは共に道を歩くものという意味**なのです。我社の場合は、問題解決は、**そのことを通して信頼の関係を構築していくことを問題解決**といいます。

何ということなのでしょう。「問題解決とは、共に道を歩くという意味」「問題解決は、そのことを通して信頼の関係を構築していくことを問題解決という」。愕然としました。**問題解決の次元が全く異なります**。

そして私は、とても運が良いことに、この次元の異なる問題解決の意味を体験させて頂きました。

昨年から約1年間、当コミュニティではSさん、Kさん、Mさんに支援して頂き有機体人事制度の導入に取り組みました。今振り返ると今回の講義にあった、「**問題から訪ねていき、思考のプロセスの中でいくつもの階段ができる。その最後の手前の階段からお客さんと一緒に登っていく**」ということをして頂いたのだと、この言葉を聞きそのように受け止めました。

この1年間のプロセスは、本当に陰しいものでした。進めば進むほど、自分の価値観が出てくるのです。自分がチームに対して依存していたこと。どうしても能力主義の頭でコンピテンシーを訳してしまうこと。仲間の仕事の問題を無視していたこと。KKさんが正解だ！と責任を放棄していたこと。私だけではありません。各メンバーが自分の問題が露呈し、それが重なり合いチーム全体の問題になる。

その一つ一つの問題に、Sさん、Kさん、Mさんは、丁寧に、優しく、そして厳しく、共に道を歩んでくれました。

そうしたら我社の問題解決は仕事なのです。**こんな素敵な仕事をやるのを** The 番頭と言うんですよと言ったんです。

皆さん、問題の本質を知って、問題の本質にたどり着いた道、**プロセスを一つ一つ共に上っていくこと。その仕事そのものがもう幸福なのです。**

今回、確信したことがあります。

素敵な仕事を受けた側の私は、こんな素敵な仕事をしたい！顧客と共に歩みたい！と強く思いました。私は、Sさん、Kさん、Mさんからプロセスを一つ一つ共に上がっていくことを感じさせて頂きました。本当に有り難うございました。

当然のことながら有機体人事制度は、やっと、ようやく、スタートに立ったところで
す。今回の講義でもあったように、常に形を変えていき、その中で私たちが成長していく
のだと確信しています。

③「運がいい」とは思っていない

私は、私のようなものが、絶対に出逢えるはずのない思想に出逢えて本当に有り難いと
感じています。「私は運がいい」と思っている、と思っていました。

(高次元経営 5_2 筆耕)

「今、生きてこうやってお話を聞いていることがどれだけの感謝すべき運がいいことなの
か！ということを思っていない人がいたらうちの会社をやめてくれ！」とこうを言ったの
です。

そんな人ばかりで行ったらそれは上手くいく。いかないはずがないなと思いました。なぜ
なら自分のことを運がいいと思っている人は、少しぐらいの逆境でも諦めたり腐ったりせ
ず、真正面から立ち向かい乗り越えてしまうからです。

「自分は運がいいから絶対大丈夫」と自分を信じているからです

この話を聞いて、私は本当に「運がいい」と心から思っているのか？いや、思えていな
いのではと受け止めました。なぜなら、今だに問題が目の前に現れると、一瞬怯んだり、
なんでこうなるんだ！！と腐ったり、結局俺には、無理、だって〇〇だからと考えてしま
う自分がいます。部分的に「運がいい」と思い、部分的には「運が悪い」と思っていま
す。自分の価値観で勝手に「運がいい」「運が悪い」と決めています。

これは、「今あるものに満たされない者は、これからほしいものにも満たされない」と
同じことを言っていると感じ止めました。

では、私が満たされていると感じているものは何か？

- ・思想に出逢えている。共に歩む仲間、顧客がいる。
- ・関係性が変わってきている。
- ・絶対に自分では気づくことのできなかった自分の価値観に気付くと同時に、自分一人では絶対に
出逢えなかった「自己」を知ることができる。

では、満たされていないものとは…

- ・妻との関係性に踏み込めていない。

- ・自分が惚れる仕事を自分で創れていない。
- ・時折、お金、健康、立場について不安になる。

書いていて「私は運がいい」と改めて思いました。その理由は、この満たされているものを見た時、本当に、素敵だな、嬉しいな、という言葉にできない喜びと感謝の気持ちが湧いてきたからです。

こんなことは数年前の自分では絶対に書けませんでした。数年前に書いたら、収入がどう、出版ができた、こんなすごい顧客がいる、あんなことができている、と書いていたことだと思います。そして、満たされないものについては、もっとお金が、もっと立場が、もっと家が、「よりよくしたい」「向上心」という体のいい言葉を使って、求めて、求めて、その結果、不安、孤独、虚無感を感じていたと思います。

ここまで書いて気づいたことは、「満たされないもの」を書き出しましたが、これは満たされないものではなく、これから私が向き合うものであり、道の上にあるもの、だと受け止めました。

最後のお金、健康、立場については、そこに執着するのではなく、理念・目的に向かっていけば、それが結果として必要になってくる。それが本当に必要なら、そこにあるものなのでは、と思いました。これに関して今のところ「理解」で留まっています。

④私（社会、組織、世界）を形作っているもの

（高次元経営 5_2 レジューメ P25～）

脂肪組織を驚くべき速さでその中身を入れ替え、見かけ上、貯めているふうを装っているのだ。全ての原子は生命体の中を流れ、通り抜けている。

（中略）

肉体というものについて私達は自らの感覚として外界と隔てられた個物としての実態があるように感じている。しかし、分子レベルはその実態を全く担保されていない。私達生命体はたまたまそこに密度が高まっている分子の緩い「よどみ」でしかない。

しかもそれは高速で入れ替わっている。ものすごい勢いで。この流れ自体が「生きている」ということであり、生きているのです。

（中略）

生命とは、代謝の持続的変化であり、この変化こそが命の真の姿である。

(中略)

つまり、エントロピー増大の法則に抗う唯一の方法は、システムの耐久性と構造強化することなどでではなく、むしろその仕組み自体を流れの中に置くこと。つまり流れこそが、生物の内部に必然的に発生するエントロピーを排出する機能を担っていることになる。

講義中、楠本代表とこの文章を読んで、私は興奮しっぱなしでした。私の頭の中の何かが爆発（ぶっ飛んだ）しました。

私は、内と外をずっとずっと分けていました。大学生の時、日本人と欧米人の「ウチ」と「ソト」に仕分ける文化について論文を書きました。解剖生理学で「体の中」について学び、細胞について細胞壁を学びました。「分かれている」その上で関わり合っている」という考えを人間関係、ビジネスで取り入れました。

その根底にあったのは、私は、私の細胞（だけ）で形作られている。私が存在できるのは、私という形があるからだ。だからその形作られたものを磨き、社会的に価値（評価）があるものに成長させれば（私は）生きていける。その成長とは、能力である。と考えていることを知りました。

(高次元経営 5_2 筆耕)

それから「自然というものは、自己の法則を破らない」と言うのです。つまり自然の動きというものに心配してないのです。それが自然というものは自己、自己と自然は一緒ですからね。

これは（法則を）破らないっていう。その自然の中の自分であることを消し去るのを近代というのです。近代は、自然を克服しようとして、レンガを建てて「ぶーふーうー」じゃないけど、エアコンを入れて、外界と絶って、風があつたら避けるから始まる、その分離なのです。

近代なのです。これが、自然の中の自分であることを消し忘れさせてしまってきたのは近代の自我ということなんです。

私は、自然の中の自分であることを消し去った「ぶーふーうー」であることを確信しました。上記の福岡先生のお話で言うと「システムの耐久性と構造強化」を行なっている愚かな豚で、「何があっても大丈夫のように、何があっても素敵な私でいられるように、自我理想（立場、家、家族、お金）を作り自分を守ろうと（飾ろうと）してきました。そし

て一旦、形ができれば、どうやってそれを維持し、壊れないようにすればいいのかと努力する（不安がる）。

しかし、このお話では、私が「ある」と信じて疑っていなかった「形」は、分子の緩い「よどみ」でしかない。つまり「流れ」が生きているということだ、ということです。

このお話を聞いて、私は今まで一体、何を信じて生きていたのか？自分が信じてきたものが崩れ去ったと同時に、自分が今までなぜ、周囲と分離して生きてきたのか？周囲の評価を気にしてきたのかがわかりました。本当にショックでしたが、ある意味、肩の力が抜けました。

その時、私はあることに気づきました。もし、私が思想に出逢っていなかったら、振り返りを通して、仲間に支えて頂きながら、仲間・顧客との関係性が変わったという体験がなかったら、このお話を「そうなのか！おもしろいな～」と単なる知識として聞いてしまった。ここまでのショックと希望を感じることはできなかったと思います。

補講の時間になり、代表からお上人様の「自己組織性の原理」「相互共存性の原理」「多様性価値の原理」のお話をお聞きしました。当然のことながら全くわかりませんが、このお話と、私（過去、今、未来）とがつながっている感じがしてなりません。

相互に関係し合う自然のシステムは宇宙に包含された万物を緊密に結び付けている。相互共同の補完性を通して互いに支え合っている。即ち、我々人間と共存するこの宇宙における一切の存在は相互に全て関係性という条件の中で、例外なく保証されている

これがメンバーで共有されるかどうかですね。**事実がこうなんです！**

個々の個体が無限に拡大したり成長したり、独善的な支配力を暴走させたりすることはできないように設けているのですよ。これが関係性の原理だと。

その次、
つまり個人の願望を達成する欲望がいかに巨大であってもそれだけの条件では、その願望は達せられないんだということになる。

その次、
独自の主体性の構造が含まれており、その主体性が独自であることの尊厳性をそれぞれの主体が、尊厳性を深く自覚する当事者であることの意義には、軽からざる価値があること

も理解しておく必要がある。

(アンダーライン=お上人様の言葉)

「関係性によって保証された主体性」「他の者との関係の中で自発的に自主的に発展していくようになっている」それが法則であり、原理原則なのに、それなのに、私は「自分さえ良ければ…」と考えるてきました。事実がこうなんだ！と教えていただいているのに、私はまだ、自分の価値観で認識し、それを信じようとしています。私は宇宙の原理原則に文句を言っているのです。「それでも私の方が正しい！！」と。こんな愚かなことはありません。

講義の中で、「科学的研究でないものを科学の領域の現象として捉えることを認めることはできませんと、多くの科学者は拒否した」というお話を聞きました。この科学者は私のことでした。

私が定義していた「私」は、存在していなかった。私は、全体の一部であり、私の中に全体がある。私はとても大きなシステムの中に生かされている、という感覚になりました。同時に、思想に出逢った私の責任の重さを感じています。

この自分の現実を知った後、もう一度、動画を見返しました。そして唖然としました。楠本代表は、ずっと同じことを伝えて下さっているのではないか？「人（命）は関係性の中で存在している」という事実を。理念に基づく目的を。

私自身のことを決して忘れないように、ここに書き記します。

代表：勉強したことで、気づきを書く。それが本来の学問。正直に書く。自己を知る。自己を確立して行く。これを成長と言う。現実の環境を変えるために。

↓

私：何が求められるかを調べ、その能力を身につける。それが勉強。知識・技術を身につける。これを成長という。私が幸せになるために。

代表：現実の環境には私は私の身近なところに妻やスタッフのメンバーがいてくれる。この人たちに対する貢献。一つなのです。

↓

私：私の環境には、あなたのリソースがたくさんある。これを揃えに行くんです。この人たちを利用するのです。自分の人生を大切にすることです。

代表：書いてみる。それが今の自分。その自分をありのまま受け止め、知る。

あなたは何者ですか？と問われる。自分を語れるようになるのです。

↓

私：やってみろ！それが今の私の能力。足りないのだからもっと知識、技術を身につけろ！
あなたは何かができますか？と問われる。自分をアピールできるようになるのです。

④結果はついてくる

(高次元経営 5_2 筆耕)

年を重ねるごとに貯めていくものは一体何でしょうか？スキルでしょうか？思考と行動は、スキルも金銭も人脈も手に入れていくのです。結果ついてくるのです。

私も今回東京でご挨拶させてもらった時につくづく思ったことは、「こんなものを計算してできるか！」と。想像つかないことなのです。私にとって。皆さんにとってみたら大したことがない。私にとってみたらとてつもなく大したものです。もう「生きててよかった！」というようなことなのです。

それはもう、若かりし頃から、憧れているところで、そういうことができて。遠くにいる人にご縁を持ったいろんな方からお話をいただいたりする。そういう人間関係も結果ついてくるものなのです。それを目指したものじゃないのですね。

目指すのは目的なのです。寄って立つのは理念なのです。

私は、年を重ねるごとに貯めていくことは、信用（立場）だと思っていました。そして信用（立場）を手に入れば幸せになれる、と信じていました。また、信頼と信用の意味をわかっていなかった私は、立場は信頼にもつながると勝手に思っていました。そして、このお話を聞いて衝撃的なことに気づきました。

私は、努力すれば「結果がついてくる」と思っていました。その意味は、

- ・私は、憧れた立場（生活）を手にした。
- ・その為にはスキルを磨く。
- ・そうすれば結果がついてくる！

という意味だったのです。

代表のおっしゃっている「結果がついてくる」とは全く意味が違うのです。前提というか、スタートというか、立っている場所、目指しているものの次元が違っていたのです。そして、憧れた立場（生活）を手に入れるためにどうすればいいか？を一生懸命考えまし

た。これを思考するのだと思っていました。スキルを手にするために努力しました。これを、主体的に生きるだと思っていました。

目指すものは目的。寄って立つのは理念。

私は、「目指すのは立場。寄って立つのは私の価値観」でした。そしてこれが主体的に生きること。自由になること、だと本気で思っていたのです。この言葉を言い換えると、「目指すのは世間の評価。寄って立つのは近代合理主義」。書いてみて唖然としました。恐ろしくなりました。ここには「私」というものが存在していません。

正直なところ、今私は、大きな問題を抱えています。それは、妻に本気で向き合えていない。つまり、妻との関係性における私の問題と向き合いきれていない。それは、その私の問題を私が受け入れられていないのだと受け止めました。

私は、今まで妻にしてきてしまったことを考えると、それを確認するのが本当に恐ろしいのです。私の想像以上に辛辣な言葉が帰ってきたらどうしよう。いや反対に、「なんとも思っていないませんと」相手にされなかったらどうしよう。考えるだけで本当に恐ろしくて、苦しくて。しかし同時に、それって俺だけの問題なのかよ！なんで俺だけが苦しまなくてはいらないんだ！と相手を責めている気持ちもあります。

これは 2 年前に、妻に涙しながら自分の価値観の間違えを伝えたら、最後に「根本的には、あなたは自分のために話をしているのかなとは思った」と言われた（言っていた）ことがトラウマになり、この先、私が振り返りをして、対話をして、また、同じことを言われてしまうのではないかと？つまりそれは、私はいつまで経っても自分のことしか考えられない人間なのではないかと？このことを考えると体が硬直してしまいます。

しかし、それは結局のところ、これを言ったらこうなるのでは？と私が計算しているから恐れているのだと受け止めました。「お前は関係性を計算して作ろうとしているのか！そんなもん計算してられるか！」楠本代表（お上人様）の声が聞こえてきます。

今、私は心から、理念・目的を目指したい！自分が誇れる仕事を自分で創りたい！私は、自分の人生に責任を負いたい！大切に大好きな妻と、真剣に向き合いたいと、心が叫びます。

⑤何のために、この勉強を聞いているのか？

しかしながら、私がここでお上人様の責任を負って、伝えなくてはいけないものは、「それらをも含み、そしてそこに留まらず、終わらず、それらを超えて、行動に出る現実を変える

当事者。そのことが更なる「真なる安心」だろう、と思うわけです。

だから、経営者という人に絞り込んでお上人様はこの高い価値観を説かれたのだろうと思うのです。なぜなら、損得という、醜い、人間の最も汚い計算と駆け引きの渦の中で、だから、だから、それで言うとその中に真剣に生きないと会社潰れてしまうではないですか。

真剣な経営者って必死ですよ。だから必死で生きている人が、その経営という世界の中にいるということが、多分お上人様はわかれたので、経営者の人ならわかるだろうと思われて、人間学講座を始めたのだと思うのです。

是非、それに応えて行きたいじゃないですか！

こういうお勉強していただいてね。是非、部下や、それから大切な人に、僕が今やってるように、お上人様がここに座られて、ここで受講されている皆さんが、皆さんの個性を生かして、私と同じようにではなくて、私以上にお話ができる人になるために聞いているのです。

それを足でこっちにやっついて「あんたはそうやけど、俺は儲けるために聞いている私でした！」と書いたら次に行けるのです。

でも書かないで、思っているだけだったら、それを反省と言います。猿でもできます。そして、それを伝えなきゃいけない人に伝えたかどうかなんですよ。もしそれが妻であるなら妻に言わなくてはならないし、部下であるのなら部下に正直に、僕は、言わなければいけないわけです。

お上人様、楠本代表、准子さん、誠に持って申し訳ありませんでした。私は、お上人様、楠本代表、准子さんの想いを無視して、それを足でこっちにやって「そんなことは無理。私にはできない。だからせめて、お勉強を一生懸命やって、そしてできるところから自己革新していけば、少しは恩を返せるのでは、と自分の価値観で「できる／できない」を判断して、その結果、自分のために勉強をしていました。

できる／できないではない。私が私の個性を生かして、思想を大切な人に私の自己革新をもって伝えます。目の前の現実と向き合います。そして、大切な人（妻）対話の実践を行います。焦らず、慌てず、腹を括って進めます。そのためにまずは、自己と向き合います。

このような受け止め方について、間違っている点、足りていない点、どうかご指導よろしくお願い致します。

会社名：A
役職：マネージャー 氏名：K.S
年齢：23 歳 (男性)

感想文の公開：①開放可能

【高次元経営第5期2講 感想文】

代表、准子さん、事務局の皆様、本講も貴重な学びの場をありがとうございました。「心の慰安を越えて、現実を変える当事者になることがより安心を生む」という言葉に勇気をいただくと同時に、「自分が自分の意思で両親を選んで外へ出てきた」という事実を教えていただき「自分は一体この両親から何の為に？」という自己の根源について考えるきっかけとなる智をいただきました。この事実と向き合う事を通して両親に対して一段深い感謝ができるようになりたいです。

講義全体を通して、成長したと思っていた自分もやはりどこまでも近代に染まり切っており、全く思考できていない事を認識しました。今回も振り返りの開放を通してそのような自己と向き合います。

■ 皆さんの感想文を拝読して（「共感」について）

本当に自分と同じなのだ。同じ人間なのだ。という本来はごく当たり前の事に感謝が深まりました。これが、この勉強を共に学ぶ仲間が存在なのだとかれまでに感じたことがなかったことを感じました。自分が向き合って変化しただけ他者に貢献できるということがこれまでよりも腹落ちし、感想文を開放されている皆さんに教えてくれてありがとうございますと唱えながら拝読させていただきました。

特に、U.Rさんの感想文からは映像が浮かんでくるような従業員の方とのやりとり（問題）を通じて自分の仕事に対して「小さなこと」と決めているのは自分なのだとことに気づかせていただきました。

相手には、相手の宇宙がある。世界がある。視点がある。それは自分如きが思い上がりで、決めつけで入り込んで良いものではない。

敬意をもって、分からないという前提を確信して、だからこそ分かりたいと思う（自己と向き合う）、そこからしか共感は生まれないのだと思います。共感力が求められる時代で紹介のあった本に足りないものは「真の共感力を身につけるには、自己と向き合う」という点だと思いました。

これまでの自分は「経験すること」で「共感すること」ができるようになるとごっちゃにしていました。「経験」は「知っていること」で相手の抱えている事柄が自分の経験と重なることはあり得ます。しかし、「相手には相手の宇宙がある」という点を踏まえると、相手

と相手が抱えているその事柄には関係性があり、それが自分の過去の経験と同じであるとは限らない、というか違う。だから、自分が経験したことで相手に共感しようとしてもどこか寄り添えないのは、この理由ではないかと思いました。裏を返すと、経験していなくても物事を関係性で捉える有機体システム思考を体得することで、相手に寄り添える（共感できる）のだということです。

今の私自身の話でいくと、この人ちょっとめんどくさいなと感じる人が仕事場にいます。その人は、何でも逐一報告し、何でも首を突っ込み、何でも意見をいう方です。社歴も長くしっかりと言われた仕事ができるタイプである点と、一度休職されたこともあるセンシティブな方なのでどう伝えるべきかまだ分かっていませんが「それを今話す必要がありますか？」と言いたくなる事が何度もあります。

自分よりも現場に近い方の意見は何でも聞こうと思い接してきましたが、何かと避けてしまいたくなるし、話しかけられると億劫な気持ちになり、間違いなくしっかりと話を聞けていないと思います。

「そもそも今あなたが考える領域ではないのでは？まだ、不確定な要素が多い事をあれこれ言ってどうするんですか？それって愚痴ですか？部分的なところで色々と主張していますが決定に責任持てるんですか？しかも、意見が一方的でマネージャー陣の状況とか配慮していますか？誰がどうか批判してどうするんですか？」などと言いたくなりながらも、嫌に感じるのはその方の背景にあるもので自分が持っているものだと言い聞かせ休みの日に自問自答していました。

私自身が、御意見番になっていないか？私は、不満を言って会社のよくない文化を形成していないか？と言う自分の無意識を考えさせられると共に、まず私自身が心からこのことを教えてくれている相手へのリスペクトを持つ必要があると思います。

理由は分からないが、過去に休職したところから帰ってくるということは、自分では考えられないくらいの勇気が必要だったのではないか？それはどのような？周りの全てに首を突っ込むという事は自分の評価を気にする、承認欲求が高い人であるのかな？それなら、尚更、休職することすら、勇気のいる行動だったのではないか？

ただ、戻ってきた後もスタンスが変わっていないと言うことは、この人は今も休職前と同じことで苦しんでいるのではないか？と言うか、今後寧ろ加速するのではないか？それは、会社にとってもその人にとっても良くない。

休職前に会社への愚痴や不満を言っていたが、何かを期待して戻ってきてくれたのではないか？（もちろん他の理由もあると思うが）今の社風はそれに見合っているのか？見合っていないから、その方も変わらないのではないか？つまり、その方が変化するきっかけを踏み躪っているのは、自分自身という事になります。

だからこそ、やはり、母親の話を聞こう、共感して聞き切ろうと腹を括って接してきたように、その方とも接する必要があると感じました。母親との関係性が変わった出来事を通じて、自分は何も学んでいない。いや、母親との関係性が良くなったと思い込んでいるだけで、その考えすらが危うい。一時的な慢心が今後もっと大きな問題を引き起こす可能性があるという事を想像しました。

自分が、何かめんどくさいと思って億劫になっているその方は、自分と自分の母親との関係性を助けてくれる存在になるかもしれない。そう思って接していこうと思います。

■ 第1講の振り返りからの振り返り（彼女が教えてくれたことからの気づき）

彼女とは一緒に恋愛論を聞かせていただいた事もあって、高次元経営という学習の存在は彼女も知っていて、自分が学びに行っている事も知っているので、高次元の講義の後やイブニングニュースの後は電話で話すことも多くあります。

私は講義後、いつも何かフワフワした興奮状態で、代表が人間学講座で学んだ事を准子さんに逐一報告していたというような話を聞いていた事もあり、良い事をしているという感覚で学んだことを報告していました。しかし、それが「自己顕示」になっていた事が、第1講振り返りで記述したモヤモヤしていたものの正体なのではないか?と思いました。

心から感動したこと（自分はこう思っていたけど、実際はこうだった、こういうことを教えてもらった）を話すことからスタートして、まだなんか伝えないといけない、高次元という勉強は凄いという事を分かって欲しい、という背景で話をしている自分を認識した時、その自分に、自分自身がモヤモヤしたからです。

それは、恥ずかしい自分です。虎の威を借る狐である自分です。過去に彼女から「何か嫌な感じがする」と言われた正体はこの事であるような気がしました。

彼女が「なんか嫌って言うてもうまく言葉にできないから私も考える。」というようなことを言ってくれ、自分を突き放すのではなく一緒に考えてくれようとしていることに感謝を覚えたという事を1講の振り返りで記述しましたが、後日電話した際に「突き放されるような感覚だったから、そう言ってくれたことが嬉しかった」というようなことを伝えたことがありました。

その時に、彼女は「私もなんか突き放されているような気がしてた」というような事を言っていて、私自身が突き放されることを恐れていたからこそ彼女と一緒に考えてくれることに感謝を覚えたのに、彼女が突き放されているように感じているって不思議だなと思っていました。

「突き放されることを恐れている自分は、無意識のうちに相手を突き放してしまう」とい

う事なのではないか？という一つの自分自身に関する仮説が生まれました。

だから、第2講の学びを共有する電話は、「そこに彼女がいる」という事を特に意識して行っていたと思います。一方的な内容の誇示、共有ではなく、これまでの二人のコンテキストは、何があったか？彼女前にこんなことで、仕事で悩んでいると言っていたような気がする。それと結びつく内容ってこれじゃない？これなら話せるかもしれない。彼女にもう一度その悩みについて聞いて確認してみるところからスタートしました。

だから、別に言いたいことを持っているのではなく、あくまで彼女を知ることを通じて自分を知って、自分と向き合うことを通じて思想学習で頂く言葉が自然と腹落ちした自分の言葉になるという感覚です。

そういう意識を持って臨んだ電話では、前回のような「嫌な感じ」が私の中にもありませんでした。ただ、「思想学習を一緒に勉強して欲しい」であったり「思想学習が凄い学問であると分かってほしい」というものが独善的な「自己顕示」になった時に相手に伝わらないだけでなく、嫌なものを感じさせてしまう（私自身が感じてしまう）のだということです。

この気づきもまだ本物ではない気がしています。というのも、気を抜くと直ぐに何でもかんでも話してしまうからです。しっかりと言語化できた時に、「あの時、なんか嫌な感じって言ってくれた話だけども・・・」と言って話したいと考えています。

また、このやりとりを通じて、私が計算して焦って「一緒に思想を学ぶ必要がある」などと観念的にものを考えなくても、この人となら一緒に学べる日が来る気がする。と思えました。これまでの自分の価値観で行ってきた恋愛とは次元が違うという事を感じています。本当に有難うございます。

また、彼女とのやりとりと同じで、仕事場でも私は同じ問題を抱えています。私は例えばソクラテスの「今あるものに満たされないものは、これから欲しいものにも満たされない」という言葉を見た時「ほら！今会社で文句ばっか言っている奴！全員聞けよ！」と言いたくなるような醜い性格です。

これを自分だとして受け入れた上で、この思いや個性を活かして成長していくには、やはり自分の言葉を持つ事だと思います。意識して出てくる言葉（自我人格）には計算があります。言ってやろうと思って言う時は、力んでいる割に全く効果を発揮しません。これは、仕事でうまくいかない時も同じです。このソクラテスの言葉に本当の意味で感動し、共感しているのであれば、然るべきタイミングで、計算なしに、勝手にその言葉が降ってくるのだと感覚的に分かります。言うべき時に言うべきことが言えます。それが他者との出逢いを創るのだと思います。

この論理でいくと、結局、彼女が嫌な感じがしたのも結局自分の言葉になっていないものまで沢山ペラペラと話しているからです。ここが「虎の威を借る狐」である自分で、自分の大きな問題として変わっていく必要があると捉えています。

■「自己組織性の原理」を読んで

一つ一つの言葉が、重たく、理解できそうで全く分からず、何かとんでもない事が書かれているという感覚を受けながら読み、講義を聞いていました。講義の後読み返していると、やはり何か没頭させられる言葉の羅列というか、深いものに入っていくような、読んでいて分からないもの、理解できないものに対して普通は読むのが嫌になってしまうのに、夢中にさせられるという不思議な感覚を覚えました。

と同時に、これまでの講義でもそのような言葉をたくさん貰っているはずだという畏れを感じました。もっと、丁寧に、深く学び直さなくてはいけないということが本当に迫ってきていると感じます。まだ、自分にどこかブレーキを掛けてしまっているそんな自分と向き合っています。最近、仕事の夢を見ます。「やばい寝坊した！」と思ったら休日だったりします。夢を見るときは睡眠の質が下がっていると言いますし、基本的にネガティブな内容が多かったので、「ああ、今自分は仕事から逃げたいのだな」と認識していました。

小中高の時は、その対象が野球であり、高校3年では受験勉強に変わり、大学の際は学校の論文や単位、バイト先でした。これまでの自分はそういう夢で魘されるような事があると全てネガティブに捉えてしまいましたが、今の自分はそのようなグワーッと起き上がることが重たい朝を迎えても、負けずに頑張ろうと思えます。これは「今向き合えば成長できる」という事が感覚的に分かるからだと思います。向き合うべきものから逃げずに頑張ります。

学んだ思想をご自分の思考原理として実践する為の「質問会」

(高次元経営 第5期2講「質問会」に向けての質問)

会社名：A

役職：マネージャー 氏名：K.S

① 質問（問題）の要点

「私がこの大企業の中でどうあるべきか？」という事を改めて模索する上で記述します。仕事そのものに目的を見出せておらず「大企業の問題を少しずつ認識しながら、思想学習に勇気づけられる自分」程度で結びついていません。

早く飛び出して「アンチ大企業」としてやっていけば良いのでは？など考える自分もいます。これは本当の強かさではなく、逃げる場所を作ること、分離し、楽をしている自分だと思っています。「大企業の経営者」としてこの組織が進化していく、パラダイムチェンジしていく

為に何も知らない未熟者の自分だからこそ疑問を開放していく必要があると考えました。前置きが長くなってしまいましたが、以下が質問です。

1、私の所属する広大な企業の、その中でも利益を生み出さないコストカットの部署である私の部署（組織）が構造的に抱える問題とは。

2、新しい取り組みや決定に対する動機づけが「ビジネスとして正しいことだから」からしか生まれない組織で真の「仕事」はなし得るのか？

② ①の質問（問題）の背景を具体的に

「1」について私の考える問題点

・「変動コストの目標を達成すること」がこの部署（組織）の「全体」になっていて仕事=人生の「目的」が生まれない。（生まれないと感じているのは自分であり、レンガをただ積むしかないと感じているのも自分なのでここは「③あなたの考え」で記述した私の考えの方向性が正しいのかを確認させてください。昨年6月の質問会で「組織の全体（U.S 本社を含めた）を知るところから」という事を教えていただきましたが、壁を感じているため記述させていただきました。）

・他部署との依存が部署内での「変えられない制約」となり、部署間での交流や連携が薄い。
・この部署がどんな役割を担っていて何をすべきか？は教えてくれるが、「顧客への貢献」から派生した「全体の成り立ち」を踏まえた上で私の部署の立ち位置を教えてくれる人がいない、というか大きくて複雑すぎて誰もそのようなことを疑問にすら思わないから、「利益を生み出すイーコマースに対して少しでも安く届ける為の現場」程度で真の顧客への貢献を考えることができない。

・リアルさに欠ける。「コスト」とは言うが、自分の行った改善や行動が目に見える形で現れない=過去にミスをしてしまった時も一番謝るべき対象の「顧客」は他部署の管轄にあり、他部署に謝るしかない。そのインパクトも見えない・聞いてみたがピンと来ない。良い改善をしたらしたらで「数値化」は出来るが構成要素が多すぎるので「概算」でしかなく本当に会社が良くなったのか？と言う疑問が拭えない。だから、何かのゲームをしているような感覚になる。真の責任感を持っていない気がする。

「2」について私の考える問題点

・ビジネスなのでコストカットは大事だが、「何故この数値目標なのか？」「何故この取り組みを行うのか？」という決定がトップダウンで、現場が心から納得できるものではない（そんなことを疑問にすら思わない人がほとんどである）ことに加えて、そこで増える現場の負担は考慮されていない為「現場のマネージャー陣で上手くやりくりしてね」となっている。

これをコーポレート（中枢のホワイトカラー）は良かれと思ってやっている。これが、現場の奴隷化と思考停止を生んでいると感じる。

・基本的に「全拠点同じ・標準化」と言う前提なので、トップダウンの決定には同調圧力すら感じさせるものがあり、過去の決定に対して異議や反論が唱えられたことがないが、現場のマネージャーは導入されたものに対して不満や愚痴を述べていることが散見される。

・足し算的思考しか存在していない為、長年いる方に話を聞くと「2年前と比べてメトリクスの数も仕事量(ルーチン)も2倍くらいにはなっているよ。給与は変わらないけど。」と言っており、付加価値が出ていないのだから給与は変わらないにしても、仕事量に関しては私自身も既に1年でそれを感じている。

福岡のリーダーに「業務の引き算や棚卸しをしないとどんどんやるべき仕事が正しいからと言うだけで増え続け、コスト目標はどんどんキツくなる。それでいて目的がコストカットにしかない現場を担っている自分たちの喜びはあるのですか？正直コスト目標を達成しました！と言っても、また次のコスト目標がくる。その繰り返しの中で私は目的意識を持てていませんが〇〇さんはこの仕事に目的意識を持たれていますか？トップダウン的な要求と決定に愚直に従った結果であり、自分たちは優秀な作業員になることを求められているのですか？」と言うようなことを話したこともあります。

リーダーの答えは「組織の目標に従うのは当然で、矛盾や制約がいっぱいあるのも分かるけど、そのプロセスやエグゼキューション（実行段階）は思考できる。そのプロセスで成長や喜びは大いに感じる事ができる。ただ、仕事内容そのものに意義や目的を見出そうとしている人はそんなにいないと思うから、それは金丸さんのすごいところだと思うよ」と言う回答でした。その部分（プロセスを通しての成長）は大いに納得しましたし私の一年目を振り返っても的確な言葉ではないかなと思います。ただ、私の求めている「仕事」とはどこか違う。上手く言葉にできませんが「パラダイムは変わらない」という前提である気がしました。

第一講の感想文でも記述しましたが、「現場」を持っている私達の部署がトップダウン的に落ちてくるルールの変更や、意義もしっかりと理解していない新たな取り組みに翻弄され、どんどん目的不在になり忙殺されていっている印象を感じます。私自身の2年目の壁なのか5月病なのか自分自身とも向き合う必要があると感じますが、このことでの虚無感というか、全体が全く見えない途方も無い絶望感を感じ、また大きすぎることでそのコストすらもリアルな実態を持たないような感覚に陥ってしまいました。

③ あなたのお考え（思想的振り返り…学んだ内容と照らし合わせた場合、今回の質問の内容をご自身がどう受け止めているのかをご記入下さい。）

「1」に関しては、「まずは他部署への依存を正しく認識する」という背景から構造を変えていくとすれば「利益を生み出す部署になること」が一つの形になると考えています。「現在

の資本（物流リソース・人材・技術力）」で「荷物を届ける事」以外の新たな付加価値（利益）を生み出す部署になることが大きなきっかけを得ることになると考えています。同時に本当の意味で「他部署への依存」を特定する機会になると思いますが、いかがでしょうか？また、他部署=顧客と捉えると他部署と良い関係性を築き、迫っていく責任はこちらにあります。「変えられない制約」と捉えている私達の部署の認識が変わっていくことも一歩であると思います。他部署とコミュニケーションし、お互いに率直に意見を言い合う「場」を構築する必要があります。

「利益を生み出す部署になること」に関しては一歩目として「行政や非営利団体とのコラボレーション」を模索しています。いきなり利益を生み出すことは難しいと考え、まずはA社の大好きな「ボランティア」が動きやすい切り口であると思っています。具体的な内容は事業計画にまとめていきたいと思っています。

（ここまで大きな利益を生み出している会社が、「ボランティア」や「寄付」で貢献しようとしているのも一つのジレンマであると思いますが。）

「2」に関しては、昇進することが近道である気がしています。拠点への変更の落とし込みやアップデートのMTは自分よりも一つ位が高いマネージャーが主に参加しています。同時に今の立場でもできることは、現場での決定に対して上司に建設的な疑問を投げかけることです。それは、しっかりと決定を理解した上で業務に取り組む、それを部下に伝える私自身の為にも必要なことです。納得できない事を嘆くのは、エネルギーの無駄になると感じ始めているので、一旦飲み込みます。新しい決定だけでなく、既存の業務やルールに対して引き算をしていくことも合わせて必要です。本当にこの業務は必要なのか？本当にこのルールは必要なのか？という事を真剣に考え、その疑問を唱え、まずは一つでも引き算を全社に広めることができれば大きなきっかけになると考えています。（実際にそれがコストカットと言えるでしょう）

ルールが無くなるほど人は思考しますし、本当の原理・原則は人間の思考の余白を奪いません。全てが変わらなくても、新しい決定や今あるルールに組織的に「愚痴や不満」という対峙の仕方ではなく本当の意味での「疑問」となれば、それは至る所「仕事の質を高めること」になり「主体性」を生むと思います。

立場が上になればなるほど、組織に順従な人が多いなあ、そういう人しか上がれないの？と少し寂しくも感じますが、私は「現場と言われればどこまでも現場に寄り添い、組織と言われればどこまでも組織に寄り添える。それでいてどちらにも囚われない」という事と本当の意味で向き合っていくことで自分を殺すことなく昇進したいと思っています。これも、2024年の目標です。

2023年を振り返って「二項対立がなくなっていく」という成長を記述しましたが、今改めてどこまで行っても二項対立である自分を打開できないという問題意識を持っています。やはり、近代に染まり切った自分です。引き続きご指導の程よろしく願いいたします。

C 株式会社

役職：取締役 氏名：K・M

年齢：39（女性）

【高次元経営第5期2講 感想文】

代表、准子さん、事務局の皆様、この度も大変貴重なご講義をありがとうございます。
今回のご講義は、以下の現実の課題・問題を背景に、問題意識を持って受講させていただきました。

- ・自分の仕事を 1/3 にすること
- ・私と M さんの報酬 30%UP
- ・妹からの退職についての相談
- ・姪っ子からの「なぜ勉強するのか」「なぜママはこの会社を選んだのか」という問い

これらの現実の問題について、私が気づかなければならない自分自身の価値観の違いや認識を整理したいと思います。

■自分が自分で誇れる仕事を作る

高次元経営第5期第2講_レジュメ9ページ筆耕

BANGASHILA が専門家を使い倒す時代がやってきた。BANGASHILA は専門家よりも優秀だとならなければならない。思想があれば、専門家ほどの知識や経験はいらない。専門家を使うには専門家の2割程度の知識があれば、使い倒せるのです。

各自がやっている仕事の目的は何かということを念のため申し上げます。今 BANGASHILA みなさん一人一人がやっていることは、自分が惚れる自分の仕事を自分で作っている。自分が惚れる自分の仕事、それは、自分が自分で誇れる仕事を自分が作る。作れる。みなさん、作ろうと思えば作れるのです。本当なのです。作ろうと思っていないからなのです。

仕事を通して自分を作っているという意味です。つまり仕事というのは生きているという意味なのです。生きるというのは人生という意味なのです。人生は自分らしく生きないといけないのです。自分らしさとは人間らしさだとお上人様は言っているのです。それは喜びなんです。自分が強くなっていくことで喜ばれ、感謝してもらえるのです。

自分で思考して、自分が行動して、自分が工夫して、自分が挑戦しているのです。その自分を自分が尊敬できませんか？僕は尊敬しているのです。

その自分が幸福を作り出しているのです。その自分が社会（顧客）に対して、あなたが仕事を通して与えたものが、必ず幸福となって自らに返ってくるのです。それをまた社会に返すのです。そのことが幸せを生み、そのことが積み重なるのです。それだけは年をとっても、もっと言うなら死後にも持っていけるのだ。

「BANGASHILA が専門家を使い倒す」という言葉を聞いて、K がこれまでやってきたこと、今やっていること、それらを統合してこれからやっていかなければならないことが、BANGASHILA の皆様と共通していると感じました。また、今仕事をしているプロセスで、私自身が誇れる仕事を自分で作っているのだという認識を持ちました。

特に昨年 1 年間は、さまざまな K や J さんの顧客、メンバーと向き合い、苦悩をしながらも自分たちの価値観ではなく、高い価値観に基づいて関係性を築いてきたプロセスでした。そのプロセスは本当に、地道で、丁寧で慎重が故に歩みも遅く、焦りや失敗や、葛藤の日々でした。けれど、振り返ると、それこそが、私が誇れる仕事を作ってきたプロセスだったと、改めて確認ができました。同時に、私自身の具体的な仕事について、私が誇れる仕事を作っているのか？ということについては、何もできていないのではないかと思います。

240531_イブニングニュース

何が言いたいかというと、今みなさん仕事をしているから、それを請負いにするのです。これはちょっと財務的なこともあるから F や、M さんや S に聞きながらやっていきます。経費や全体にかかっているものをどのように按分していくのかがあるけれど、それを請負い（＝収入）と置き換えた時に、数値としてどう貢献していくのかということです。

人によっては大赤字ということはあるでしょう。しかし、大赤字だからと言って、別に恐れる必要はないのです。ここに存在しているということは関係ありだからです。これを皆様が信じられるかどうかということです。関係ありなのです。ところが近代に染まった人間は、自分にとって都合のいいやつか悪いやつかというものさししか持っていないのです。それでいく限り、幸せはこないのです。

うちの親父がバカだろうが、姉ちゃんが狂っていようが、准子さんがおかしくなろうが、こっちは動じないのです。縁があるのだから。なんら恐れる必要はないのです。私は何もできない、みんな近代にマインドコントロールされているから、俺はなににもできない、私なんか…となるのです。「私なんか」という人が一番傲慢無礼なのです。存在そのものが、K アライアンスの場合、全部が全体で価値ありなのです。一人一人が全体に入っているわけですから。そのことが信じられないといけないわけです。

一言、I さんと H くん。楠本での税務の仕事が長いでしょう。今経験的に「できる」ということやっているから普通になってしまっているけれど、これは申告書や月次ができる

ということではないのです。それは、会計事務所の話。それができることは、どういうことができるということなのか。もっと言うのなら、70 年も続いている事務所でのハウツーを知っているということです。それを箇条書きにしていってとしたら、それだけでも大変な財産なのです。本人たちが価値だと思っていない可能性がある。僕は離れているから余計にわかる。月次ができない、申告書ができない。やったら代表もできるというかもしれません。やったらできます。しかし、私のような資格を持っている立場であっても、できないのです。それをできるというのは光の当て方なのです。**それを誰でもできると。誰でもできたら仕事していないわけです。お客様を持てていないです。**

「私なんかという人が一番傲慢、無礼」「誰でも出来るんだったら、ここにいない」この言葉を聞いて、自分に引っ掛かるものがありました。傲慢無礼な私である。経理や、労務や、総務…メインで仕事をさせていただいている分野において、私自身がまだまだ作業に留まっていると感じています。そこにある価値観は、まさに「私なんか」という価値観だと思いました。

これまでの自分の身の回りの環境にあった色々な問題を見直し、自己を欺き、見て見ぬふりをして生きてきた上での、自分の自分に対する認識が、染み込んでいると感じます。逃げ癖のようになっている私を私自身が特定し、言語化していかなければ、C社にもKアラにも貢献できない私であると認識しました。手伝うではなく、貢献する私でありたいです。

そのために、自分の30項目の見直し、できることできないことの整理、自我ではなく自己の中でどうすべきなのか、どうなりたいたいのかということの言語化が足りていないのだと感じました。

これまでJさんやKの顧客と向き合う上で、対話をしたり、知恵を絞ったりしてきました。このこと自体が、私自身が誇れる仕事と統合されているはずですが。未だ分離して、私の仕事は私が作業としてきちんとやらなければという範疇にとどまっているのではないかと問題意識を持ちました。

「誇れる仕事を自分がつくる」。これまでの自分のように、会社に求められること、言われたことをやろうとしているだけでは絶対に起こり得ない発想です。高い価値観を学び、自己の実態を言語化することで、自分の価値観のパラダイムが変わらなければ絶対に生まれぬ認識だと思いました。そして人の無限の可能性を確信する高い価値観を共有し、共に学ぶ仲間がいなければ、自分自身に突きつけていくこともできない。今、自分がこの環境の中に在れることの幸せと、その立っている場所を自覚した時に、私が私の果たすべき責任がある

と思いました。このことは先日、妹から受けた相談にもつながっていると思いました。

■妹からの退職についての相談

Hに勤めている妹から「もう本当に会社を辞めようと思う。自分にこんな気持ちが降りてくると思わなかったけど、今、もう辞めようと思えている」という話を聞き、後日改めて話を聞く機会がありました。

私としては、辛い時期も見てきていたので、そのような気持ちになるのもわかる…とついわかったような気持ちになってしまうのですが、なぜ、そう思うのか、わからないという前提で丁寧に聴くことに努めました。

妹の背景をまとめると、2022年4月お局化した問題社員との交換人事を受け、総務課の立て直しをお題目に総務課へ配属されました。人事に納得していないお局は、引き継ぎ書も作っておらず、当然妹はその皺寄せを受けることになりました。毎日、お局からいびられながらも、未経験業務を行わなければならない、地獄の苦しみを味わいました。一時は、起き上がることができなくなり、不眠に悩まされるようになりました。

当時の上司は、自分の話を部下の愚痴または不満のようにしか受け止めていないように感じ、結果として、お局を作り出した会社の責任は、妹がとるかたちになりました。周りの人に協力を求めながら、2年間を乗り越えて、今年入社して初めてS1評価をもらいました。しかし、そのことが、返って妹の違和感を浮き彫りにしました。

妹の認識は、自分が苦しい時に何もしてくれなかった上司や会社。自分が苦しみの上にやってきたことは何も聞く耳を持ってこなかったのに、評価だけはS1。ここに猛烈な虚しさと絶望があるということでした。妹としては自分のような人を作らないために、2年をかけマニュアル作りや各部署との連携をしてきましたが、それもひと段落し、後輩に引き継げる体制も整ったことで、あらためてこの会社にいる意味を見出せない自分がいるということでした。上司も変わり、自分の仕事に対する高い評価ももらい、何か変わらんと感じていたけれど、何も変わらないことへの絶望。

この一連の話を聞いていて、妹は自分自身だと思いました。求められていることを必死にやろうと努力をすること、体がどんな状態にあっても絶対に会社を休まないという責任感、なぜこんなに苦しくて、辛いのかを思考しない、できない、現実から逃げるようなことは絶対にできない、「あなたが居てくれて良かった」と思ってもらいたいという気持ちでこれまで仕事をやってきたこと、全て自分と重なりました。そしてその思考である以上、上司・会

社を恨み、絶望するしかないということに、心から共感をしました。しかし、共感できるが故に、そのことの問題と、足りないところも出てきました。

3時間ほど話を聞いていく中で、たくさんの事実から、私の認識をまとめました。

- ・妹の努力や責任感、それは一つの個性として素晴らしい（それ自体が何も間違っていない。）
- ・「あなたが居てくれて良かった」と思って仕事をする事の素晴らしさと共に問題がある。
- ・相手の依存を引き出すことになったり、利用させてしまうことがあるということ
- ・それによって自分が自分で引き寄せる現実があること
- ・自分の価値観で思考する以上、自分が正しいという前提になり、自分の間違いに気づくことはできない
- ・自分が正しいという認識でいる以上、相手が間違っているとなり、結果として「なんでわかってくれないのだ！」としかならない（恨みが生じ、恨みに苦しむ）
- ・どんなに努力をしても、それは自我でしかなく、上司の立場、会社の立場には決して立てない
- ・妹の認識は、妹の価値観が作り出している。だから苦しみも、妹自身が作り出している。

この認識を持ちながらも、話を聴く時は「まっさらな気持ちで、白紙で聴く」ということを心がけ整理をしていきました。

○妹との対話メモ

「あなたが居てくれてよかった」と思ってもらいたいという、仕事をするうえでの価値観。

↓

異動により「居てくれてよかった」と言ってもらえるのは誰でもいいわけじゃない。利用されたと気づいた。

↓

なるべくしてなっている！と思った。

※あなたがいてくれてよかったと思ってほしくて仕事をしてきたから、会社はそれを見て、評価して、異動させた。私がそれを望んだからそうなった。

↓

そんなことのためにやってきたんじゃない！と思った。

会社からみたら「そうだよね」と思った。この人、みんなから信頼されて、この人なら大丈夫じゃない？ってなるよね。

でも私は「おい！」となっていた。でもそう言う人が評価してくれたから今がある。絶望も

怨恨もあるけど、なるようにしてなったということに納得している。

会社や上司の立場に立った時に、自分がなぜ今ここにいるのかということを、自分なりの言葉で気づいていると思いました。

○妹との対話メモ

やり切った感があって、会社への絶望もあり足元ぐらぐらなのに、耐えられない。

「やりたくない！」という気持ち。仕事をしていて発狂したくなる。頑張りたくない！意味がない！意味を見出せない。足元ぐらぐらで気力がない。やり切ったからもう終わりにしたい。逃げたい。

課長も変わる。よしっと思った。何か変わると思っていた。心は変化がなかった。会社への絶望と、ここで頑張った先に私の望みがない。なんのために？を問われている。

頭と心の乖離。心が言っていることをいい加減聞き入れろと言われている気がしてならない。騙し騙し、やってきた。「ちがうでしょ！」って言われている。

自分が自分に責め立てられている。

異動したばかりは、いろいろ見えなかったこともあると思う。あの時辞めていたら逃げでしかなかったと今でも思う。今は、いろいろ見えている状態で結局「違う」と言われている。自分の心を聞いてあげないといけない。いつまで無視するの？と思う。自分に突きつけられている。ここ数ヶ月気づいている。人が変われば…とか自分の頑張りで…とか思っていたけど、消えない。だから「辞めよう」と思った。

心に従いたいというのしかない。じゃあ「何がしたいの？」というのが見えてこない。

今まで頑張ってきたのに、自分の中にある大切なものって、取られる。もう嫌だ。利用されるっていうか。だから誰かに雇われたくない。自分でやるしかないと思っている。コンサル受けるとか勉強するとかも必要だと思う。

「感謝して生きていきたい。」というのが根底にある。

妹の話を聞いていて、自分の価値観の中でもがき苦しみ、「ただ、幸せになりたいだけなのに…」と思っていた思想を学ぶ前の自分自身と重なりました。心と身体がバラバラに動いている、自己矛盾の中から出ることができない、自己に嘘をつき続けていることへの根源的な不安を妹から感じました。私は思想学習を通して、自分が感動したお上人様のお言葉を妹に伝えました。

翻って、人間は、仕事を通じて何を期待しているのでしょうか。

まず経済的な報酬であり、次に社会的な地位でしょう。

経済的な報酬や社会的な地位により、自分の存在価値を適正に評価されることです。

しかし、この二つ以外にも、仕事には、人間の根源的欲求に根ざした期待があります。

人間は、自分の生き方に対して、自分が感動したいと思っています。

この世に生まれてきた限り、

ビジネスに携わる人間は自分の存在価値を適正に評価されるとともに、

自分の生き方や考え方、自分の仕事に取り組む姿勢に

自分が共感・感動できるか否かがさらに重大なテーマになるのです。

ビジネスの世界で仕事をしている人であれば、

自分がそこに関わることの意味や価値、生き様を示すことにより、

「自分が自分の生き方に共感・感動するだけにとどまらず、

周りの人を共感・感動させることができる存在感のある人間になりたい」

という想いを必ず持っているはずです。

私はこの文章を読むと、必ず泣いてしまうのですが、妹は、聴きながらうんうんと頷きながらも、言葉は出ないようでした。

妹は異動当初、眠れなくなったり、「体がベッドに沈んでいくような感覚」になり起き上がれなくなるほど、追い詰められていました。その感覚が恐ろしく、トラウマのようになっているという事実があり、そのことが気になっています。

なぜ、そのような苦しみに至ったのか、置かれていた状況や、お局化した社員から受けた

言動、妹の受け止めに聞いていれば、それだけで相当なストレスであったことが伝わるのですが、一方で、その受け止めについて、何か妹を苦しめている妹の「こうあらなければならない」というような価値観があるように思えました。

私は自分の体験を話しながらも、以下内容を問いかけてみました。

○妹との対話メモ

Q: 苦しみや不安が、なぜなのか？ということは心に止めておいた方がいいのではないかと
思った。それがなぜなのか？がわからないとすると、会社を辞めたとしてもずっとそれに苦
しめられる気がする。例えば、私は「仕事を辞めたからには、家事や育児を完璧にやらなけ
ればいけない」というものが相当あった。もしかしたら、そういうことがあるのかもしれな
い。

妹：娘に「ママって、仕事辞めたら、忙しくなくなるの？」と言われた。

確かに、仕事を辞めても忙しい自分が浮かぶ。なぜなのか？自分としては「丁寧に生きたい」
でも絶対できない自分も見える。なんだろうね…

その場ではっきりと解答を聞けませんでしたでしたが、引っかかりはあるように見えました。
対話後、私自身が言語化をするということの大切さを教えてもらったという背景を話し、今
回話をした内容のメモと、お上人様のお言葉を分けて送りました。

メモの整理と今回の振り返りを通して、私が今後妹との関係性において、思想的にどうあ
るべきかについて思考しました。私の受け止めや行動に間違いがないか、ご指導をお願いい
たします。

<考え方>

- ・妹が退社すること自体はどちらの選択をするかどうかは問題ではない。
- ・妹自身が何をもってそう判断するのかということは重要。
- ・妹の人生における重要な決断であり、それについて相談を受けている身として、私が思想的であるかどうか重要。
- ・妹という近い存在であるからこそ、「わからない」という前提で、白紙で丁寧に聴く必要がある。

<妹の問題>

- ・自分を疑うことができない
- ・会社に依存している
- ・自分自身が会社に利用させていたことに気づいたが、自分が会社を利用していたというこ

とに気づいていない

これは、まさに私自身が会社を辞める時も、辞めた後も向き合い続けてきた問題だと思いました。

<問題意識>

- ・妹の苦しみの根源は、自己を誤魔化していることからくる不安にあるのではないか。
- ・妹が苦しんでいる姿を2年見てきた姪二人や夫にも少なからず影響がある。
- ・妹家族への影響も含め、妹が幸せで、生き生きとした自分らしい人生を送ることができていないことが私にとっての大問題である。
- ・自我でいく以上、これまでやりたいことをやってこなかったから、やりたいことをやりたいようにやる！となってしまうのではないか。

<妹への投げかけ>

- ・なぜ辞めるのか？何のために辞めるのか？
- ・「この会社で頑張っても、その先に私の望んでいるものはない」とすると、望みとは何なのか？
- ・何がしたいのか？を考える時に、「したいことをしたいようにする」ということで決めることの問題
- ・幸せにならなければならない
- ・「起き上がれない、体が沈んでいくような感覚」になっても休めない、辞めることを考えないのはなぜなのか？（何かに執着している可能性）
- ・苦しみはどんな苦しみで、どのように苦しいのか？

<思想の言葉・代表からのご指導>

- ・自我人格と自己人格の違いについて
- ・幸せとは「自己と環境との関係性が良いこと」

※社員編「い」「ろ」「は」を妹と共に拝聴させてもらえないでしょうか。妹の今の問題意識（壁）から考えて、抜粋して部分的に伝えていくよりも、正式に学んだ方がいいタイミングではないかと考えました。お許しいただくことは可能でしょうか。

すでに投げかけている「なぜ苦しいのか？」についても含めて、妹の方から再び、相談がきたときの準備をしようと考えています。私の思考、行動において、足りない点、間違っ

いる点多々あると思っております。どうかご指導をお願いいたします。

■夫婦の関係性について

高次元経営第5期第2講_レジュメ 57 ページレジュメより

■夫婦の関係性について

例えば、ご夫婦でいえば、ご主人と奥さんとの中で、ご主人がご自分のことを自己というふうに理解していかなければならないとしたら、受け止めるとしたら、自己というのは自分、

つまり、ご主人と一番身近な人間は、奥さんと子供です。まず奥さんと自分との関係性があって自分がここに存在しています。妻もここに存在しているのです。このような関係性が夫婦という両者の人格の存在を可能にしています。

その時に、二人が結婚したことにより成立する関係性をここで関係性といっているのはありません。ここが大事なところなのです。結婚する前、自分の身近な周りには別の人がいました。実家で親と一緒に暮らしていたとすると、その当時は自分と親との間に、親子という関係性の中にあったのです。

そして、結婚して妻と一緒に同居するようになり、結婚生活が始まって、自分の対象が親ではなく奥さん(妻)にかわって、ご夫妻の関係性をそこで保証したことになります。実は、ご主人と奥さんが存在している。その両者の間に関係性があります。

普通は結婚して関係性が成立したと思うでしょう。だって結婚するまでは他人同士だったのだから。

この関係性が大事か、自分自身が大事かという点、関係性の方が大事だと考えます。

それを自己というのです。

「いや、私は関係性なんか関係ないよ。私は私自身が大事なのです。」それは自我なのです。

つまり、ご夫婦の場合だったら、ご主人の場合で言うと、自分自身を自己として認識したら、その目の前にいる奥さんとの関係性が非常に重要なのです。

夫である自分と妻である奥さんが結婚して、初めてできた関係ではありません。夫婦という関係はそれ以前にできているのです。どちらが先かという問題なのです。結婚するまで夫

はいません。独身だったある男性と独身だったある女性が結婚することによって、それぞれが夫婦という関係性で結ばれて、それで夫には夫の立場があり、妻には妻の立場がそこで揃います。

関係性が先か、それとも夫の立場に落ちついてからの関係性なのか。妻は妻の立場に落ちついてからの関係性なのか。どちらが優先的か、どちらが先かと考えた時、皆さん間違わないでください。自分たちが優先的に結婚したから夫婦の絆になったのだ、夫婦の関係性の世界ができあがったのだと考えたいのですが、どちらかといえばそのイメージに近い解釈をする方が一般的傾向としては多いといえます。それは自我の教育しか受けていないからなのです。

自己の教育ではこのように考えます。夫婦の関係性が先にあって、そのパターンの中に入ったのは後だというのです。そこで、妻にはこのような気遣い、このような心配り、妻は夫にこのような気遣い、このような心配りをしなければいけないという小さな条件項目がこのあといっぱい出てきますが、その前提として、この夫婦が「夫婦という立場」を「共有した時」に、お互いに夫婦だといえます。

私は妻という立場で夫婦、夫は夫という立場で夫婦。しかし夫婦の立場が成立したことが先なのか、関係性が先なのかとなった時に、実は関係性が先だといえます。そのように考える考え方が昔からあるのです。その関係性のルールも法則もあります。それを私たち夫婦がお互いに学びあうのです。

例えば、夫が「朝起きて、挨拶するのはそっちから挨拶しろ。」と、そんなことは言うなという教えがあります。そうではなくて「おはようございます。どうだ、体調はどうか。今日はご機嫌かね。」夫がそのように訊くと、まだ若い結婚してまだ間がないご夫婦である奥さんが、「もちろん、私は元気でピチピチしているよ。あなたはどうか？あなたも同じですか。」と奥さんは訊きます。

「もちろん、一緒だ。」「若い者同士って幸せだな。心配することがなくて。健康に恵まれるってことは幸せだね。」そういうことなのです。「私はあなたと結婚して、自分の健康がこんなに大事だって初めて気が付いたよ。というのはあなたを悲しませたくないからだ。私は元気でいなければいけない。朝起きるたびに、それを私はいつも思っているのだ。」→責任

すると奥さんは喜びます。それだけで女性は言葉が出てこなくなるのです。こんな素晴らしいことを言ってくれる人なんていません。でもこれは習ったとおりに言ってもらわなけれ

ばなりません。自己人格を教育で勉強したら、優しい言葉をかけるよりもこのような言葉をかけなさい。すると、**もっと深いものとして相手に伝わっていくから、心に通じるからです。**

だから、経営人間学講座に、離婚しそうな夫婦がお聴きに来られたら離婚が止まります。経験的にこれはわかっています。まあ、これは冗談です(笑)。

つまり、「**本当に優しい言葉**」というのはどういう意味か、思想的に検証しなければなら
ない言葉なのです。そのようなことを小学校の時に教えるべきです。小学校でちょっと難しいなら中学校なのです。中学生くらいになると、このような知識、このような性格のテーマについてもものすごく敏感になります。それが自己人格の学習のスタートなのです。

私は「自分たちが優先的に結婚したから夫婦の絆になったのだ、夫婦の関係性の世界ができあがったのだ」と考えていました。これが自我の教育しか受けてきていない私の認識であり、自己の教育というのは「夫婦としての関係性が先にあって、そのパターンに入ったのは後」という考え方ということを教えていただき、衝撃を受けました。

お互いに配慮や心配りという条件項目があって、夫という立場、妻という立場を共有した時に夫婦になるとすれば、私たちが長いこと夫婦ではなかったということが、よく理解できます。

「離婚しそうな夫婦がお聴きに来られたら離婚が止まります」まさに、自分たち夫婦のことだと思いました。自己と自我の違いを学び、「夫婦は一つの人格を二人で共有している」「環境は自己」など、自分の価値観の間違いをはかるものさしを持って初めて見える、自分の実態というものがある。見たくない醜い自分の実態が次々に明るみになり、お互いに苦しみながら地雷を一つ一つ掘り起こすプロセスを歩んできました。しかし、この高い思想という物差しでなければ、絶対に今のような関係性はないことを確信しています。

「本当に優しい言葉」というのはどういう意味かということを、これまで全く学んできていないことを知りました。「徹底的相手本位」ということにも繋がりますが、配慮をもって相手の気持ちがわからないという前提で、相手の気持ちを聴き、相手の気持ちに共感ができていないと、このような言葉はかけることができないのだと思います。そして、自分が自分を深く知っていくプロセスがない限り、共感できる器も広がらないのだと改めて思いました。

「本当に優しい言葉」をかけれる自分でありたいと思いました。

会社名：株式会社 F
役職：取締役 氏名：F・M
年齢：57(女性)

感想文の公開：①開放可能

【高次元経営第5期2講 感想文】

楠本先生、准子さん、事務局の皆様、この度もありがとうございました。

今回、後半で高い思想との出逢いを得て、学び続けることで得る人生の喜び①の部分で「レオナルド・ダ・ヴィンチの言葉」を取り上げていただきました。ダ・ヴィンチが統合の思想を実践されていたとは、本当に驚きでした。全く知りませんでした。

第3期から学ばせていただいて、沢山のあらゆる分野の参考資料や文献に触れさせていただき、今まで主にハウツー本ばかりを読み漁っていた自分が、何も変わらない理由が、ほんの少し分かって来た様な気がしています。（低い価値観で対処・対応法を学び、自我人格で生きていて、行動のエネルギーも湧いてこない。手法だけ学んでも、到底、変わらない。どこへ行きたいのか、どう変わりたいのかさえも分かっていなかったのです。）

特にダ・ヴィンチの言葉の中で胸に刺さったのが以下の3つです。以下、筆耕。

・つねに恐れつつ、進まぬ者は、数々の侮辱にあい、しばしば悔いることになる

つねに恐れつつ、進まぬ者は、数々の侮辱に遭い、しばしば悔いることになる、って言うんですよ。どうします皆さん。どうする？新しいことに挑戦しないやつのことを言ってるんですよ。常に自分さえよければいいから、恐れて、新しいことをするのは怖いから進まない。

その人は、数々の侮辱に遭うと。色んな後輩から馬鹿にされるんでしょうね。分かりませんが、侮辱にあい、しばしば悔いることになっていきますよ。そして、それが最後死ぬときに、全部を悔いて死んでいくのは嫌じゃないですか、皆さん。

たった今、死んでもいい位の生き方をしないと、これをね、皆さん、この通り読むんじゃなくて、裏返してみましようか？常に恐れず、になるでしょ。進む者は、でしょ。数々の感謝にあい、しばしば敬まれる立場に立つ、じゃないですか。

これを、常に恐れつつ進まぬものは数々の侮辱にあい、しばしば悔いることになる、っていうのを讀んだってさ、何だか、多分、思想の勉強しなかったら、ここに何の味わいも喜びも見いだせないじゃないですか。だけどそうかと。恐れない必要が、恐れずに進む理由が、目的と理念だから、難しいことにでも、行くべきかどうかが分かれば行くわけでしょ。そしたら、なぜか知らないけど、数々の感謝をもらうことになり、しばしば敬まれることになる。逆に、そうでそうありたいと思っているにも関わらず、それと逆のことをしているから、逆の結果を自分で生み出していつていると。

これは、正に私だと思いました。私は両親に大切に、大切に育ててもらいました。

特に、物ご心付いた頃から、父の思う安全な道に誘導され、失敗しない様に失敗しない様に、穏便に、穏便に大きくなり、今の今まで、その癖が身体に染み付いて離れませんでした。

夫と出逢い、幾度とその考えを正す様に助言をもらっても、変えることが出来ませんでした。自分の価値観が全て正しいとは思ってなかったとは思いますが、行動は全く変わりません。価値観に個性差や、ましてや、位相差などあることを知らなかったからだとは思いますが。夫婦の在り方も全く分かっていませんでした。もちろん、理念も目的もありませんでした。

そんな、私が、この学びに出逢わせていただき、何か分からないけど、このご講義や、ここで出逢う方々から、多くのエネルギーと勇気をもらうことが出来ています。

私が恐れて挑戦しなかったのは、自分のことしか考えない自我で生きていたからです。低い価値観しか持ち合わせていなかったからです。

高い価値観を学び、せつかく、今、この場に居させていただいているのだから、どうか、自己変革させ、問題に挑んで行きたいと思える様になりました。ありがとうございます。

次に、

・ 恐れれば恐がるほど、逃げれば逃げるほど近くに寄ってくるものがある。

それは貧窮だ。逃げれば逃げるほど、君は悲惨になり安らぎを失う

恐れれば恐がるほど、逃げれば逃げるほど近くに寄ってくるものがあるですよ。
それが貧窮だと。逃げれば逃げるほど君は悲惨になる。安らぎを失うっていうんですよ。この、恐れれば恐がるほど、逃げれば逃げるほど近くに寄ってくる。

何から逃げるんでしょうか。自己と向き合うということです。この勇気なんですよ。世間の物差しでモノを見る、そうするとね、安らぎは来ないって言うんですよ。失っていくんだと。

これも、私のことです。

今までどんな学びをしても、安心できないし、変われなかった。

それは、ハウツーの学びだったからです。今まで自分は、自己と向き合う事から逃げていたから、真の安らぎが得られなかったのだと思いました。ビジネスの場で、もっと挑戦し、そこから、自己と向き合い、成長したいと思います。

また、

・ 私は決して障害に屈しない

いかなる障害も、私の中に強い決心を生み出すまでだ

一発パンチをもらったようじゃないですか。前回もご紹介した通りですよ。私は決して障害に屈しない、っていうんですよ。私は決して障害に屈しはしない。いかなる障害も私の中に、強い決心を生み出すまでだって。どうしようか、こういう人と喧嘩したら駄目よ。

これを強かな（したたかな）人って言ってたんですよ。楠本くんが弱っちいと、もうこれも解説の余地がないですよ。私はどうかと振り返るんですよ、皆さん。

自ら、言い訳ばかりをつらつら並べ上げ、問題を起こさない様に起こさない様に、無難に無難に生きて来ました。障害に屈しないと強い決心を持って、強かな人間になりたいです。

そして、今、この講義の最後の部分を何度も何度も読み返し、思想の学びをしっかりと確信できる所に持って行きたい（そんな物ではないのかもしれませんが）と思っているところです。

自分を守る＝身近な環境を守る

（夫・妻・子・親・上司・部下・組織・国家・人類）

身近な環境を守る人 ＝ 守られるものから、守るものへ

守る為に必要なモノ ＝ 自ら足りないものを知る。逆境からの教え

（強くなる為に必要なモノ「逆境」）

その為に必要なもの ＝ 新たな行動(挑戦)に出る。失敗・不都合と向き合う

自分は自分(＝身近な環境)を、身近な環境(＝自分)を守らない人間なのか？

（つまり、自分にとって都合の良い環境を求めているのか？

それとも…

自分は守る人(支える人)でありたい人間なのか？

（つまり、支える人である事から生じる、相互信頼・尊敬の関係を求めているのか？）

[私は、支える立場の人間である]、と確信した人は、

その時、すでに支えられる人になっている。

幸福 ＝ 安心 ＝ 相互信頼 ＝ 相互尊敬この関係は、全て自己の中に在る。

↓

テクニック・手法ではない

↓つまり、

どうしたら良いのか？ではない

↓ では、何か？

確信

である

以下、筆耕

自分を守ることが悪いんじゃないんですよ。ここは当然、誤解のない様に。
自分を守るといことは、身近な環境を守ることでは自分を守れないんですよ。

夫、妻、子供や上司、部下、組織、国家、人類。身近な環境を守る人、イコール守れる
ものから守られる人になるという意味ですよ。守るために必要なもの、それは、自ら足
りないものを知る。

つまり、それはどうしたら知れるか？逆境という、現実の問題からの教えをそのまま受
け止めるしかないじゃないですか。強くなる為に必要なものとなると、それは逆境とい
うことになるじゃないですか。だって、身体だって何だって、勝つと思ってやったのに
負けた。そのことが、その逆境が、自分の弱さと弱点を教えてくれるわけでしょ。

苦しいですよ。苦しいのはつらいですよ。だけど、苦しいのは誰が苦しいのかという
と、自分が苦しいんじゃないですか。なぜ苦しいのか考えたことがないからなんです
よ。それはその人の価値観が辛いという判断を認識させているんでしょう。

それは何でなのかと問うていくのを、自己を知るっていうんですよ。

こんなことで、俺は悔しいとか、思っていたのか、ってことですよ。

自分は自分を、身近な環境を、守らない人間なのか、どっちなのか。つまり、自分にと
って都合の良い環境を求めている側なのか、どうなのか。それとも自分を守る人、支え
る人でありたい人間なのか。つまり、支える人であることから生じる相互信頼、尊敬の
関係を求めているのか。

私は支える立場の人間であると確信した人は、その時ですよ、既に支えられる人になっ
ている時ですよ。どう、皆さん、いっぱいお金を寄付してよ。幸福、安心。幸福という
のは安心ということなんですよ。安心というのは相互の信頼なんですよ。

相互信頼とは相互尊敬できる相手なんですよ。この関係は全て自己の中にあるんです

よ。テクニックと手法ではないんですよ。つまり、どうしたらいいんでしょうか。それが確信なんですよ。そのために学び続け行動するというのがいるんです。

学ぶことを止めたら、その段階で終わるんですよ。

学びを止めるというのは、俺は出来上がった、という意味なんですよ。

自分を守ることは身近な環境を守ることでは守れない。守る為には、自らの足りないものを知ることが必要で、それは、挑戦(行動)して初めて得る失敗や不都合という「逆境」でしか得られない。このことから、やはり、今までの自分ではダメで、新たな行動をしていかなくては行けないと改めて思いました。

幸福は安心であり、安心は相互信頼から生まれ、そして尊敬の関係となる。それら全ては自己の中にしかない。(自己とは、自分と自分以外の人間、周囲の人間との関係性なのです。その関係性を自覚している自分だといえます。—レジュメ P57 6行)ここからも、高い価値観を思想の学びを深め、学び続けたいと思いました。

最後に、最近、夫ともスタッフ(高次元を学んでいる)との会話も、この学びについての話題が多くなっています。お互いの解釈を話し合ったり、目の前の問題を思想的にどう判断・対処するべきかなど。そんな中で、答えが出ずもやもやとすることが時々あります。とは言え、質問することもできないでいました。

そんな中、第2講の終了後、ご紹介下さった方々と少し会食する時間をいただきました。そこで、何点か質問させていただいた所、皆さんから、とても分かりやすく説明していただき、「あーそういうことだったのか」とすんなり納得することが出来たのです。本当にありがたかったです。独りよがりの学びでは到底分かり得ないことでした。今後は、この場でも質問させて頂こうと思いました。

そして、そんな仲間に出逢えたことに感謝すると共に、自分自身も「支える立場の人間である」と確信して、学び続けたいと思いました。

今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

【高次元経営第5期1講 感想文】

今回初めて『高次元経営実践勉強会』に参加させていただきました。

恥ずかしながら経営という言葉自体は知っていましたが、言葉のもつ本質は全く分からずただ漠然と知っているという状態でした。講師の楠本先生の話す内容も耳には入って来るものの、頭での理解が追いつかずアーカイブ動画を止めては戻しの連続でなかなか動画の最後まで辿り着けない有様で、理解することもままならない非常に心苦しいものとなりました。とても確信めいた何かに気付く事も出来ず、自分は何と中身の薄いちっぽけな人間なのだと愕然としこの勉強会の受講が憂鬱なものとなりました。

とは言え、折角いただいたこの機会を基に自分の中に新しい何かを得たい。少しでもいいから私に関係する方々へプラスになるような機会にしたいと思い、再度アーカイブの視聴を行いました。2度目の視聴となり、ほんの少し予備知識も増えたことにより楠本先生の言葉の中にも自分で理解できるものが出てきました。『道場清規』唱和の際に「唱和とはただ読むのではなく、自分に言って聞かせるもの」という言葉を聞き、ただ漠然と声に出していた自分に気づく事が出来、昨日までの自分を知る事が出来ました。唱和一つ満足に出来ていなかった訳ですから普段の考え方や行動もまた同様に残念なもので、自分の価値判断を基準にそれが正解であると疑う事もなく仕事や実生活での行動の基準となっていました。過去にそうであったという経験や何となくそう思うという理由のみで深く考えることもなく、また新しく挑戦する事もなく漫然と思考停止の状態で日々を送っていたように思われます。

今回楠本先生の講義を視聴し自分の現状というものがほんの少し見えたような気がしてはいますが、まだ自分を知る事は到底出来ていません。自分の抱える問題点と向き合う事はとても怖い事だと思いますが、少しずつ確実に洗い出し言語化し隠していた自分としっかりと向き合い自己革新に繋げていこうと思います。

私自身の学びが足りず講義の内容とは直接関係のない感想となってしまいましたが、今回いただいた機会を大事に少しずつでもきちんと考えられる人間を目指します。

【高次元経営第Ⅴ期 第1講 感想文】

-感想本文(MS 明朝)-

前提：私は偉大な創業者の後継者。一月前に若輩でありながら大役（代表）の任を得た。

創業者が竹内日祥上人の教えをうけ作り上げた経営理念を継承し、実践をする役割。

楠本先生が御上人に『勿論です。貴方はその為に生まれてきたのですから』と言われ、覚悟を決めたエピソードに感銘を受けました。私も使命として、会社の継続・発展、経営理念の実現を行います。その為にも、高い価値観 及び 当社の経営理念の生まれていく背景を楠本先生のお言葉から何かしらでも掴みたく本勉強会に参加した次第です。また、楠本先生に初めてお会いした際に、「次元が上がっていくと、会社の価値はどれだけ人を育てたか？になっていく」とのお言葉あり、これが非常に気になったという思いもあります。

～第1講での学びを本日からどう活かすか？～

- ・自分はそれなりに成長したという慢心がないか自問する⇒自己限定しない

そして、組織のメンバーにも限定しない。個性を引き出す

具体的には、日々振り返りを高いレベルで実践する。今も手書きで日々振り返りをしているが昨日の自分より成長している自分になるよう実践する。

意識を未来に飛ばし、現在の自分の改善点を明確にし、決意し実践する。

但し、ほっておくとこれも今の自分のレベルでやろうとするだろうから、経営理念の実現を通して、国、社会に貢献することを基準にやる。

- ・上記の日々実践を通して、

息子に自分のやっていることを誇れるべく1日1日を生きる。

- ・物事を一方的に浅く判断することなく、統合的に捉えようとする。

- ・とすると、日々の言動は軽々にしないようにすべき。

高い価値観で、多角的・多面的に思慮し、経営理念を基準に発言するようにする。

- ・社員が誇りある人生を歩む為にも、私自身の価値観を高くし、私自身、成長する。

以上

大学院修士 2 年
年齢：24 歳 (男性)

感想文の公開：③開放一部不可

【高次元経営第 5 期 2 講 感想文】

平素より大変お世話になっております。

今回も、高次元経営研究会に現地にて参加させていただきありがとうございました。
改めて、現地で受講させていただく意義を大いに感じた第 2 講となりました。

さらに、加えて、筆耕のメンバーにも加えていただきましたこと、心より感謝申し上げます。筆耕の担当箇所にも不思議なご縁を感じるばかりです。担当箇所はランダムであるとお聴きしたのですが、自分の問題意識に合致する場面を担当させていただき、必然を感じております。

以下、今回のご講義を通しての気づきと私の直面している問題を結び付けて感想文とさせていただきますと思います。

【会場受講に際して感じた気づき】

第 1 講は大学の授業の関係上、参加できませんでした。

そのため第 2 講の受講前は、特別に参加を許可していただいている身でありながら前講を会場受講できなかったこと自体、心残りに感じていました。

しかし、今回会場に参加させていただいて、考えが変わりました。
会場で受講させていただいた方が、感じ方が全く違う。

「会場受講できないのが申し訳ない」と思っていた自分の中に、「本気で申し訳ない」と思う自己とは別に、「謙虚でよい子に見せよう」とする自我がいることに気づくと同時に、それよりも「惜しい機会を逃した」という感情がこみ上げてきました。

今後も極力、会場参加したいと思い直しております。

また、今年から留学に行くため、オフラインとオンラインで受け取り方に違いが出ると困ります。なぜ受け止めが違うのか、違う上でどのように留意しなければならないのか、もっと突き詰めてから行きたい。

しかし、今回は言語化ができませんでした。こちらは今後の課題とします。

【道場清規】

第5期第2講 レジュメ1ページ

- 一、経営とは、経世済民の高い志しを、実行に移すことである。
- 一、経営とは、人間の究極の理想と目的を、実業の現場で実現することである。
- 一、経営とは、人間のもつ無限にふかい可能性に、確信の信を置き、
価値の創造に努めることである。
- 一、経営とは、人間のもつ最も醜い力を、もっとも美しい価値に、転換させることである。
- 一、経営とは、いかなる絶望的な境遇にあっても、その中からつねに智慧と力と勇気を、
奮い起こすことである。

今回はご講義の始めに皆さんで斉唱する際、以下の部分で、なぜか涙がにじみ出てきました。

「一、経営とは、人間の究極の理想と目的を、実業の現場で実現することである。」

「一、経営とは、人間のもつ無限にふかい可能性に、確信の信を置き、
価値の創造に努めることである。」

私は、涙が出てくるその理由が分からなかった。本当に不思議な気持ちでした。

今も、それは確信を伴っては分かっておりません。

しばらく経って、考え直してみると、当日はKアラメンバーへの加入を希望するにあたって、覚悟でお腹が痛いながら臨んでいました。そして、留学の準備や大学卒業に向けても以前よりもやるが増えていました。気持ちが乱高下する中で「実業の現場での実現」がより自分事になった。だからより、その意味が腹に迫ってきたのではないかと今は思っています。同時に、「自分自身の可能性を信じる」ことが無意識に揺らいでいた。不安に思っていました。だから、改めて背中を押されたことで、涙がこぼれたのかもしれないとも思っています。

しかし、まだ実感が湧いていません。なぜわからなかったかを突き止めるためにも、今一度、こちらに書き留めておこうと思います。

【人間が言ってほしいこと】

私はレジュメの6ページで次のお言葉を耳にしたとき、2つのことが思い出されました。

第5期第2講 レジュメ6ページ 筆耕（お上人のお言葉）

人間は正しいことを言ってほしいとは思っていない。
自分にとって都合の良いことを言ってほしいんです。

一つは、Xとの関係のこと。

もう一つは、SさんやSさんといったKアライアンスメンバーの方々との以前の会話です。

— 中 略 —

第2に、Kアライアンスメンバーの方々との過去のお話です。

要約すると、将来についての相談の中で、私が皆様からのアドバイスを都合が悪いと感じて一方的に受け取らず、勝手に不信感を持ってしまったという話になります。

高次元経営研修会に参加させていただくようになり、早5年目になります。

その中で、Kアライアンスの方々に沢山お世話になり、毎回ご講義やフォーラムの場で挨拶させていただいた時に、一声かけてくださる方もいらっしゃいます。

その中で数年前のフォーラムで、SさんやSさんに大学卒業後の進路について尋ねていただいたことがあります。

当時の私は「平和」という事を軸にしながら、「国際協力か宇宙関係かに就職したいな～、もしくは院に行くかな～」と漠然と思っていました。質問していただいたので、当時考えていたことをSさんやSさんにお話すると、「起業とかは考えていないの？」であったり、「志望していた国際機関についても再度調べなおしてみたらどう？」というようなことを言っていました。私はそれを受け容れられなかったんです。

大学の同期にはほとんど起業する人はいないし、いきなり起業するのは不安だから一回、どこかに就職して実力を磨きたいとビビって、思考なしに敬遠していました。

Sさん・Sさんが親身になって一介の大学生の将来について関心を持って耳を傾けてくださっているのは有難いことだとは当時も重々思っていたんです。しかし、「都合が悪い」ことを受け容れられなかった私は、口ではお二人に「また相談させてください」と言い、温かく承諾していただきながらも、「どうせ、私のことを分かってくれない、仕事などを通して長い時間を過ごしていないからわかってもらえないんだ」とまで卑怯にも思ってしまったんです。

まさに、「自分の都合の良いことだけを言ってほしい」自分がそこにいました。

この話には続きがあり、同じフォーラムでKさんにも同じことをお話しました。そこで国

際開発に興味があるとお話したことから、Kさんの知人の開発コンサルタントの方を紹介いただけることになったのですが、私は何が聞きたいのか具体的に言語化できず、結局話がうやむやになりKさんにもご迷惑をおかけしてしまいました。その自分が受け入れられず、1年間高次元から離れていたのです。

まさに、「自分の都合の良いことだけを言ってほしい」から「相談」という手口を使って、話を聞いてもらっていたに他なりません。

そうしたことから、Kアライアンスメンバーの方とお話する時も、今でも少し気後れがございします。「思想から逃げてしまった自分」「都合が良いことを言ってほしさに近寄って、思っていた通りに進まなければ勝手に不信感を募らせている自分」「(個人的な内容を含むこともあります) 代表以外に悩みを共有できない自分」から、皆さんとお会いしてもお話ができないのです。

今も昔も変わらず、温かく迎えてくださっている皆さんには感謝してもしきれません。高次元でのお話やMを通して、また高次元などのごく僅かではありますが、皆様と関わらせていただく時間の中から、日頃より皆様がいかに真摯に思想学習に取り組まれているかを感じています。素直に、そういった関係性に憧れています。

だからこそ、Kアライアンスのメンバー入りを希望するにあたってこのコンプレックスが大変大きいものでした。

一方で、だからこそ、皆さんと改めて関係性を一から構築すべく私の課題意識を明らかにしなければと思いつつ、今、言語化しております。

今まで、Kアライアンスメンバーに入れていただきたい一心で、前回の感想文もアピールをしていました。しかし、以下の言葉で違うのではないかと思うようになりました。

第5期第2講 レジューメ 48 ページ

正しくない人は頑張りません。自分の立場だけを良くしようと考えます。ずる賢いのです。そのような人のお世話は、なるべくしない方が良いと思います。
自分が壁にぶつかって苦しんで、「私が悪うございました。」とお詫びに来てから育ててやった方が良いでしょう。

皆様との間に壁を勝手に作っておきながら、入会条件だけを満たしてなんとなくスーッと受け入れていただこうと(ずる賢く、なんとなく受け入れてもらおうと)していました。ご講義の中でもお話ししていただいていたのですが、それは私が皆様に迷惑をかけてしまっているのだと、今は感じております。大変申し訳ございませんでした。

しかし、どうしてもKアライアンスのメンバーに入れていただきたい。

深い信頼の関係性を築いて成長し、周りの人を守れるようになりたい。私らしく、生まれてきて良かったと心から思える、人生を送りたい。私は弱いんです。しかし、それを皆様と成長させていただきたい。

これだけは諦めきれません。

そのために、社会で働いてもいない私がどう皆様を支えられるのか、どう支えたいのか、志望書では書けませんでした但考えてみました。

私に出来ることと言えば、皆さんの眼となり、耳となり、失敗を代わりにしてことです。

世界に羽ばたき、新たなフロンティアを開拓して沢山失敗してきます。

その失敗を皆様と活かすことで、互いに支え、支えられる関係性を築いていきたいです。

私に出来ることは、今はこれしかありません。

一度、私は私のせいで思想から離れました。その間の経験に支えられている自分もいるのですが、その期間にやはり思想が自分には必要であることを実感しました。だからこそ、私はどんな環境にあっても思想からは逃げない。このことを誓います。

不束者の私ですが、何卒よろしくお願いいたします。

【本当の中庸について】

第5期第2講 レジュメ6ページ 筆耕（お上人のお言葉）

右に立たなければいけない時は、極右の、これ以上行ったら落ちるところにも立ち、

左に寄らなければいけないときは、これから先はない、という真左に立つ。

そして、どこにも囚われない。

これが中庸の意味である。

私は今回、上記のお言葉を伺ってびっくりしました。

完全に以下のように考えていたからです。

第5期第2講 レジュメ6ページ 筆耕

右に寄りすぎてもいけない、良くない。左側に寄りすぎても良くない。
やっぱり人間は真ん中のほどほどが良いのよ。
っていうのを頭が悪い。程度が低い、と言うのです。

私の無知を超えた本当の意味が大変衝撃的でした。(以前にも高次元経営研究会で教えて
いただいていたのかもしれませんが…)

問題は、私にとってこれはただ中庸の意味を知るというだけでなく、私の言動にも大いに
当てはまっていたからです。

何を学ぶにしても、これまでどちらかに寄るのはいけない、と本気で思って気をつけるま
でしていました。

また、人の話を聴くときにも悩みがありました。多くの人の話を聴いていくと、「共感的
に聴こう」とは思うけれども、どちらかに極端に寄っても良いものか、と悩む。はたまた収
集がつかなくなって分からなくなってしまう。そのような状況に陥っていました。

例えば、私にはウクライナ人の友人が多く、悲痛な叫びをよく耳にしますし、その時は烈
火のごとく怒りが湧いてくるし、心が痛みます。しかし、ロシア側の気持ちも分からないわ
けではなく、また、戦争は一方的な悪はないのではないかと感じていることから、私はどの
ようにいると自分らしく入れるのだろうか、と悩んできました。

そのような中で、今回いただいた言葉は新鮮でした。

そして、もう一つ気付きがありました。

自分と異なる立場の、この人は尊敬できないという人の話を聴く際に、私が自分の悪いと
ころを受け容れないのが如実に出ているという事です。

実際に最近そう感じた出来事がありました。

大学の同期が来春、入社する日本でも有数の就活支援サービス提供会社(ワンキャリア)
のイベントに参加し、会社の副社長に私がいくつか質問した時の話です。

友人が中心にイベントを開くという事であったので、私も参加しました。

1回15人程度の小さな規模のイベントであり、さらに5人ずつくらいに分かれて副社長
や人事の方と自由にお話するセッションがありました。

せっかく参加したので、かなり大多数の大学生が利用している就活支援業者の副社長は
どのようなことを考えているのだろうかと思い、何回かに分けて他の参加者の方と共に質
問してみました。

(自分) 「なぜ経営者を志したのか。」

(副社長) 「お金持ちになりたかった。父親は日系企業に勤めており、たたき上げで大企業の子会社の社長になったが、違うやり方で実力を示したかった。」

(自分) 「悩んで最後に決めなければいけない際に、大切にしていることは何ですか。」

(副社長) 「少しでも情報収集をして、失敗する確率の少ない方を選ぶ。」

(自分) 「どのようなことを基準に採用を行うのですか。」

(副社長) 「その人が使えるかどうか。」

(自分) 「(転職されて現在のポストにいるとのことであつたので) 転職される際、ご家族とはどのような話をされたのですか。」

(副社長) 「奥さんには話をしなかった。本当は結婚するつもりはなかったのだが、出来ちゃった婚で。子供もそのとき幼かったが、転職は事後報告だった。子供がさらに大きくなってよりお金がかかるようになってきたときに一層挑戦しにくくなるから、挑戦するならその時しかなかった。きっと奥さんも、この人にはいくら言っても聞かない、などと明得られていたように思う。」

その他、他の参加者からはこのような質問もありました。

(他の参加者) 「ご自身が感じる人材業界のやりがいは何ですか。」

(副社長) 「複数あるが、個人情報など価値の高い情報を扱えるところも大きい。」

ここまで来て、私は本当に腹が立って、ついには一切のメモをやめました。

「こんな人がこれから社会に出る大学生の就活支援事業をやっているのか!」「悪の再生産ではないか!」「人が絶対に育つわけがない!」といよいよ怒り心頭で、汗が出てきて、心の中では手を出してるくらいだったのですが、一方で、全く共感的に聴けていないことにも気づきました。

私はお金を稼ぐことを第一に仕事をしている人を受け入れられません。

しかし、その考えは確実に自分の中にもあります。

そうした時に、会場受講でも響いたのですが、後日改めて動画を視聴すると、以下の言葉が迫ってきました。

第5期第2講 レジューメ9ページ 筆耕

次は、共感する力なんです。

これは気付きを書いて、自己と向き合う以外にないですよ、皆さん。

私が私と向き合って、私の実体とどれだけ向き合ったか、どこまで知ったかの分しか、相手を受け容れ、共感することができないんですもの。

そうじゃなかったら、「お前は何なんだ、馬鹿じゃないか。」と言ったら、(突き放してしまったら)、それでアウトなんですよ。

自分の中にその馬鹿を見つけていたら、共感できるんですよ。

それを器が大きいって言うんですけどね。

私は幼いころから父に、「器の大きな人になりなさい」と言われ、育てられました。「器の大きな人」とはどのような人を指すのか、父から明確には聞いていないのですが、それでも器の大きな人に私は憧れて生きてきました。

その点で見ると、私はなんと小さい事かと。

いつも苦手な人と話すと決まって、「嫌い」と思ったら思考が停止してしまう自分がいるのです。

「嫌い」な自我は自分の中にもいるにもかかわらず、です。

留学準備や K アライアンスメンバーへの参加を志望するにあたって、お金というものを初めて強烈に自分で稼がなくてはならない、何とかしなければならない、という問題意識にかられました。

そして、K アライアンスメンバーへの参加を志望する際にも、お金が大きなネックになって手をなかなか挙げられなかったことは、私が「実はお金に執着がある」ということを明らかにしてくれました。

それがないと実際に生きられないということを痛感したここ最近でしたので、確実に間違いなく、そこに執着している私もいるのです。

でも、やはり、そのことを言葉にしたくありません。

何か魂が汚れてしまうように感じてしまいます。もしかすると、自分のお金への執着心の強さ、流されやすさを知っているからこそ、目を背け続けているのかもしれないと今では思っています。だからこそ、以下の共感のプロセスでも弱点を感じました。

第5期第2講 レジューメ9ページ

『知識』よりも『聞く力』『共感する力』

『問題解決』とは、『依存させない』こと。

『問題解決』とは、共に道を歩くもの。

『問題解決』とは、その事を通して『信頼の関係を構築する』こと。

問題の本質を知って、そこ（問題の本質）に辿り着いた道（プロセス）を、一つ一つ（共に）登って行くこと。その事（仕事）そのものが幸福であり、自らの人間としての成長と統合される。

伝えたい大事なこと

〇〇等、他に出来ることは全部できることになる（ただ活用すれば良いだけだから）

逆に、他が出来ないことは、人間に対する真の問題特定と共有と共感する力。

それが、それこそが我々に求められている。

ここまでで今回の振り返りが止まってしまうのですが、私はそういった側面に目を背け続けている（自分の問題の本質に迫れていない）からこそ、問題の本質に迫ることができません。そういった質問もできません。本当にこれが苦手なんです。

だから人を依存させる方に今まで逃げてきました。

今まで何度も教わってきた「悪の中から生まれる善が本物の善である」という言葉がここでも身に沁みました。ましてや、4月から絵画を少し習いに行っているものですから、より一層「真・善・美」の話が身に迫ってきました。

5期第2講 レジュメ 66 ページ レジュメ+筆耕

美しいものと醜いものは、共にあると互いを引き立て合う。

これはダ・ヴィンチの言葉なのです。

これはなぜか、我々はどう受け止めれば良いのでしょうか。

このお勉強（思想学習）をしている我々は、「美しいもの」と「醜いもの」と言われれば、ずっと勉強されている方は当然ですが、同時に、ここに映像が浮かぶでしょう。

「真」と「偽」ですよね。

それから「善」と「悪」ですよね。

いわゆるお上人の言う、「真・善・美」ですよ。

そして、「共にあると互いが引き立て合う」というのは、醜いものと美しいものは相互互換の関係性において、それを使って、（絵の訴えたいものを描く。）絵は美しく描くって、「美しい」という定義も難しいのですけれども、絵は訴えたいものがあるのですよ。

そこをこの二つを使わないと表せないんですよ。

どっちが良い悪いではないのですよ。

いつも申し上げるように重要だから言いますが、偽物に価値がなくて真実に価値があるんじゃないんですよ。

そういう宗教家が多いですよ。でも、そうじゃない。

真実と偽物の関係性なんですよ。

で、善悪なんですよ。

「善」が良いのであって、「悪」が悪いでしょう、というこんな幼稚な「悪」という、例えば戦争でもそうですけどね、どこに視点を置いて、どう見て、それがなぜ起こったかという関係性を解いていったら、果たして単純にあっちが良いだの、悪いだの、言えないです。

これは「夫婦」の問題も同じです。

「社員との関係」も同じです。

お上人様は、「善の中から生まれる善なんて偽善だ」って言うんですよ。

「こんなに善で、私はこんなことをやっていて、この会に入って…ああ、私は善だ！」ってこんな偽善でしょうと。

「悪の中から生まれる善が本物の善である」と言っているんですよ。

美しさも同じだと言うんですよ。

醜いものを受け容れた中から出てくる美しさ、それが経営の場だ、と（お上人様は）仰った。

まさに私が思っていたのは、「私が善だ！」という事でした。

そうじゃなくて、醜いものを受け容れなければいけない。

「思想を他に向けてはならない」との教えを今回も忘れてしまい、以前の全く何も変わっていないのは、醜いところの向き合い、そして関係性に対する姿勢が根本からは変わっていないからだと思っています。

ここまでで今回は振り返りが止まってしまったのですが、この関係性について引き続き言語化をいたします。心に掴んでおきます。

今回、以下の言葉が心に残ったのですが、言語化が間に合わず、ここまでになりました。言語化が間に合わないことに関しても今回新たな気づきがございました。以下の事柄については、日々取っているメモを言語化して、再度提出いたします。

【『運が良い』】

【ソクラテスの言葉】

【命は境界線上の動きの中にある】

【自分の行動に自分が責任を取る】

【絵画を通じた気付き】

【筆耕を行う中での気付き：変わらない自我と新たな気付き】

最後に、こちらはまだ部分でしか言語化を出来ていないのですが、最も強烈であったことを共有させてください。

【Xとのかかわり方】

5期第2講 レジュメ 57, 58 ページ レジュメ（お上人様のお言葉）

この関係性が大事か、自分自身が大事かという、関係性の方が大事だと考えます。
それを自己というのです。

「いや、私は関係性なんか関係ないよ、私は私自身が大事なのです。」それは自我なのです。

つまり、ご夫婦の場合だったら、ご主人の場合で言うと、自分自身を自己として認識したら、その目の前にいる奥さんとの関係性が非常に重要なのです。

夫である自分と妻である奥さんが結婚して、はじめて出来た関係ではありません。夫婦という関係はそれ以前にできているのです。どちらが先かという問題なのです。結婚するまで夫はいません。独身だったある男性と独身だったある女性が結婚することによって、それぞれが夫婦という関係性で結ばれて、それで夫には夫の立場があり、妻には妻の立場がそこで揃います。

5期第2講 レジュメ 58 ページ レジュメ（お上人様のお言葉）

自己の教育ではこのように考えます。夫婦の関係性が先にあって、そのパターンの中に入り込んだのは後だということです。そこで、妻にはこのような気遣い、このような心配り、妻は夫にこのような気遣い、このような心配りをしなければいけないという小さな条件項目がこの後いっぱい出てきますが、その前提として、この夫婦が「夫婦という立場」を「共有した時」に、お互いに夫婦だといえます。

私は妻と言う立場で夫婦、夫は夫と言う立場で夫婦。しかし夫婦の立場が成立したのが先なのか、関係性が先なのかとなった時に、実は関係性が先だといえます。そのように考える考え方が昔からあるのです。その関係性のルールも法則もあります。それを私たち夫婦がお互いに学びあうのです。

こちらにも雷に打たれたような衝撃でした。

この関係性が大事か、自分自身が大事か、と問われたときに、今までを振り返ると自分自身が大事だということで悩んでいたからです。

全くもって恐ろしい気持ちでした。

それこそナイフを突きつけられたような感覚です。

そこで、本当にXに申し訳ないと、「都合よく付き合ってくれるから付き合った」と気付いた時と同様、申し訳ない思いになりました。

なんと自分勝手だったことか！

それでも、この関係性を大切にしたいという自分がいます。

特に 58 ページの部分は重大なことをお話ししていることは分かりますが、まだ理解できておりません。

健康でいる責任については聞いたばかりでは言おうと思う頭がありませんでした。しかし、実践して見ねばと思い、早速実践してみたところ、普段Xは直接的に好意を伝える言葉を好むのですが、この時ばかりは逆に感謝してもらえました。手法ではなく、この気遣いや心配りを体得していきたいです。

— 後 略 —

(株)T
代表取締役 S・H
49 歳(男性)

【高次元経営第5期2講 感想文】

楠本代表、准子さん、事務局の皆様、今回も、誠に有難う御座いました。今回の講義を受けて、「統合の思想を学んでいる『自分自身』の大いなる価値」を知りました。竹内御上人様より「**高い思想とは『自分がこの世で如何に価値がある人間であることを説明する言葉の事』**です」と仰っていましたが、この講義を通じ、その事が今やっと、ほんの少し、わかった気がしております。

ただそれは、今が出発点であり、今後しっかりと自分の言葉で、概念化していくべきものだと考えまして、今回の感想文は、その為に頂いた「講義での重要なキーワード」や、自分が関連すると思った「お上人様の言葉」を、今後の私の為に記載させていただきます。

冒頭「はじめに」ということで、楠本代表より

(まとめ)「私の伝えたい事を申し上げます。**皆様のお陰で、テキストづくりを通し『私自身』をつくっていております。**それは『私の遺書』ともいえるものです。そして今、私自身を残すことが「仕事」となっている事に喜びを感じています。**しかし、ここが大事な点**ですが、私は何もできないのです。つまり**私という実体はない**のです。私の話を聞いて頂ける皆様が居なければ、ここに私は居ませんし、無償で会場手配や事務連絡を手伝うスタッフがいてくれないと、テキスト等につきアドバイスしてくれる妻がいてくれないと、何もできない私がいるのです。もっと言えば、竹内日祥上人との出逢い、御指導・テキスト・学習する場が無ければ、さらに言えば、両親が居なければ**私はいない**のです。今日のテーマ「私の実体は何か？」について、縷々いろいろな形でお話をさせて頂きたいと思います」

という、お話を頂きました。

テキスト 23～26P で福岡伸一先生からは…

- ・秩序は、守られるために（先回りして）絶え間なく壊されなければならない
- ・生命の本質は、その「動き」にある。生命は細胞の内にあるのではない。むしろ生命は細胞の外にあるわけでもない。生命は内と外の間、つまり境界線の上にある。でも境界線、つまり細胞の内と外を仕切る細胞膜そのものが生命というわけでもない。 **生命は境界線**

上の動きにある。外側から物質とエネルギーと情報を選び分けながら取り込み、内側から溜まったイオンと老廃物とエントロピーをくみだす、その絶え間ない動きの中に生命の本質がある

- ・よく私達は久しぶりに知人と遭遇した時、「お変わりありませんね」などと挨拶を交わすが、半年、あるいは1年ほど会わずにいれば、分子のレベルでは我々はすっかり入れ替わっていて、お変わりありません。かつてあなたの一部であった原子や分子はもうすでにあなたの内部には存在しない（人は変われるという事！）
- ・宇宙の大原則として、万物はエントロピーが増大する方向に動く ～中略～ やがては崩壊する構成成分をあえて先回りして分解し、このような乱雑さが蓄積する速度よりも早く、常に再構築できれば、結果的にその仕組みは増大するエントロピーを系の外部に捨てている事となる。つまりエントロピー増大の法則に抗う唯一の方法は、システムの耐久性と構造を強化することではなく、むしろその仕組み自体の流れの中に置く事なのである。つまり流れこそが生物の内部に必然的に発生する、エントロピーを排出する機能を担っていることになるのだ。

と教えて頂き、ここから「自己否定」や「創造的破壊」といった、思想を学んだ人間が実践する思想的行動が、最先端の生物学からみても、人間が存在し続けられる、成長し続けられる根拠として、正しい姿であると受け止めました

そして、36P の「相互関係性の原理」で竹内上人様から、さらに解説頂きました。

- ・つまり個人の願望を達成する欲望がいかに巨大であっても、それだけの条件では、その願望は達せられません。何故なら宇宙空間に包まれる一切の存在が、宇宙を構成する万物との協調的關係性の中でしか、そこに存在する事を許されていないからです。しかし**宇宙空間の中に存在する個としての存在には、独自の主体性の構造が含まれており、その主体性が独自であることの尊厳性を、深く自覚する当事者である事の意義には、軽からざる価値がある**ことも理解しておく必要があります
- ・即ち、**独自性のある主体者同士の関係性を結ぶ、両者の相互作用は、互いに、自己に、さらに成長せしめようとする傾向の内発動機に、強烈なインパクトを与えます。**つまり、出逢いの関係を通し、相互作用が起こる以前には発見できなかった自己を、自己の中に発見し、さらに高度なクオリティの高さを内包する、一層価値ある、新たなレベルの主体性を引き出す実力に変換していくのです。

ここから、私は「自己否定」「創造的破壊」を自ら進んで行い、「自我人格」から「自己人

格」へと自己革新を成し遂げ、主体性を発揮し続ける「**統合の思想を学習する人間**」には、**大いなる価値が宿る**と教えて頂いたと受け止めました。

また、楠本代表の「冒頭の話」は、ここでお上人様が仰る、相互作用による価値創造を具現化しているものだとして受け止めました。

このような知性を教えて頂くのは、まさに 67P でとりあげて頂いた、レオナルド・ダ・ビンチの言葉である

「最も高貴な娯楽は、理解（知る）喜びである」

解説

最も高貴な娯楽は「深い知性」、「知り得る筈の無い知性」と出逢う喜びです。これに代わる出逢いがありますか？私も考えてみましたが、「おいしいもの食べる」等の、ドーパミンが出る快感は、長続きしないのです。蓄えられないのです。この高貴な娯楽は、**蓄えられ、厚みを増していくのです。それが人間の厚みなのです。**

と解説頂きましたが、まさに今回、その事を痛感しました。昔（20 年以上前）竹内御上人様が「皆様、この経営人間学講座で使っている資料は、後になって『こんなとんでもないものを学んでいたのか！』と、その価値にびっくりされることになります」と仰っていた事を思い出し、当時は「そんなもんですかねー」位にしか思っていなかったのですが、こうして高次元経営実践勉強会を通じ、楠本代表のお陰で、やっとその価値に気づき始める事が出来ます。

『統合の思想』そして『統合の思想を学習する人間』は、とてつもなく尊いものではないか！」と感慨にふけっていると「あそこであの事も仰っていた！」と思い出し、未だ未消化ではありますが、今後自分のものとしていきたい言葉を書き写しておきます。

高次元経営実践勉強会：第 1 期 3 講

マネージメントを超える「創造的リーダーシップ」① 22P より

有機体システムの構造（その 2）自己組織性

自己組織性とは、無数のサブ・システムが、限られた環境条件のもとで、大宇宙空間から与えられた恩恵を受けて、自らの組織を自発的に生成し、且つ又その構造を主体的に変化させる性質を総称する概念である

「触媒性」

自我と異なる**自己の世界を発見した多様なサブ・システムは、宇宙のすべての他者と共に、**

統合的主体性の自由という触媒性を通し、無限の価値創造に貢献する

「非平衡」

安心にだけ安住する怠慢は許されない。**自己の偽善と保身のために、宇宙から届く巨大なエネルギーを浪費してはならない。危機への挑戦が価値創造を促す**のである

「開放系」

人間が、自己概念化の過程で、自己統合を実現するリアリティーは刺激的である。それは自我という閉鎖系と戦う自己が、開放系へと向かうプロセスである証拠だ

ドイツ：「企業理念・目的・ヴィジョン策定研修」資料より

自己の本質（立場）を明確にするにあたり、忘れてはならない六つの事実

- (一) 人間は誰でも、統合の思想に信を置くことにより、宇宙の根源場の価値にかなう目的は必ず実現します

近代合理主義のパラダイムで考えたり、信じたり、疑ったりして迷うより、この世界と、この人生は、はるかに神秘に満ち溢れ、不可思議な有機体の構造で成立しています。私達は、人間の浅はかな知恵・才覚で推し量り得ない事実を支える仕組みの中で生かされているのです。そして、目的を持つ条件が具わっているから、この世界に誕生し、存在し、思考し、行動する自由の恵みを与えられているのです。

- (二) 人間は誰でも、人生の目的を知る情報を、宇宙の根源場から送られている事実を確信しなくてはなりません。

人間個々が何も自覚しなくても、あらゆる人々は**宇宙の根源場**と繋がっています。この**繋がりが確信される事により、シンクロニシティ（意味のある偶然としか思えない一致）を次々と発生させることが出来る**のです。それは我々が**高い思想の前に完全な無我を実現し、その高い思想を通して、宇宙の根源場から送られてくる情報より英知を学び、自己に対する認識や、自分を成長させる思想的な条件を、衝撃的なショックと共に与えられる**からであります。

- (三) 私達が、この人生でこれまで過去に体験してきた事は、宇宙のエネルギーの場で、私達個人のものと、その宇宙的規模のエネルギーが交換されるはずの、総エネルギー量の内の、ほんの一部にしかすぎません。

人間は誰でも一般的に、この世界では、身体的感覚を通して現実を理解しています。しかし、**この現実の、私たちが知り得る物質的世界とは別の次元で、もっと複雑で、しかも「真実」の仕組み、すなわち有機体システムとして存在し、この現実が支えられているのです。私達は、その世界に、高い思想と、そこから導き出される思考と行動を通し、時空の相違を超越して、堂々と参入することが許されています。**

- (四) 私達一人一人は、それぞれ固有な立場で、人類が目的とすべき、地球全体を究極的に救済する意図を含めたヴィジョンの達成に、貢献することが出来ます

私達一人一人の人間が、その生涯を通して確信することの可能な、人生究極の目的は、人類全体の共有すべき目的を達成・実現する上で、絶対に必要不可欠な内容となっています。この事実を証明することが可能な思想が、統合の思想であり、その思想の内容が、有機体システムの仕組みで成立している、この世界での実相です。

- (五) 自分の生涯をかけて達成すべき目的を特定し、その目的を達成すべく、至心に行動する時、あなたの精神性は限りなく高められ、その価値の大きさは、はかり知れないものがあります

使命をもって思想に従って正しく行動に移る、その時の行動ほど、人間にとって最高の誠実はありません。人のために多大な犠牲を自己に求め、しかもそれが恐怖からの脱却の為ではなく、正しい使命観によって行われている時くらい大きな価値はあり得ません。何故ならば、その時に目的が達成されているからに他なりません。それが強烈なシンクロニティを実現・創造する為の、磁気パワーを備蓄する上で、我々にとって許された唯一の手段なのです

- (六) 私達一人一人が、まずもって、人生の目的を実現することが出来れば、宇宙全体のエネルギーをもたらす根源場に貢献し、それは地球全体、人類全体の理想の世界を実現する上で、大きく貢献することが出来ます

我々個々の立場で、どんな状況におかれても、例えば非常に苦しく絶望的な境涯に仮に居たとしても、その状態の中で、**統合の思想に忠実に、自己実現の達成を証明する行動に出る事**

により、自己の目的を達成していく日々を、創造的に実現すべきであります。この事実が、全世界の秩序を根底で支える有機体システムの中核的機能と直結し、ただちに完全な統合化を実現することとなります

これまでより、いっそう「実践を伴う学習」を通し、自己と向き合い、現実の世に価値を創造したいと考えますので、今後ともどうぞ、引き続き、ご指導をよろしくお願い致します。

会社名：L
役職：代表 氏名：S. J
年齢：45 歳 (男性)

感想文の公開：①開放可能

【高次元経営第5期2講 感想文】

本日の気づき

1月のフォーラムは何とか福岡に行けましたが、
その後、無理がたたったり、コロナ後遺症のダメージで一進一退の日々でした。

連休前に子供から風邪をもらい、気管支炎の悪化から
肺に穴が開く肺気腫となり、まともに話せない状態になったがゆえに、
大きな気づきがありました。

今までは色々な話の仕方、聞き方で相手に向き合っていました。
(向き合っているつもりでいたわけです)

本日の勉強会で、「はっ」と気づいたことが身体が弱くなってしまったがゆえに、大きな価値に転換したものと。。。

また、頭が真っ白になって、すべてのものごとが粉々になって
はじめて、その中にある世界があると、気づかされてしまった、という感覚です。

この数日、声が出せない状態（呼吸することすら苦痛）で話を聞くだけでいいですか？と文章で相談者に確認した上で相談いただく方とこんな向き合い方をしました。

目線を会わせて無言で60秒両手を握って、真心込めて、一切の妥協なしで

心の中では

「あなたの事を心から願って受け止めています」

「どんなことがあっても、僕だけはあなたの事を信じています」

「こんなボロボロな状態でも、会いたいと言ってくれて本当にありがとうございます」

願う、祈りを、ただ相手のためだけに念じていると

30秒くらいすると、相手の目から涙があふれてきて
(同時に自分自身も込み上げてくるものがあり。)

60秒くらいで、お互いに分かち合っている感覚になっていました。

非言語で、願いや祈りが相手に届いた瞬間でした。

共振、共感、共鳴し合うことに
今までいかに無駄な言葉を使ってきたのか、
(自分の都合の良いようにしてきたのか)

反省したのと同時に

健康でなくなって、何かを手放して、相手に身を委ねる(放擲する)そんな感覚で

その場の空気感(波長や周波数が高まって共振し合っている、の方が適切かも)の中に、
壁がなくなっている、そんな不思議な一体感でした。すべてが繋がっていて、すべてに意味
がある。

(自分も、相手も、それぞれが包み込まれているかのような感覚で、
言葉ではなく、それでも相手の問題と自分の問題が内包されていつつ、別の存在になって
いるわけでもない、そんな感覚で、お互いにお互いの無限の可能性を引き出し合っているイ
メージ)

お悩みを抱えられていた相手は、みるみる元気になっていって
ご自身の問題に向き合う勇気がある方の中から湧きたたれて、
意気揚々として、ご帰宅されました。

相手の変わっていく姿を見て、
自分は今まで何をやってきたんだろうと落ち込みもしつつ、
自分が変わることで、起きうる現実が変わる、という自覚になった
(まあまあ、他の方と比べても自分はできていると思い込んでいる自分が出ただけで
す。つまるところ、自分の方が勝手に(無意識に)線引きしてしまっていたこの事実が突き
付けられて、勇気をもってそれを、自分自身で受け入れざるをえない)

この気づきは、計り知れないほどに、自分自身の中からも新しい勇気が湧いてきてもいます。
(受け止め方、伝え方は、もっと人間の根源的なところで深く、深く繋がれる！)

呼吸することが苦しいからこそ、無駄なこと(自分のエゴ)をしていたことから解放されるという、なんともいいようのない恥ずかしさと怖ろしさ(このお勉強を続けることへの畏怖を含む)が合わさった【今までにない】複雑な感情が芽生えています。

(苦しいからこそ、楽をしたい、という欲求もあるわけで。。醜い感情があったからこそ、はじめて気づくことがあるし、この体のコンディションに感謝さえ湧き出てきます。しかも、これは内側から湧いてくるので、尽きないエネルギーに転換される。すごいパラダイムの変化だなあと。。呼吸機能は苦しいままですが)

そして、もうひとつこんなにも体調悪いにも関わらず、このお勉強を続けないと人間としての成長が止まって、だらだらしたまま死んだら絶対後悔する。
これだけは、間違いないと感じています。
以上のことを、妻と子供にも伝えて、

その後

妻の目を、子供の目を、何も言わずにじっと見つめて60秒、120秒。。 どのくらいの時間が経過したのだろうか

心の奥の深くから、真心を込めて無言で、目だけで感謝の想いを届けるとお互いに、ぐっと込み上げてくるものがあって

妻と子供、そして自分の事を大切に思ってくれる方々のためにも、
少しでも回復して、成長していく姿を見せないと報いることができない、

焼き切れない範囲で頑張ろう、と決心しました。

(頑張りすぎると、本当に他界してしまうラインを越えてします。過去のコロナ罹患で、超えてしまうと戻れない領域がある)

【補足】

毎回毎回、このお勉強のテーマはタイムリーに
自分が必要としているものが、あたかも自分のためにやってきてくれる
そんな不思議なタイミングやってきます。

C 株式会社

M・K

39 歳・女性

感想文の公開：①開放可能

【高次元経営 第5期 第2講 感想文】

楠本代表、准子さん、事務局の皆様、第2講の開催もありがとうございました。
今回冒頭で、感想文・振り返りを書くことについてご指導いただきましたが、実際のところ、あ〜まだ書き終わっていない、メンバーから気づきが浅いと思われるかもしれないから、正直に…よりも何に気づいたのか考えて書かないと…と、感想文を書くことの目的をすっかり忘れ、何かに追われながら書こうとしていたと思います。改めて自己と向き合うために、素直に感想文を書き進めたいと思いました。

レジュメ P8

頭(思考)を使って、行動(挑戦)に出る。

スキルは結果、付いてくる。

その付いたスキルは、手離す。(人に与える。執着しない)

それ(手にしたスキル)を使いたくなるが、使うのは頭(思考)。

行動に出たその「結果の事実」から、これと向き合い、頭(思考)を使って次の行動に出る。

普通の人、スキルを手にしてから何かをやろうとする。

そんなスキルはすぐに使えなくなる。また、そんなスキルを持っている人は沢山いる。

思考できる人は少ない。

(筆耕)

今やることは果たして何なのかです。皆さん。皆さんに言っているんです。皆さんこういう時はうちのメンバーとして聞かないと。その方がお得。

年を重ねるごとに貯めていくものは何でしょうか？スキルですかね？思考と行動はスキルも金銭も人脈も手に入れていくんです。結果ついてくるんです。

「スキルは手離す」と聞いた時、そんなことできないと瞬時に思いました。と同時に、過去の考え方や私の価値観を手放せないということにも繋がっていると感じました。なぜかという、今の私の立場やできること(習得してきたことはもちろん、それまでの努力も含め)、これまでの人生で積み上げてきたもの、嫌だと感じたものなどを手放すのが怖いと思っている私がいるからです。それを手放すと、ちっぽけな自分しか残らないということを恐れている＝今の私を認めるのが怖いという事だと思いました。(これは、客観的に見てそう思われるのが怖いという私の方が強いと思いました。それはどこかで自分はまだ少し頑張

ればできると思っているから?)つまり、自ら現状維持をしているのだと受け止めました。

普段の仕事の中で頭(思考)を使って、行動(挑戦)に出ているかという、できていません。だから、「まずは出来るようになってから」と行動に移す前の時点で、どんな時も周りや世間と比較したり、今の私が「できる・できない」で自分の行動を決めています。

以前から私の仕事の整理整頓を進めなければと思いながらも、そこに対してしっかりと自己と向き合うことも行動することもできていないという事実があります。とにかく仕事のルーティンというものをまず作り(漏れを作らず、ミスをしないように)それに沿って仕事をこなしている、自分に足りないスキルや知識を詰め込んでも、何も手放していないので、今の現実以上に変わることも動くこともできていないのだと受け止めました。

レジュメ P9

今、各自がやっている仕事の[目的]

- ・自分が惚れる仕事を自分が創る
- ・自分が惚れる自分の仕事、それは、自分が自分で誇れる仕事を自分が創る(創れる)の意
- ・それ(上述)が、仕事を通して自分を創る。という意味。
つまり、仕事＝生きる＝人生＝自分らしさ＝喜び
- ・自分で思考して、自分が行動して、自分が工夫して、自分がまた挑戦する。その自分を自分が尊敬し、その自分が幸福を創り、その自分が社会(顧客)に与えたものが、幸福となって自らに返ってくる。それをまた社会に返す。そのことが幸せを生み、そのことが積み重なる。それは、それだけは歳をとっても、死後にも、持っていける。

[目標]

- ・〇〇の[正社員不足問題を解決!経理のアウトソーシングで新たな働き方...]のようなものの良いところを頂き、思想で光を当てて(相手本位→つまり相手によって変える
→つまりオリジナルに相手のために作る
- ・体系化(整理整頓)する。
(一体、何ができるのか?→それは、顧客の①真の問題が分かり、それを②共有したら、全部解決できるからです)
理由 → 宇宙に連れってって!とは言わないから。一緒に階段を登っていけば良いんです。
そのために必要な地図。→それを整理整頓してみることで、各自の思考の枠が広がる。
問題は何か?→その問題の背景にある問題は何か?→その為に、何処からと、

何から、どの様にして、どう階段を登るのか？ → そこでの顧客の役割と、私の役割は何か？ → それが分かれば、全て完璧、顧客と共に成長していけるから。

『知識』よりも『聞く力』『共感する力』

『問題解決』とは、『依存させない』こと。

『問題解決』とは、共に道を歩くもの

『問題解決』とは、その事を通して『信頼の関係を構築する』こと。

問題の本質を知って、そこ(問題の本質)に辿り着いた道(プロセス)を、一つ一つ(共に)登って行くこと。その事(仕事)そのものが幸福であり、自らの人間としての成長と統合される。

伝えたい大事なこと

〇〇等、他に出来る事は全部出来る事になる(ただ活用すれば良いだけだから)

逆に、他が出来ないことは、人間に対する真の問題特定と共有と共感する力。

それが、それこそが我々に求められている。

実際、私はこのように仕事が出来ていません。会社として考えると・・・誰かに言われたから・・・生活の為に・・・「やる」という自分がいます。つまり、結局は他人を軸に自分の生き方を決定していることと同じなのではないかと思いました。

弊社では、Mさんと私の報酬30%アップについて対話し、思考していく中で、毎回どんよりとした気持ちになっている自分がいます。なぜかという、自分の中で捻くれた言葉や、現実を受け容れない自分のプライドが出てきているのを感じています。(思考しているのに、なんでそんな態度を取られるのか？どうせ今の私では無理と言っているんだろう。私も朝から晩まであれもこれも頑張ってるんですけど！何でいつもこちら側が思考していないという態度を浴びせてくるのか？という全く無思想な自分を都合の良いようにしか考えられない私が出てきます)

このように自分の仕事の姿勢を思い返す中、私は関係性を大事にしている方だと思込んでいましたが、全体と自分の関係性を無視しているのは私自身だと思いました。(それは私の世界の中での頑張りだから)

では、私はどうしたいのか？という、自分が惚れる仕事、自分が自分で誇れる仕事をやりたいと改めて思いました。今、目の前の仕事が落ち着いてから、大変な〇〇が整理できてから、私の役割としてはここまで…とやるべきことを先延ばしにし、自ら境界線を引いてい

と感じながら日々の仕事をこなしていますが、私がやるべきことは、まさに目の前の仕事を私がやりたい仕事として向き合うことが何よりも重要なのだと思いました。

私がやりたいことを、自分で決め、(言語概念化し) 挑戦し、自分が自分で誇れる仕事に全力で取り組んでいきます。今後ともご指導の程、よろしくお願いいたします。

会社名：株式会社F
役職：代表取締役 氏名：F・Y
年齢：57(男性)

感想文の公開：①開放可能

【高次元経営第5期2講 感想文】

-感想本文(MS 明朝)-

楠本先生、事務局の皆様、いつも大変お世話になっております。第2講もありがとうございました。

筆耕

この勉強するまでは、ここにいらっしゃる方の中にもあるかもしれませんが、俺はそこそこだと思っていたわけです。そこそこやっているぞと。じゃあ、そこそこやっているものを支えている実態が何かということがまるでわかってない、ということなのです。

私は、自分の問題に気付けない、特定できていないと感じています。それは、やはり自分はそこそこだと、業績も、社内の人間関係も、夫婦も、家族も、地域社会との関係性も、そう思わないようにしているが、心の底では、そこそこ、いや結構いけていると思っているから、自分の問題に気付けないのではないかと感じます。表面化しないと問題に気付けないから、問題ないと思っているのです。

また、まさに言われた通り、どうして現在の状況をつくることができているのか、今までの全てがあって今の自分があること、どれだけ自分が周りから支えられているかということが全くわかっておらず、自分は能力がないと言いながら自分の能力だけでやってきたと勘違いしている自分がいると感じました。

レジュメ7ページ 筆耕

対処・対応の為の意味の無い費用との継続ってあるでしょう。
ここに陥った人たちの共通用語があるのです。見事なる共通用語。なんだと思います。この勉強してもそうなのです。それはね、「どうしよう」というやつです。それがね、「どうしたらいいのでしょうか?」「そのためにどうしたらいいのですか?」
どうしようかはですね、手法なのです。全部手法なのです。「どうしたらいい」「どうする」「どうしたらいいんですか」どうしたらじゃないのだよ、という話なのですけどね。それは結果出てくるのです。どうしたらいいかっていうのは。
どうしたらいいかを聞いて、どうかするっていうのは、もうおよそものを考えてないっていうことの証明なのです。

私は問題が発生した時や、将来の悪い想像をした時、よく「どうしよう」という言葉が頭に浮かびます。「自分にできることはなんだろう」とも考えます。まさに思考ゼロで悩み、

結果、表面的な対処・対応をして根本的な問題に気付けないことが多いと感じました。

何故か、やはり理念・目的がないから、理念・目的からみた思考が全くできなく、根本的問題に気付かず、対処・対応を繰り返すことで、同じような悩みを持ち続けています。

売上の増減で一喜一憂することが多いのですが、何のために売上を上げなくてはいいのか、売上を上げて何を成そうとしているのかが明確でないため、将来の売上見込みが悪くなると「どうしよう」といつも考えてしまいます。

レジュメ 9 ページ

今、各自がやっている仕事の [目的]

- ・自分が惚れる仕事を自分が創る
- ・自分が惚れる自分の仕事、それは、自分が自分で誇れる仕事を自分が創る（創れる）意
- ・それ（上述）が、仕事を通じて自分を創る。という意味。
つまり、仕事＝生きる＝人生＝自分らしさ＝喜び
- ・自分で思考して、自分が行動して、自分が工夫して、自分がまた挑戦する。その自分を自分が尊敬し、その自分が幸福を創り、その自分が社会（顧客）に与えたものが、幸福となって自らに返ってくる。それをまた社会に返す。そのことが幸せを生み、そのことが積み重なる。それは、それだけは歳をとっても、死後にも、持っていける。

自分が現在までやってきた仕事で、自分が自分で誇れる部分があります。社会に必要とされる事業を行っている自負もあります。しかし、その目的が、業績の安定であったり、金融機関から良い評価を得たいであったり、自分の生活レベルを落としたいくないという自我から来ているものでした。

綺麗事ではない、その先のもっと高い目的を持ち、自分が惚れる仕事をし続けていきたいです。

レジュメ 19 ページ

そして夜は、その日一日を振り返り反省します。「将来なりたい自分」のために、「成し遂げたい目標」の為に、今日は何ができたか、と考えるのです。そしてできなかったことを反省し、明日できることを考える。

前回の田坂さんの中でも反省力の話がありましたが、日々の振り返り反省が全くできていません。何故できていないのか。成し遂げたい目標（目的）が明確でないから。目的が明確でないから問題に気付かず、思考が浅く、行動を変えられていないから。

10 日単位ではやっているからそれで十分だろうと、振り返りをやっている気になっていました。何かあった時だけ振り返り、それ以外の日は、「何もしなければ良かった」と思っていました。

レジュメ 54 ページ

部下の気持ちになり、部下の立場になり、部下の心になってやさしい言葉をかけてあげる人が優れた上司です。

～中略～

自分の接し方に問題があるのではないかということに気づかない人（考えない人）が多いのです。

部下の気持ちにならず、上辺だけで優しいふりをしています。そもそも、現場責任者以外の社員とは、対話はおろか会話すらろくにしようともしておりません。そこに時間をかけたくないとの思いがあり、自分がするまでもなく、現場責任者の仕事との考えからです。社員は私が何を考えているか、わかるわけがありません。

なぜ時間をかけたくないのか？私は本気で人に関わろうとしていません。これは社員だけでなく、全ての人に対してとっている行動です。

自分が正しいという思いがあり、他の人の話を聞いても、自分の考えに誘導したいという自分がいて、手っ取り早く済まそうとしているのです。

「人間は、正しいことを言って欲しいのではない。自分にとって都合の良いことを言って欲しいのです」これはまさに私です。

レジュメ 55 ページ

責任をとることばかり考えている自分を「自己」といいます。だから、自己というのは非常に立派な自分です。自己人格に目覚めた人の周囲にはその人を尊敬している人がたくさんいます。普通の人とは段違いです。桁違いにその人が好きだ、好きだ、好きだという人が周囲にたくさん出てきます。

この「責任をとる」とはどういうことか？この勉強に出会うまでの私は、上手くいかなかった時に自分だけが苦勞を負うことだと考えておりました。現在は、できるまでやり続けることだと考えておりますが、この認識は間違いないでしょうか？

今回も、振り返りを書くことに大変苦心いたしました。どうしても格好よく書こうとしてしまいます。一緒に学ぶ方々の感想文と比較して、自分の拙い文章に嫌気がさします。

また、自分の醜いところに気付かず、無理矢理言語概念化しようとしてしまいます。そんな自分はダメなんじゃないかと、そのことを良し悪しで判断してしまいます。

理念・目的を持ち、理念・目的に忠実に生きること、人を育てられる私になるため、今後も学び続けてまいりますので、引き続きご指導いただきますよう、よろしくお願いいたします。

年齢：38(男性)

感想文の公開：②匿名希望

【高次元経営第5期2講 感想文】

-感想本文(MS 明朝)-

楠本代表、運営の皆様

今回も設え、講義どうもありがとうございました。

P5の「現実直視(参考資料)の[18項目+おまけ]の実際の活用方法」で、過去から現在の私の姿勢につき、気づきがありました。

まずは事実の共有、そしてその背景の共有が展開されていますが、最近私が特に感じ、実践していることが当てはまりました。

②事実の『背景の共有(思考・価値観)智慧』――→[思考力]

知識・情報の表面的考え方と、その奥にあるもう1つの事実の共有

こちらの部分です。私自身、税務や財務といった定量的な部分に関わることが多くありますが、決算書からは知識・情報の表面的考え方からある程度整理はつきますが、その決算書の中にある一つの事実、そしてその背景は、対話からしかたどり着くことはできません。

お恥ずかしい話ですが、以前の私は自分の会社の定量的目標から、初回面談や定期面談の際にそのような表面的な話が主だったと、振り返ってみて感じます。

例えば出口戦略にしても、本来であれば経営者の方の人生そのものに関わることにしても関わらず、いわゆる金銭や税務的な損得の話が中心でした。ただ、それだけでも一定の結果は得られたと感じますが、決定的に欠けていたのが「**背景の共有**」でした。

この背景を知らずして、問題の本質を捉えることは不可能であり、問題の本質を掴めない以上は、問題は価値に転換することは不可能だからです。

私自身、本当に責任が伴っていたか、無責任だったのではないかと危惧しています。

思想・価値観学習を始めて、私の中で何か劇的に何か特殊スキルが身についたわけではないのですが、**向き合い方が大きく変わりました**。

例えば初回面談の際でも、以前は決算書等からの定量的な問題のアプローチが主でした(今でも局面によっては大事だとは思いますが)が、今は徹底的に事実の背景の共有をするよ

うに変化しました。

これは小手先のハウツーの話ではなく、単に私の、目の前の方に入る方のもっと知りたいという欲求が強くなり、その上で自分が本当にお役に立てるかどうかを考えるようになりました。

出身地、進学、就職、創業の経緯、現在に至るまでどのような人生を送ってきたのか、そして今起こっている問題点と背景の結びつきを、知りたいという欲求が強くなりました。

P58 のご夫婦の関係性の例で、ご夫婦の例がありました。

「夫婦」という婚姻関係といった物理的な現象の前に、関係性は存在しているという点は実際に仕事でも当てはまると感じました。

取引先であれば顧問契約、従業員であれば雇用契約といった物理的現象は発生しますが、関係性という意味ではずっと前から発生しているという気づきが生まれました。

その結果、婚姻、顧問契約、雇用契約が発生しているだけであり、やはり対峙している方との関係性が重要だと再認識しました。

P70 の総括になりますが、対峙している方と向き合っていく前にも、自分自身の失敗・不都合と向き合っていくために学習を継続していきたいと考えています。

今回も貴重な講義、ありがとうございました。

会社名：C 税理士法人

氏名：M・S

年齢：29 歳

【高次元経営第5期2講 感想文】

第2講ありがとうございました。

今回は社内メンバー(代表のみ現地受講)で集い、会社内の会議室にて受講させていただきました。

多くの方々のご支援で受講できたこと感謝の気持ちです。ありがとうございます。

今回の講義においても、まさに今自分自身が課題だと感じていたことが取り扱われて驚きを感じたところでございました。

その中でも特に意識に感じた3点を感想として記載したく存じます。

前回はじめて高次元経営の講義に参加させていただき、その後社内の感想共有会を経て、いざ感想文を書こうとパソコンに向かいましたら、感想文を書く手が全く進まず、なぜ書けないのか苦心いたしました。

そのまま書けない気持ちも載せて提出させていただいた前講感想文でございましたが、書けなかった悔しさなのか、もやもや感なのかわからない気持ちを抱えながら、臨んだ第2講でした。

講義の冒頭から感想文の紹介と、「自己と向き合う」感想文のお話があり、冒頭から強い衝撃を受けたことを今でも痛烈に感じています。その衝撃とともに、自己と向き合うことの重要性を重ねて感じたところでございました。

普段から、自分の行動や振る舞いを振り返ることを重要視している自分にとって、感想文を書くということは高次元経営での学習だけでなく、普段の自分を振り返る重要な時間なのだということを自分自身は認識し、今回公表いただいた多くの方の感想文を読み、皆様の向き合い方を参考させていただいているところです。

そんなことを考えながら、こちらの感想文も書き進めています。

次に、私が今の会社にジョインして以降、常に感じていることですが「問題(課題)解決」とは何かということです。

高次元経営の感想文紹介の会でもたびたび登場している某先輩と多くの時間仕事をともにする中で、つくづく言われていて、まだ自分ではその真意を理解しきれていないのではと思っています。

今回の講義資料の9ページの下部（『問題解決』とは～）の3つの文です。この3つは最近向き合っている仕事の出口を見据えたときに、いずれも重要と思い、この点を意識しつつ出口戦略を描きたいと考えています。

特に「依存させないこと」は「ともに道を歩くもの」を実現するためにも大事なことだと私生活でも強くしているところで、仕事でも同様だと考えています。

出口の見据えるタイミングがまさに今だからこそ、そう感じたのかもしれませんが、またどこかの感想文でこのことを書いているかもしれません。

最後に31ページ最後の文章で、「つくることよりも壊すことが先回りして行われるからである」という内容が今の会社の状況を本当によく表していると感じ、これ以降の講義の内容があまり頭に入っていないです。

自分の力不足や多くの課題を抱えながら、どのように前に進んでいくのか、会社を前に進めていくのか（自分の実家の会社をどうするのか）を日々悩んでいます。

そういっても日々の忙しい生活の中でそういった状況に向き合うことから、どこことなく遠ざかっている自分がいるようにも感じています。

そんなことを思い、聞いているとふと記憶を失ったようにぼっとしてしまい、時がとまっているようにも感じました。人間は今の環境を無意識に壊すことを避け、現状維持を望んでしまう生き物と思っています。だからこそ、自分はあえて先んじて壊してことを考えていかなければいけないと感じ、行動に出てみようと思います。

あまりまとまった感想ではないですが、次回の質問会よろしく願いいたします。

(男性)

感想文の公開：②匿名希望

【高次元経営第5期2講 感想文】

楠本代表、高次元経営の第2講の講義ありがとうございました。
今自分が思う率直な感想を書かせていただきます。

今回の講義でP49～に「自我人格と自己人格について」というお話がありました。
私は今の組織に入ってよく自我や自己といったワードを耳にしていました、今回初めて自我と自己との話を聞きその予想が根底から覆りました、自我と聞いた時の私の中の自我の印象は、自己中心的な自分勝手な考えという印象でしたが、「自我」とは客観的に物事を考える自分、客観的に物事を捉え、客観的に物事を考えるこれが合理主義だと書かれており、最初に聞いた時はそれは当たりまえの事で、合理的に物事を考える事は悪いことなのかと思いました。

2度、3度この部分を読み返し、これまでのお勉強の話を統合して考えてみると、やはり「自我」とは、客観的に物事を考え、他人との関係性を考えず、自己中心的な考え、私が最初にイメージした「自我」と今は一致していますが、この考えは間違っていますでしょうか？

一方で「自己」自己は主体的なもので、主体的とは関係的のどこ、この世の中は関係性により成り立っていて関係性によって自分の存在が守られているという考えだと書かれていました。

私はこれまで、主体的に行動したり、考えたりするタイプではなかったですが、世の中が関係性によって成り立っているという部分は腑に落ちた部分であり、これまでもそうした人間関係は大事にして来たつもりでした。

そうすると、私自身の中には「自己」はいるという事になるのですが、やはり違和感があり、「自己」があるという前提で過去を振り返りました、そうすると、恥ずかしい事に関係性を上手く利用して世の中を上手く渡り歩いてきただけなのではないかと気づきました。

相手の立場になり優しく声をかけたり、話を聞いたりすることもありましたが、それも物事を合理的に進めるための手段の一つになっていると気づかされました。

今回の講義を聞いて本当の意味での自己の目覚めが必要でそのために行動をしなければならぬと強く思いました。

立場が下の人に対して接するときも自分に間違いがあるかもしれない、もしかすると迷惑をかけているのは自分の方かもしれないという謙虚さを持ち人との関係を築くことを心掛けたいと思いました。

最後に、今回の講義の対話会を社内で行ったときに P57 の夫婦の関係性について話しまし

た、この部分について、私は深く考える必要があると思っていますが今はまだ自分の中でまとまりがなく（上手く取り繕って書いてしまう自分がいる）文章にできませんでした、楠本先生が第 1 講の感想文の説明をされたときに、感想が書けない理由を書いて開放して下さいとありましたので、文章で残しいつか書けるようになった際に自己の振り返りとしてこの感想文を見てみようと思います。

年齢：45(男性)

感想文の公開：②匿名希望

【高次元経営第Ⅴ期 2 講 感想文】

-楠本顧問をはじめ関係者の皆様貴重なお話を聞かせていただきありがとうございます。

AI 時代の「若手社員」「管理職」「経営者」それぞれに必要なモノ

「目に見える資本(金融資本)」→「目に見えない資本(共助経済)」

「志」を語る→働き甲斐→目に見えない報酬→このリーダーと共に、素晴らしい何かを成し遂げたい

AI は語れないし、AI に対してそのように思う事も、抱かせることもできない。

「人間力」の時代へ

昨年末から今年度に入り入社後 2~3 か月でのスタッフの退職が相次いで起こりました。これがなぜ頻繁に起こるのか？私自身がスタッフに面と向かって自分自身の志を語ることから逃げていた、同じく理念を語ることから逃げていたことを実感しました。

なぜそこから逃げてしまっているのかを考えると、会社の発展や利益を重視するあまり自分自身が理念を持って向かうべき方向からずれていってしまっているのではないかと

ずれていることをスタッフに感じさせたくないから目をそむけているのではないかと、いうことにたどりつきました。

楠本顧問からお話のあった「理念が歩いている」「理念が笑っている」「理念がないている」という自分自身が理念そのものとなるための学びをさらにすすめたいと思います。

価値観を学ばない限り、人は謙虚になれない

「そんなことは弱い奴が考えることだ。お前は弱い奴の立場でものを考える必要はない」などと言われて、自分はエリートだと思い込まされて、エリートだと自分も信じて生きてきています。だから、自分に間違いがあるなどとは基本的に考えないのです。そういう管理職の人が多いでしょう。どこの会社にもいます。謙虚ということの大切さがわからない人がおられるのです。立場でものを考え、見るのです。

私自身、なにかこのところちょっとした人の話し方や態度にたいして、わけもなくイライラしてしることを薄々感じていました。

自分がちょっと周りより能力があるようなエリートだといった思い込みがあることに気づきました。

だから新しいスタッフが入ってもすぐにやめてしまう。ふんぞり返っていないつもりでも部下の気持ちになり、部下と一体となって考えることができていなかったことをこの問題は教えてくれているのではないかと感じました。

まだまだ薄いかいだと自分でも感じており、このような感想を書くことが今は精一杯ですが、これから学び続け高い価値観を身に着けてまいります。

感想文の公開：②匿名希望

【高次元経営第 5 期 2 講 感想文】

高次元経営第 5 期 2 講の配信ありがとうございました。

全体的に共感、共感力について述べられていたと感じています。

その中で、会議資料の部分において、「知識」よりも「聞く力」「共感する力」のところで『共感する力は自分で気づきを書いて自己と向き合うこと以外ない、私が私と向き合って私の実態をどこまで知ったかの分しか相手を受け入れ共感することができない、自分の中でその馬鹿を見つけていたら共感できる』と講義でおっしゃっていたと思います。

これまで私が理解していた共感する力は相手の気持ちに寄り添い、相手の話を聞いて同じ気持ちになり、相手の期待している回答をすることが共感する力と考えていましたが、本講義の内容を聞き、これまでの過ちに気づきました。

特に自己と向き合うことについて、自分自身に問いかけ出てきた答えは自分にとって都合の良い思いや考えであって、本当の自分（自己）にたどり着く前に、向き合っているとしていました。そのように理解してと思います。その先にある醜い部分を引き出す前に思考を停止させ、それ以上思考をすることやめていました。それは、自分自身に醜い部分があることに気づいているにも関わらずその醜い部分は自分ではない、それは認めたくない自分がいて、思考することを止めていたと思います。

例えば感想文を直ぐに書こうとせず、まだ期限まで時間があるから後で。

後にする理由は書こうとすると自分にとって良い感想文にしたい。自分にとって良い感想文とは他の方がみても苦悩している自分でいたい。周りから良く見られたい。よく見られたい理由は、思想学習を始めて年数も経過しているので模範となるような感想文にしたい。年齢や立場からよく見られたい。立場を守りたい。思考が浅い、このままではたいした人間ではないと思われたくない。仕事もできないと思われたくない。それはすべて自分を良くみせようと考えているだけでした。

現時点ではここまでしか深堀できませんでした。この先にもっと大事なものがあると思っていますが、その先にあるものがまだ出てきません。

本講義を聞いて、自己との向き合い方について、自分自身の醜い部分を知り、相手に伝える（開放）ことで相手が同じような醜い部分に気づいたとき初めて共感したとなるのではないかと感じています。

まだ、思考が浅いと言われるかも知れませんが、講義を通じて共感できる人間になれるよう、自分自身と向き合い、開放し、共感する力を養っていきたいと思います。これが仕事や家庭にも出ていることを知り、少し不安となっている自分もいますが、この現実を作ったのも自分自身、この問題と向き合わなかった現実をここまでにしてきたのも自分と言うことも理

解しているので、一步一步進んでいきたいと思います。

まだまだ思考が足りないと思いますが、今後ともご指導のほどよろしくお願いいたします。

本講義もありがとうございました。

第5期 第2講 感想文

株式会社 K

S・M

年齢：50(男性)

楠本代表、スタッフの皆様、今回も第2講のご講義ありがとうございました。今回も様々な視点からご講義をいただきましたが、そのテーマを定義すると、真理に基づくこの大宇宙の在りようからみた、現代社会の問題、そこから明らかになる私達人類が共有する目的、そして私自身の目的と問題を統合した時、これから私自身がどう生きていくのかという問いかけをしていただいたと受け止めております。ダイナミックな大宇宙のテーマを前提にしつつも、私という一人の人間に光を当てた、普通では聞けないお話であり、到底理解は追いついていませんが、現代界での気づきを整理させていただきます。

気づきをいただいたキーワードはたくさん在りましたが、改めてテキストを見返した際に目を引いたのが、p10の「**幸せな人生を送りたいなら、それを何からの目的と結びつけなさい。人や、モノと、ではなく**」というアインシュタインの言葉でした。ここで言う「それ」とは何で、「何らかの」とは何かはわかりませんが、仮にそれがアインシュタインが生涯をかけて追求した科学であれば、人や、モノ（現象）と結びつける限り、その先にあるのは破滅でしかないということへの苦悩、科学者として純粋な知的探究心の先にあるのが人類の破滅ではあまりにも悲惨です。映画「オッペンハイマー」を観ましたが、その中で描かれるアインシュタインは、量子力学を否定したのではなく、受け容れられなかったのでもなく、科学が真理を突き詰める前提となる目的について苦悩している人物として描かれているように私は感じました。お上人様のおっしゃる、目標のみを追求すれば、その先にあるのは虚しさでしかないというお話が実際にどのようなモノであるのかを具体的に追体験できる気がします。

では目的とはどうあるべきなのか。目的とは何かについて、思索を深めていく切り口はたくさんあると思いますが、今回、講義で取り上げていただいた、「有機体システム思考に基づく宇宙を支える3つの原理」のお話は、その中心的概念の一つだと受け止めています。正確な言葉では在りませんが、お上人様がドイツの大聖恩寺の講義の前日、打ち合わせの際に、全ての生物が世界の中で有機的關係性の中で生きているのに、人間だけがその秩序を乱しているというお話をしてくださった記憶があります。その時に、ああ、人間はこの世界にとって邪魔な存在なのだと漠然とですが納得しました。一方で、代表がお話ししてくださった、縄文人や縄文人前の人類はおそらく、これらの「自己組織性の原理」「相互関係性の原理」「多様性の原理」を受け容れていたのではないかと考えます。この対比によって、近代における人類が、何を学ばなければならないのかがはっきりとしてきます。

有機体システム思考に基づく原理にかなう思考に基づく行動を人類が取り戻すことが必要であり、かつこれから社会が成長と発展していく上で必要であることを「中野信子さんのお話」や「ハーバード・ビジネス・レビューの共感力」「福岡伸一さんの書籍」では、同じように訴えているのだと代表が明らかにしてくださったのだと思います。

では、私は何をすべきなのか？まず、徹底的に自己に向き合うこと、自己の中の近代合理主義に塗れ、特に私は自分が人より優れているか、優れていたいという勝他の念が根深いという、この価値観を正しく見定め、この価値観は自分の成長を支えるものでありながら、同時に自分の尊厳性を損なうことにつながるという事実を受け容れ、自己否定による力を持って現実と向き合い、周りの人とへの感謝ができる人になる必要があります。

Kアラをそしてそこに関係する、財団をはじめとする組織を、大宇宙の原理に受け入れられるよう、3つの原理が生かされる組織に成長させていくには、私とその真理にかなう生き方をしなければなりません。私との向き合いが、そのまま環境との向き合いです。自分で自分を教育する。代表が常々おっしゃる教育というのはそう言うことではないかと思います。

今回の冒頭で代表がお話くださった「私という実態はない。この講義も、受講生やスタッフがいて初めてできるし、その前提として竹内上人との出逢いがあってこそであり、何より両親がいたからなのです」この関係性思考を、多くの人が確信できるようお手伝いすることにあります。今、ここにあることに感謝を持って、しっかりと自己と向き合ってまいります。引き続きご指導をお願いします。

税理士法人 T

M.S

年齢：53(男性)

感想文の公開：①開放可能

【高次元経営第Ⅴ期2講 感想文】

楠本代表、准子さん、講義の準備をされたスタッフの皆さま、いつも高い思想を学ぶ場を創っていただき、有難うございます。感謝申し上げます。

スイッチバックで冒頭、前回講義の「田坂広志氏の内容の鍵」のところで『考え方』を伝える為には『考え方』の元の考え方が必要」という話が出て、前回の講義で分かった気になっていた自分が、如何に浅いところでの理解(解釈)にとどまっているのかを気付かされ、冒頭からガックリしてしまいました。

改めて、第1講のテキストを読み直し、「結論に至る基本的な考え方を教える」というところの「教える」とは、「考える上での物差しを教える」という捉え方が出来ていない、表面をサラッと読んで分かった気になっていることが分かりました。代表が講義でおっしゃった「ハウツウでは人の心は動かない」という言葉のとおり、学んだことを低いレベルでしか受け止められないと、結果としてハウツウにしかならず、それでは顧客や部下の心を動かすことは出来ないのだと思います。

9 ページ

『知識』よりも『聞く力』『共感する力』

『問題解決』とは、『依存させない』こと。

『問題解決』とは、共に道を歩くもの

『問題解決』とは、その事を通して『信頼の関係を構築する』こと。

問題解決の本質を知って、そこ（問題の本質）に辿り着いた道（プロセス）を、一つ一つ（共に）登っていくこと。その事（仕事）そのものが幸福であり、自らの人間としての成長と統合される。

伝えたい大事なこと

〇〇等、他に出来る事は全部出来ることになる（ただ活用すればよいだけだから）

逆に、他が出来ないことは、人間に対する真の問題特定と共有と共感する力。

それが、それこそが我々に求められている。

「人間に対する真の問題特定と共有と共感する力」というところを読み、以前クレームをもらった M 社と O 社の件を思い出しました。M 社の経理の方に対しては、「共感力」ではなく「知識力」で対応していたことが私の問題だったのではないかと、ここを読みながら改めて考えさせられました。税の専門家であるという無意識のプライドが相手を「知識」でねじ伏せようとすることで、全く相手に対する共感がないということが私の問題だと受け止めています。これは、O 社の社長に対しても全く同じで、相手の気持ちに対する共感は全くなかったと思います。

振り返って自分の当時の気持ちを整理すると、共感力がないというよりかは、共感する気がないというほうが正しと思うのですが、そもそも相手のことを共感できない（受け容れる気がない）という点において、なぜ受け容れられないのかということの概念化（相手を通して自己の実態を知る）しないまま、知識だけで相手と対峙しているから、相手との軋轢を生むのだと思います。

22 ページ

また私たちは、知能が高い人よりも共感力が高い人のほうに好感を持つ、ということも事実です。残念ながら、成績がよいだけではむしろ畏怖の対象となり、協働的に仕事をするというわけにはいかないこともしばしばあります。

改めて思い返すと、実務を始めた当初は当然ながら実務経験はない訳で、自分が依って立てる部分は長年の講師経験で身につけた知識しかなく、その知識を自分の強みとして無意識に相手よりも優位に立とうとしていたのだと思います。そこには相手に対する共感性など一切ありませんでした。M 社から貰ったクレームは、私の問題が必然的に生み出した結果だと思います。

先日、W 弁護士からの依頼で、税務調査における税理士事務所の対応に不満を持っている社長と面談しました。詳細は割愛しますが、全問的な事が分からないから税理士に依頼していわれた通りに処理していたのに、税務調査で指摘され、対応も頼りなく不安だということでした。その社長は、今後の調査対応をどうすれば良いかということ（ハウツウ）も勿論知りたかったのですが、面談後にその社長から「勇気が出るアドバイスを有難うございました」とのお礼のメールを頂きました。社長の不安に共感できたからだと思います。これからの税理士は、AI には出来ない共感力が必要だと感じた経験でした。

それではなぜ、運のいい人と悪い人に分かれているようにみえるのでしょうか。
 ごく大ざっぱにいうと、**運がいい人というのは、①だれにでも公平に降り注ぐ運をより多くキャッチできる人**、また、**②より多くの不運を防げる人**、あるいは、**③不運を幸運に変えられる人**でしょう。

現実の捉え方というのは、結局、その人の「価値観」次第なのだとここを読んで思いました。運がいいか悪いかというのは、目の前の現実をどの様に受け止めるか、一見、不幸に見える現実を幸運（価値）に変えられるかと考えると、結局は自己が受け容れている価値観によっていくらかでも変える事が出来るのだと思いました。

光らないのは人間だけ。人間のかけているメガネは光りますが、人間の顔は光らないのです。それは、人間は一番罪が深いからではないでしょうか。人間だけが、宇宙の法則と違うところで生きています。だから人類の最期が来るかもしれません。宇宙が淘汰させるのです。厚かましい人はあまり長生きできない。これが宇宙の真理です。

だから世の中に役に立つようなことをして、ビジネスでもお客様を喜ばせ、関係者を喜ばせ、協力してくれた人に何倍もお返しをして、それを喜びにできるような価値観の経営者でないと、企業の経営はかえって社会や宇宙に迷惑をかけることになります。ゴミの山をつくったり、自分のエゴだけでビジネスをやるような人は経営者には不向きだということです。

「光らないのは人間だけ」「宇宙の法則と違うところで生きています」という言葉が心に残りました。ここに書いてある「それを喜びにできるような価値観の経営者」になるためには、関係性思考と共感力が必要だと受け止めました。この点、私に足りていない部分であることを今回の講義で改めて再認識させて頂きました。今後の顧客や部下と向き合う際の問題意識として心に刻みます。

自己の教育ではこのように考えます。**夫婦の関係性が先にあって、そのパターンの中に入ったのは後**だということです。そこで、妻にはこのような気遣い、このような心配り、妻は夫にこのような気遣い、このような心配りをしなければいけないという小さな条件項目がこのあといっぱい出てきますが、この前提として、この夫婦が「夫婦という立場」を「共有した時」に、お互いに夫婦だといえます。

私は妻という立場で夫婦、夫は夫という立場で夫婦。しかし夫婦の立場が成立したことが先なのか、関係性が先なのかとなった時に、実は関係性が先だといえます。そのように考える考え方が昔からあるのです。その関係性のルールも法則もあります。それを私たち夫婦がお互いに学びあうのです。

夫婦の関係性についてのお上人様の筆耕は、私たち夫婦へのプレゼントだと受け止めました。夫婦で繰り返し読み返したいと思います。今後ともご指導よろしくお願いします。

年齢：30 歳(女性)

感想文の公開：②匿名希望

【高次元経営第5期2講 感想文】

楠本代表はじめ、准子さん、運営に携わってくださった皆様、貴重な学びをさせて頂きまして、誠にありがとうございます。成長しなければいけないと思いながらも、苦しく、目の前に現れる壁の前をうろうろとしてしまっている自分を感じ、超えるための手がかりを掴みたいという想いで受講させて頂きました。誠にありがとうございます。ご指導よろしくお願いいいたします。

レジュメ5ページ 現実直視の実際の活用方法（目的）より

②事実の『背景の共有（思考・価値観） 智恵』→思考力

知識・情報の表面的な考え方と、その奥にあるもう一つの事実の共有

こちらの都合であってはならない（徹底的相手本位）→心配

③その上での、自社（全体）の方向性、戦略、戦術。それはメンバー一人ひとりの為であり、全体の為である事の動かし難い事実の共有（会社の方向性の前提問題）

→それら一つひとつに於いて徹底対話

→そして、この講義の意味と価値

④日本の問題＝業界の問題＝我社（組織）の問題＝私（各自）の問題

この問題解決こそ、自己の成長となり、安心の人生となる。

組織の経営数値を報告する資料を作成しながら、この数字をどう報告するかという事に頭を悩ませておりました。何に頭を悩ませていたのかと言うと、この数字の結果をどう表現するべきか、伝え方や、この数字からどんなことを質問されるだろうかと、発表するときの私の立場を気にしてしまっていました。追及されたらどうしようという思考です。この現実直視のお話を聞き、私は他人事のようにこの結果を捉え、この数字の結果を自分都合で捉え、相手（組織や社員のみならず、代表）の立場に立たず、一方的な捉え方ばかりをしておりました。しっかり現実を見て、事実を整理し、問題を明らかにしていくのが私の役目と気づきました。

会社の問題＝私の問題というのを、頭に於いていたつもりでしたが、実際に現場で動いているのは、税務担当者であると言う風に私自身が捉えてしまっており、数字に対しても他人事のように捉えてしまっておりましたが、それを支え、導くのが戦略総務であり、私の問題

は全社員共通であるということをやっと少しですが、実感が湧いてきたように思います。私の行動の変化や発言の変化が、組織の貢献になる事を信じ、恐れずに挑戦していきたいと思っています。

レジュメ 9 ページより

自分が惚れる仕事を自分が創る。

自分が惚れる自分の仕事、それは、自分が自分で誇れる仕事を自分が創る（創れる）の意
それが仕事を通して自分を創る、という意味

つまり、仕事＝生きる＝人生＝自分らしさ＝喜び

自分が惚れる仕事を自分が創るという言葉にはっとしました。仕事とは、問題を解決することだとずっと教えていただいております。そうであるにも関わらず、毎日の仕事を言い訳にやるべきことが出来ていないことを見逃してきましたが、その自分は自分が惚れるか？という、何をしているのだと喝を言いたいです。大変になるかもしれない、自分には出来ないかもしれないという後ろ向きな事ばかり考えておりましたが、創ろうと思ったら創れると代表が仰っていたように、私は創りたいと思っていたのだろうかと考えました。

挑戦する人はカッコいいと思っていましたが、自分の出来る仕事を毎日行っていることが自分の安心につながっております。安心とは、心の平穏という、変化も何もないことです。それが、トラブルにもならないから安心だと感じておりました。しかし、それは思考していないという事です。そこに自分があるのかと言うと、全くありません。今、私が抱える問題を価値にするということに挑戦する方が、何十倍も意味があり、大変かもしれませんが価値あることだと、代表の話を聞いて勇気を頂きました。

出来る、出来ないではなく、出来るようにするためにはどうすれば良いのかを相談しながら、小さなことからでも挑戦し、我社の番頭となるべく、変わって行きたいと思っています。

学んだ思想をご自分の思考原理として実践する為の「質問会」

(高次元経営 第5期2講「質問会」に向けての質問)

① 質問（問題）の要点

家族に対し、思想のお話をしたいと思い、自分の振り返りをお話するところから始めましたが、家族の状況は変わっていないように感じます。焦ってはいけない、待つことも大事だと思っていますが、私の伝え方や、私に問題があるから伝わっていないかもしれないと思っております。

② ①の質問（問題）の背景を具体的に

姉夫婦が喧嘩をするたびに私のところに相談に来てくれます。力になりたいと思い、夫と一緒に考えてくれます。姉夫婦に子どもが生まれ、喧嘩はしばらくは落ち着いておりましたが、最近また話を聞くようになり、姉夫婦の関係性を大変心配しております。姉も私と同じで、自分の考えは正しい、私はこんなにしてあげているのにという思いが強いので、私を見ているようだと思い、私もこんな風に思っていて、、でもこういう勉強をしてこんなことに気づいたというお話をするのですが、「何故私が下でに出ないといけないのか」と言われてしまいました。私の伝え方が悪かったのかなと思い、その後はどうお話していいか分からなくなっていました。

③ あなたのお考え（思想的振り返り…学んだ内容と照らし合わせた場合、今回の質問の内容をご自身がどう受け止めているのかをご記入下さい。）

人は正しいことは言ってほしいとは思っておらず、自分に都合の良い事を言って欲しいと思っているというお話が今回の講義であり、確かに、愚痴を言っているときに正しい事を言って欲しいのではなく、共感してもらいたいという思いの方が強いかもしれないとお話を聞きながら思いました。私は姉の話を共感的に聞けておらず、私が上から目線で話をしてしまっていたのではないかと思います。まず、姉の話をしっかり聞ききるということから始め、姉がどうありたいのか？どうしてそう思うのか？姉の立場に立てるように話を聞くことから始め、姉にどうしていききたいのか？どういう関係性になっていききたいのか？という事を問い、一緒に学んでいくということに挑戦していこうと思いましたが、間違いや、足りないところをございましたら、ご指導の程お願いいたします。

感想文の公開：②匿名希望

【高次元経営第5期2講 感想文】

本講も貴重な学びを有難うございました。自己を知るために筆耕することの大切さを教えて頂きましたので、感想文を書きながら自己を振り返り、成長に繋がりたいと思います。

1. 「運のいい人」

運に恵まれることは、自分では変えられないと私も思っていました。その人がもともと持っている運やツキは、生まれつき決まっていることだと漠然と感じていました。私は、自分の運をよくすることの一つとして、徳を積みめばよくなるのではないかと考えています。ですから、一日一善を積み重ねて運をよくしようと行動しています。そうは言っても悪いことが続く時もあります。そんな時は、徳の積み方が足りなかったから運に恵まれなかったと思っています。しかし、今回の講義で、「運はコントロールができる」と聞いて、運はコントロールできるわけがないと半信半疑でお話を聞いていました。「運」というものは必ずしも、その人が生まれつき決まっていたりするものではなく「その人の考え方とそこからくる行動パターンによって変わる」とお聞きして、私の会社の社長の考え方は、まさに「運のいい人」の考え方と行動だと気が付きました。仕事を通じての社会貢献はもちろん、障害者施設や児童福祉施設への支援や災害があった地域への義援金支援、社員と一緒に地域の清掃活動など積極的取り組んでいます。また、社員のためにこのような講義にも参加させてくれます。いつも社員の幸せを願い、色々な面で支えになってくれています。この考え方と行動は、運を引き寄せることができる考え方と行動パターンではないのでしょうか。

では、自分の脳を「運のいい脳」に変化させるには、どうしたらいいのか？講義から学んだことは、まずは自分をていねいに扱うこと。他者を思いやる気持ちを持ちや自分だけがいい思いをせず、他者のために、他者と共に助け合っていく。それから、祈りです。この祈りは、将来なりたい自分や成し遂げたい目標を祈り、その為には何ができたと考え、できなかったことを反省し、明日できることを考えるという習慣化すれば脳は変化していき「運のいい脳」になっていくと信じて行動しようと思いました。運をよくするための考え方や行動パターンが自然に身につけられれば、見えない運が味方して運をコントロールできると思いました。

2. 動的平衡ダイアログ

動的平衡の原理とは、一粒ひと粒の細胞は決して体全体を俯瞰することができないにもかかわらず、全体の地図がその内部におりたたまれているかのようなあり方。個は全を

知り、全は個の集積以上のものとなる。このお話を聞いたときに、人間学で学んだ全体と部分の関係性を思い出しました。生命の仕組みも、宇宙の摂理も同じであると納得することができました。

価値観の転換は、新たな出逢いを創る。出逢いによる対話を通じて自己を知る。つまり、人生を変える。より豊かに。この言葉を聞いて、自分の価値観と同じ人と出会い、類が友を呼び、価値観の成長をしていけば、成長した分の人と出逢いがあると思いました。

3. 新たな価値を創造する問題解決「システム思考」

現代の学者が考える3つの重大な原理について、自己組織化・相互依存性・多様性共存の原理が、宇宙におけるすべての現象と結びついていることを教えて頂きました。これらの原理から、個々の主体性や関係性の構築、古いものを新しい創造に変換する働き、全てが唯一無二の存在であることは、宇宙だけでなく企業においても結びついていることであるということを学びました。

4. 有機体システムに基づく宇宙を支える3つの原理

自己組織性が生物を形ある生物として存在させているが、それだけでは我々は存在することができず、関係性がその存在を誕生させたということを学び、自分は様々な繋がりによって生存させてもらっているということに気づきました。これまで、関係性について度々教えて頂きましたが、いかに、関係性が大切かを実感し、自分がこの世の中で存在が守られていることは、とても有難いことだと思いました。自分が恩返しするためには、価値観教育を学び続け、価値の高さ・深さ・広さ・長さを深めて、成長し続けて行くことが大切だと思いました。ただ、まだまだ有機体システムについては理解が足りず、これから勉強が必須ということを認識しています。何度も読み返し、もっと思考を深めていきたいと思っています。

5. 時を超えて、語られる喜び「感動」「幸福」

レオナルド・ダ・ヴィンチの言葉からは、自分を振り返るために度々目を通したくなる言葉ばかりでした。その中でも、楠本様が言い換えられた「つねに恐れず、進む者は、数々の感謝にあい、しばしば敬られる」という言葉は、恐れず進んだ先には成功という功績だけではなく、感謝や尊敬に出会えるということを教えてくれるという、とても私に響く言葉でした。新しいことに挑戦することは、自分の成長だけではなく、周囲へも良い影響を与えられることを知ることができ、何事にも積極的に挑戦し、数々の感謝に出会い、尊敬してもらえる存在になりたいと思いました。

会社名：株式会社 K

氏名：I. M

【高次元経営第5期2講 感想文】

代表、准子さん、皆様、いつも本当にありがとうございます。

レジュメ 24～27 ページ

しかし、私たちが、生物として自分の体を感じ、あるいは他の生物と触れ合ったとき、そこに生命を感じることができるのは、生命の第一義的な特徴として自己複製を感じるからだろうか。おそらくそうではない。

自己複製が生命を特徴づけるポイントであることは確かではあるが、私たちの生命観には別の支えがある。柔らかさ、温度、揺らぎ、粒だち、可変性、回復性、脆弱さ、強靱さ、形、色、流れ、渦、美しさ・・・私たちは、たとえ言葉にできなかったとしてもそれらが生命の重要な特性であることに気づいている。では、それらはいったい、生命の何に由来するのだろうか。

(中略)

よく私たちは久しぶりに知人と遭遇したとき「お変わりありませんね」などと挨拶を交わすが、半年、あるいは一年ほど会わずにいれば、分子のレベルでは我々はすっかり入れ替わっていて、お変わりありまくりなのである。かつてあなたの一部であった原子や分子はもうすでにあなたの内部には存在しない。

(中略)

私はここで、シェーンハイマーの発見した生命の動的な状態という概念をさらに拡張し、とくに「秩序は守られるためにたえまなく壊されなければならない」ということ、つまり生命とは互いに相反する動きの上に成り立つ同時的な平衡=バランスである、という点を強調する意味で、動的平衡という言葉でこれを表したいと考えた。

(中略)

動的平衡は「生命観」であるとともに、「世界観」でもある。動的平衡によって生命を再解釈することは、世界を再定義することでもある。近代の思考は、あまりにも要素還元論的に、世界を分解し、その組み立てとして機械論的に生命を、そして世界を捉え過ぎてきた。アルゴリズム的な因果律として、世界の成り立ちを考え過ぎてきた。その必然的な帰結として、私たちがどのようなリベンジを受けつつあるか、それは昨今、起こった様々な災害や事故のことに思いを馳せれば明らかである。動的平衡は、古くて新しい世界観であり、機械論的・因果律的な世界観に対するアンチテーゼ、あるいはアンチドート(解毒剤)としてある。

動的平衡は「観」である、と言う事、そして、柔らかさ、温度、ゆらぎ、粒立ち、可変性、回復性、脆弱さ、強靱さ、形、色、流れ、渦、美しさ…この、あまりに愛おしい、(悲しい)ものを、高い思想で統合して観る事のできる人になりたいと思いましたが、あまりに自分が真逆で、要素還元論的に世界を分解している事をしている現実が、今回もわずかに見えてき

ました。私は、感性は鈍くない人間だと自分で自分を「誤認」しています。私自身がたえまなく壊されている上で守られている、この動的平衡の働きのお話しは、私の在り方について、非常に考えるところとなりました。

と言うのも、今月、4週にわたる朝礼における週目の総決算として、「自分の惚れる仕事の創造」「去年と比べて変わった（変えた）点、逆に変わらなかった（変えなかった）点についての効果測定」の思考をした事と、同時に、通信のトラブルが立て続いた事と、父の危篤（お陰で乗り越えましたが）が重なった事がきっかけになったからです。

経営をする上での内発動機を、少しずつ形にしていますが、その内発動機を持って、私が一体何を持って仕事とするか、と言う点について、理想の姿が具体性に欠けると言う問題意識がありました。代表からは「今、やっている事を書き出す⇒なぜ必要か⇒メニュー（自分）＝（朋）」とお題を頂いていますし、30項目もあります。週目での観点、そしてそれを目の前の現実から考えてみるという視点で、今月は考え進めました。

その中で、例えば「今やっている事」の一つ、システム管理についてをとりあげると、トラブルが無いように、また、トラブルへの対応に「終始」してしまいます。これは目の前の業務に追われるメンバー皆の姿に重なります。これだけ組織がうごめいている中、私の捉える組織（場）の理想の姿が、常に深化し続けないと、先取ができないです。

また、諸々、今行っている業務は、昨年と比べてどう変わったか、と言う点について、作業レベルの話しだけで言えば、昨年していなかった内容は確かにしています。ただ、それは、自分が必要だと取りに行っている訳ではなく、「他の人ができなくなったから、または他の人がしないなら私がする」と言うレベルです。以前、Fさんが感想文で、同じ内容を書いていて、その時は正直、何を言っているんだと、共感できない、と思っていたのですが、全く一緒だとわかりました。

これは私の価値観による行動なので、家族の関係においても全く同様に、仕事と、介護、両親のケア、家事、親戚づきあい、実家の事業継承、地域活動なども、「両親ができなくなったから、私がする」と思っているから問題が出るのだとわかります。母は、私に、「あなたは全く何もしない」といつも不満を言いますが、それを形容詞にすると、「さみしい」と言う事なのだと思います。でも、私自身は、その母のさみしさに共有してしまうと、私のしたい仕事ができない、と抵抗します。分離であり、「柔らかさ、温度、ゆらぎ、粒立ち、可変性、回復性、脆弱さ、強靱さ、形、色、流れ、渦、美しさ…」この、あまりに愛おしいものを、丁寧に扱うと、私が困る（不都合）とでも思っているのだと思います。

通信の不具合の後、チームミーティングの中で「そもそもインフラって、道路とかと一緒に

で、きれいに舗装してあって、スムーズに走れるのがデフォルトだから、アスファルトが欠けたり、石ころが落ちてきたら、文句を言われるんだ！」という私のシステム管理の本音の恥ずかしい愚痴について、Mさんから「そもそも、目的集団なのだから、Kアラのどんな仕事も（自分がしていない仕事も）目的に向かう上で必要な私の仕事で、その仕事を私の代わりに皆さんがしてくれている、と考えると、周りの方への本当の感謝になるよね、といつも代表のお話をきくと思う。」という言葉でご指導を頂いた事が、今、非常に刺さっています。

まだ、まだ、思考の途中ではありますが、経営計画を具体的に詰めていく事を通じて、意識的にどう行動を変えるかを考えていきたいと思っています。

会社名：T S
役職：氏名：F・K
年齢：39（男性）

感想文の公開：①開放可能

【高次元経営第5期2講 感想文】

-感想本文(MS 明朝)-

代表、准子さん、いつも貴重な学びの場を頂きましてありがとうございます。
また運営を支えて下さった皆様、事務所を支えて下さった皆様、いつもありがとうございます。

今回の講義でお話し頂いた「有機体システム思考」について、我が社の理念だと思って聴いていたのですが、途中から全く理解が追いつかず、こんなに深いものだったのかと思いました。そして、資料を何回も読むうちに「何の為に仕事をしているのか」を考えなおすきっかけとなりました。

P35

(1) 自己組織化の原理

この宇宙と、宇宙を構成する万物は、共に有機的生命システムの機能を有し、本質的に外部環境からの統制・コントロールを拒否する循環システムにより成立しています。すべての企業は、より大きな自然システムや、社会システムの内部に埋め込まれており、それらのシステムと相互に深く関係するものとして捉えなくてはなりません。なぜなら企業と雖も、大宇宙システムに包み込まれたサブシステムだからであります。

P47

初秋の頃に東京のある大きな神宮に参りますと、参道の脇に銀杏の葉っぱが全て落ちてしまいます。朝などは太陽の光が参道を照らし出すとキラキラ光るのです。太陽に当たったものは光ります。このことは物凄く重大な意味があるのです。太陽の光が当たるとすべての万物は光り出します。自然に、自然的に存在するものは光るのです。

光らないのは人間だけ。人間のかけているメガネは光りますが、人間の顔は光らないのです。それは、人間が一番罪が深いからではないでしょうか。人間だけが、宇宙の法則と違うところで生きています。だから人類の最期が来るかもしれません。宇宙が淘汰させるのです。厚かましい人はあまり長生きできない。これが宇宙の真理です。

このお話を聴いて

- ① この世界の万物は宇宙の根本原理である「有機体システム思考」の機能を有している。
- ② 「有機体システム」は大宇宙のシステムのすべてにあり、超微粒子、細胞、人間社会、家庭、そして企業にも当然ある。
- ③ KA は、「顧客満足の徹底追求」という目的を通して、「有機体システム」という宇宙の原理原則を伝え「経営のパラダイム」を変えていく。

と自分のなかで整理しました。言葉にしてみれば簡単のように思いますが、それぞれの言葉の深さを考えてみると、自分はとんでもない会社に入ってしまったのだと感じました。同時にこれ以上高い理念の会社はないことも理解できました。ここで全力を出さないで逃げ出したら死ぬときに後悔することも直感的に分かります。

そして、理念の高さを再認識した瞬間からやるべきことが明確になった気がします。今まで、毎月監査、時期が来たら決算前、決算、申告。その間で困っていることを引き出し経営支援業務への提案、のようにやらなければならない仕事としてタスクをこなしてきましたが、自分の仕事が宇宙の原理原則を伝えていくことと捉え直すと、今までの仕事は作業だと思いました。宇宙の原理原則である有機体システム思考であれば、常に変化していく動的な状態なので同じ仕事というのはあり得ないと思います。つまりパターンで行う仕事ではなく、常に時代の変化に合わせて動的に進化していくべきものなのだと思います。

以前、KA の目的である「経営のパラダイムを変える」という言葉が格好良くて好きだと思っていたことを思い出しました。何も分かっていなかった時は、頑張れば自分が世界を変えられると言葉の響きからそう考えていたと思います。その結果、変えられない現実から、変えられる特別な人が変えたらよいなと依存していました。自分で考えて責任を取ろうとはしていなかったです。

能力への執着が無くなっていたのがその証拠なのだと思います、自分が責任を取るなら能力の勉強をし続け、足りないところは借りる姿勢になるはずですが、そうではなかったです。

今回の講義を聴かせて頂き、「経営のパラダイム」を変えられるかは、自分が「有機体システム思考」をどこまで確信できているか、それを行動で示せば結果の責任は現れるものだと思います。いつも代表が言われている「結果の責任は思想がとる」という意味がようやく少しだけ分かった気がします。そして、代表が宇宙の話や物理学の話もずっとされていたのも、宇宙の原理原則を伝えようとして下さっていたのだと分かり、それだけ理念が高いので伝えることが難しいものを大変な熱量をかけ続けて下さっていたのだと思いました。それが分かったと、自分には何も分からない人に、宇宙の原理原則を膨大な時間をかけてまで伝えようとする愛情がない大きな問題があることも分かります。

P25

つまり、外から来た栄養素は、生物の体のなかをまさにくまなく通り過ぎていったのである。しかし、通り過ぎたという表現は正確ではない。なぜなら、そこには物質が「通り過ぎる」べき入れ物があったわけではなく、ここで入れ物と呼んでいるもの自体を、通り過ぎつつある物質が、一時、かたちづくっていたにすぎないからである。つまりそこにあるのは、流れそのものでしかない。

中略

よく私たちは久しぶりに知人と遭遇したとき「お変わりありませんね」などと挨拶を交わすが、半年、あるいは一年ほど会わずにいれば、分子のレベルでは我々はすっかり入れ替わっていて、お変わりありまくりなのである。かつてあなたの一部であった原子や分子はもうすでにあなたの内部には存在しない。

人としての物的な器がなく動的な存在である以上、価値観が変わればいつでも生まれ変わるのだと思いました。

自分自身を自己差別化してみると、価値判断の基準が思想学習する前の自分の価値観とは違うので、別の人生になっていると思います。そうであれば自己革新し続ければ、理念を確信できる自分にも生まれ変わることができ、自分で運命を創造していけるとと思います。そう信じたいと思います。

代表、准子さん、いつもあたたかいご指導ありがとうございます。早く自己革新できるようにしっかり向き合っていきたいと思います。引き続きご指導のほど宜しくお願い致します。

会社名：株式会社 K
役職：なし 氏名：A・M

【高次元経営第5期2講 感想文】

楠本代表、准子さんをはじめ事務局の皆様、いつも貴重なご講義ありがとうございます。

最近、日々の仕事の中で自分は一体何を目指しているのか、私の使命とは何か、今の仕事に誇りが持てているか、と考えることが増えました。

今年、子どもたちが大学4年生となりいよいよ学生を卒業し社会に出ることになります。

就職を目の前に子どもたちと話す内容は、自然と「仕事とは」「働くとは」になります。親として私自身が自分の仕事とどのように向き合っているか。自己と向き合った分でしか、子どもたちにも伝えられないと考えています。

講義の初めに代表より「私の今後(今)のご報告」があり以下の言葉がとても印象に残りました。

■統合学術研究所の再生について 筆耕

統合学術研究所のことについては、以前の講義で2000年のエキスポのことを少しお話ししましたがあれはまだほんの少力で今期でも一度またどこかできちんとお話ししたいと思っています。

ただ、皆さんが今思っている以上に想像つかないくらい、あまりに巨大なものなのです。

私ごときで出来るか出来ないかなんてそんな事は考えないでやるのです。

思想と言うものは出来るからやると言うものではないのです。

何だかよくわからない(代表の覚悟の大きさもこの言葉の意味の深さは到底理解出来ない)のですが、胸がグッと熱くなるような、自然と頭を下げたくなるような気持ちになりました。私なりにですが「普遍的理念と目的」を確信した人の行動、生き方とはこの気迫と覚悟と説得力を持つのだと代表の姿を通じて教えて頂いたように思いました。

このお話もあり、(株)B ミーティングの際に頂いた言葉が今の私の仕事の向き合い方を考えるきっかけを頂いたように思います。

■(株)B ミーティング「本日伝えたい鍵(キーワード)」

頭(思考)を使って、行動(挑戦)に出る。

スキルは結果、付いてくる。

その付いたスキルは、手離す。(人に与える。執着しない)

それ(手にしたスキル)を使いたくなるが、使うのは頭(思考)。

行動に出たその「結果の事実」から、これと向き合い、頭(思考)を使って次の行動に出る。

普通の人、スキルを手にしてから何かをやろうとする。

そんなスキルはすぐに使えなくなる。また、そんなスキルを持っている人は沢山いる。思考できる人は少ない。

(中略)

今、各自がやっている仕事の[目的]

- ・ 自分が惚れる仕事を自分が創る
- ・ 自分が惚れる自分の仕事、それは自分が自分で誇れる仕事を自分が創る（創れる）の意
- ・ それ(上述)が、仕事を通して自分を創る。という意味。
つまり、仕事＝生きる＝人生＝自分らしさ＝喜び
- ・ 自分で思考して、自分が行動して、自分が工夫して、自分がまた挑戦する。その自分を自分が尊敬し、その自分が幸福を創り、その自分が社会（顧客）に与えたものが、幸福となって自らに返ってくる。それをまた社会に返す。そのことが幸せを生み、そのことが積み重なる。それは、それだけは歳をとっても、死後にも、持っていける。

経理改善業務に於いては、どうしてもスキルが必要だと思われがちです。確かに基本的なスキルも必要なのですが、経理改善に於いてスキルを身につけようと思ったら、フロー図の書き方、ヒアリングの仕方、何種類もの業務ソフトの特徴や長所短所や操作の仕方、助成金の手続きの仕方等覚えることはたくさんで、更に会社の状況に応じて改善提案の組み合わせは何十通りもなります。だからスキルを手にしてから経理改善に取り組むと言っていたらいつまで経っても踏み出せません。これは経理改善業務に限ったことではなくどの業務に於いても同じではないかと思うのです。

それよりも大切なことは頭(思考)を使って、行動(挑戦)に出るつまり、お客様のところに行ってお困りごとを聞ききる(行動)。

そして思考したことをお客様に提案(行動)する、一緒に改善(行動)していく。不都合なこと(問題)は常に出てくるので、解決のためにお客様にヒアリング(対話)を行い(行動)ながら、業者に問い合わせたり(行動)して解決策を見つけていく。それらの繰り返しを通じスキルは結果、付いてくるのだと思います。

私たちの目的は、理念に基づく「顧客満足の徹底追及」です。お客様の問題を共有し共に解決していくことが、仕事の目的に繋がり、私自身が惚れる仕事をしていることになるのだと改めて教えて頂きました。

冒頭に筆耕した代表の言葉をお借りするならば、「私ごとがお客様の問題解決が出来るのか出来ないのか、そんなことを考えずに我社の理念から考えたら、やる(お客様の問題に踏み込む)のです。理念に基づき行動するなら出来るからやると言うものではないのです。」

となります。

そして踏み込むと、お客様の抱える問題が見えてきます。それは、経理の問題ではないかもしれません。人の問題であったり、相続であったり、事業承継であったり、もしかしたら社長様ご自身の体調の問題であったり、息子の問題だったり、ご夫婦の関係性の問題だったり何が問題となって現れるのかは分かりません。

ただ、目の前のお客様の抱える問題を共有し株式会社Kにある資源を使い、お客様と共に解決していくプロセスが、我社の目的に繋がっている。お客様と向き合う中で、自分で思考して、自分が行動して、自分が工夫して、自分がまた挑戦する。その自分を自分が尊敬し、その自分が幸福を創り、その自分が社会（顧客）に与えたものが、幸福となって自らに返ってくる。それをまた社会に返す。そのことが幸せを生み、そのことが積み重なる。そのような生き方をしたいと思えるようになりました。

今している仕事の中に、自分の可能性がある。本当にありがたいなと改めて思います。

このような仕事に出逢わせていただいた環境に感謝し、そのような受け止めが出来る価値観を教えて頂けている出逢いに感謝し社会に貢献する。それは自己と向き合い続け私自身の気づきを少しでも多くの人に伝えられる自分になること。高い価値観との出逢いを創っていける自分になりたいと思います。

いつも本当にありがとうございます。どうぞこれからもご指導宜しくお願い致します。

会社名：株式会社 K

役職：代表取締役

氏名：K. H

性別：男

感想文の公開：①開放可能

【高次元経営第5期2講 感想文】

楠本代表、事務局の皆様。いつも学びの機会を有難うございます。代表の「私の今後のご報告」というところで「理念と目的を確信するものがトップである」「人間に寄ってはいけない、学んでいるもの（理念、目的）に寄る」というお話を伺い、今回はそのお言葉が新鮮に私の身体に入ってきました。

今、社内で進めている人事制度改革や定期的な勉強会の開催に向けて、これまでの社内の問題の特定と伝えたいことの言語概念化で苦闘している時でしたので、理屈ではなく、素直に受け止められたのだと思います。そこで今回は第2講の本編とは少し離れますが、社員に向けた決意表明文を作成しましたので、こちらを感想文に変えて提出させて下さい。ここに至るまで何度かSさんのご支援を頂いておりますが、伝えるべき内容にブレがないか、代表に読んでいただきたくお送り致します。どうぞよろしくお願い致します。

私から皆さんへの「決意表明」

今、Kの事業存続は大きな危機を迎えています。

その要因は、毎朝唱和している経営理念が、単なるスローガン、いわゆる「絵に描いた餅」となり、私も含め、皆さんの日常に浸透していない単なるお飾りになり、全く機能していない事にあります。

これまで私は、ハウツーや手法を重視し、常に新しいツールを導入しながら事業運営に取り組んできました。例えば業務システムの刷新（あしたのチームや HOKAN）や、健康経営、働き方改革、福利厚生の実施など、それこそ保険会社や取引先、社員から見栄えのいい施策を中心に取り組んできたのです。

しかし、結果としてこの5年で、双方望まぬ形で5名が退職し、業績も低迷（成長率0%、純資産▲1千万）、今年度も現状から抜け出せない悪循環に陥っています。その根本原因は

これまでのハウツーや手法に偏った会社運営そのものに問題があったと考える他ありません。

会社運営の問題を具体的に述べますと、次の3つに集約されます。

- ①Kの社員として守るべきルール、心構え、姿勢について徹底出来ていなかった
- ②社内で問題が起きた時、どのような考え方で取組めばよいかを明文化出来ていなかった
- ③社員それぞれの個性を磨く対話や社員教育が出来ていなかった

その背景は、私自身が目の前の問題を看過し、自分にとって都合の良い対応しかしてこなかったことに尽きると思っています。つまり、「寛容な上司」「良い社長」だと皆さんから見られたいという意識が、許容の拡大に繋がり、結果として緩んだ社風を作ってきたのだと思います。それが結果として長年勤めてくれた中堅社員の離職や近年の業績低迷に繋がっています。現状のままでは「社員が幸せになる環境の実現」どころか、間違いなく事業継続も困難になります。

そこで改めて、私自身がこれまでの私と決別すべく、私が為すべき「自己理想」を掲げたいと思います。それは、当社で働く社員が「当事者意識」を持って行動する人財となり、仲間を敬い、全体への貢献、顧客との価値創造を実現する自立した社会人の集団（チーム）となる事であり、その理想に向け皆さんの協力をもらって、生まれ変わりたいと考えております。

そのために社内の行動規範（共有すべき価値観や、仕事の現場での判断基準を言語概念化したもの）を明確にし、同志となる皆さんが迷いなく仕事に向き合えるよう、リーダーとして牽引する覚悟です。ここで掲げる理想が、今後の我社に、皆さんに、お客様に、社会全体に価値を生まない理想であるならば、直ちに撤回いたしますので、その場合は、素直に、是非ご指摘下さい。

改めて経営理念に掲げているKの存在意義に真摯に向き合い、私のコミットする内容を明確にし、会社を再起動させていきたいと思っております。

一、私たちは、ご縁を頂いた皆様に、誠実に対応し、自己革新を重ね、価値創造で貢献します

ここでのキーワードは「自己革新」です。自己革新とは新しい時代のニーズに応えるために、自分のこれ迄の「価値観」（価値があるか価値がないかを判断する基準）を自発的にシフトすることです。言い換えれば、自らが能動的に、自分の中に新しい自分を見出し、今ま

で気づかなかった自分の価値に気づき、自分の尊厳性、つまり自分の新たな可能性を見つける事です。

そして、そのために必要なのは、スキルやノウハウ（知識・技術）だけではなく、思考力（日々の仕事で価値を創造するための考え方・智慧）を高めるための学びを継続して実施していく必要があると考えます。

二、お互いに、対話を通して信頼関係を高め、オープンで風通しの良い、働きたい会社地域No.1を目指します

ここでのキーワードは「対話と信頼関係」。チームとして組織として力を発揮するには、仲間を敬い、相手の立場に立ち、対話を実践することが必須。そのために必要なことは、全員が当事者意識を持って朝礼や会議に必ず参加し、会社に貢献する意識を態度や姿勢で表すことです。

なぜ朝礼や会議に必ず参加する必要があるのか。それは「我社は何の為に存在するのか?」「どのような考え方で仕事に取り組めばよいのか?」を経営理念、行動指針で確認し合うこと、また目的に向けた高い意識を共有し、全員でマインドセットすることが重要だと考えるからです。これを今般の人事制度改革と並行して私が皆さんの先頭に立ち実践する覚悟で臨む所存です。

上記の2つが揃うことで以下の3つの目の経営理念が引き寄せられると考えています。

三、この様な姿勢で持続的成長と安定した事業継続、社員が幸せになる環境を実現します

ここでのキーワードは「社員が幸せになる環境」です。改めて言いますと、ここでいう幸せは、世間一般に言うお金や福利厚生が充実することのみを言っているではありません。社員の真の幸せは、社内外から尊敬を受ける自立した社会人になることだと私（K）は考えます。これらの社員で形成される会社は、持続的成長と安定した事業継続との源泉となることでしょう。

ここまで述べてきたことを現実のものとするために、皆様と実践していきたい事があります。

それは、隔週で社員成長勉強会を開催（全員参加）し、全員の思考力を高め、その学びを朝礼や会議、それぞれの仕事で活かされているか確認しながら進め、自立型社員の会社に変化させていくことです。私が考えるに、現状を変えるには現時点ではこの方法しかないと思います。

もし、これよりも良い方法があれば勿論その方法を選択しても良いと思いますので、その

場合は教えてください。特にご意見が無ければ表明した内容からはじめていきたいと思えます。

会社名：株式会社 K

氏名：K・C

【高次元経営第5期2講 感想文】

代表、准子さん、いつもご指導ありがとうございます。

レジュメ 9 ページ

伝えたい大事なこと

〇〇等、他に出来る事は全部出来る事になる（ただ活用すれば良いだけだから） 逆に、他が出来ないことは、人間に対する真の問題特定と共有と共感する力。それが、それこそが我々に求められている

批判分析が強いという問題意識から、共感力がどういうことかを改めて考えるようになっています。何度ともいわれているように、関係性を構築するうえで、共感力が大事だといわれています。私もそう思いますし、私自身は共感力がなくはないと自分のことを認識しておりました。「私もその気持ちはよく分かるし、理解できる。私もそうだった。」しかし、私はその後に続く言葉が必ず「でもね」です。それは、「貴方は間違っているよ。」もしくは、「私の考えはこうだよ。」と否定している。相手に理解を示しているつもり、そういうふりをして、私の意見を受け容れてもらおうとしてただけで、共感しているわけではないと情けなくなりながら、認識しています。

レジュメ 21 ページ

共感力という武器を進化させることによって、人類は生き延びてきたと考えることができます。その重要性を無意識的に知っていて、共感力のあるほうをより評価するような価値観を同時に育ててきたのが、人類の歴史であるのかもしれませんが。

Cさんの有機体人事に入らせていただいていたのですが、先週一旦の区切りがつき、Cさんの人事理念が完成しつつあります。Sさんにも助けて頂きながら、私が評価について考えてきたこと、苦労した点についてしかお話できませんでしたが、Mさんが、「この人事理念が苦労して、ほんとにやっとでき上がったことがうれしい」と涙して感謝を述べていただきました。そのCさんの人事理念の中に、私の悩んできたことも受け容れてもらってでき上がっていることに、私自身がものすごく寄り添ってもらって、共感してもらったと思えた一瞬で、今までになく胸が熱くなりました。この時のことを通して共感力というものをもう少し言語概念化していきたいと思います。

会社に対して皆が感謝するようになるのです。こんな勉強ができるのは会社があるお陰だ。こんなに上手く仕事ができるようになったのも結局社長がいて、会社があつて俺たちのことを馬鹿な奴だと思っけていても諦めないで育ててくれた社長のお陰だともうすぐ社長に感謝するのです。社長に感謝する気持ちが求心力です。社長の為に行っているのです。そういう気持ちが社員の気持ちの何処かにあります。ですから難しいことでも助け合つてできるのです。社員は本気になれば何でもできます。社員というのは偉いのです。見ていたら社長が感心するくらいです。馬鹿で無責任なことしか言わなかった奴が、こんなに嬉々として仕事に取り組んでいる様子を見て、皆が幸せなのです。社長はまだ頭が固いから昔のままなのです。意外にそういう場合が多いのです。それくらいが少し困ったことになります。社員の方がシャープになります。自分のプライドを自分で守ろうなどという気持ちがなくなるから本人の意識が非常にシンプルになるのです。若い人から叱られても腹が立たない。最もなことを言われたといつて舌を出して笑っているのです。これがいい雰囲気なのです

批判分析から価値はうまれないとご指導頂いておりました。私は一旦、批判分析をすることが、自立の道の第一歩と捉えていたように思ひます。自分という考えを持つておらず、周りに流される自分を変えたいと思つていました。相手を分析することで、貴方とは違ふ考えを持つてゐる。それが自分と言うものを持つてゐるという自分にとって望ましいと考えていたことがよくわかりました。個性としての違ひを受け容れるではなくて、私の方が正しいという思ひです。代表が退くことに不安はあります。感謝する気持ちが求心力というこの言葉を噛みしめながら、理念に基づく行動を皆でとつていく。その中で感謝をしあえる組織にしていきたいと思ひます。ご指導をどうぞよろしくお願い申し上げます。

会社名：(税)T

T・S

年齢：38(男性)

感想文の公開：①開放可能

【高次元経営第5期2講 感想文】

-感想本文(MS 明朝)-

楠本代表をはじめ事務局の皆様、今回も大変貴重なお話を聞く機会を作って頂きありがとうございます。

(レジュメ P51)

自己人格とは関係性をつくっていく主体性のことです。関係性を新たに構築していく主体性を自己人格といいます。ビジネスとは本来そこで始まるものです。「新しい人脈をつくって行こうよ」と、「でも俺には自信がない。だから誰か自信のある人いないか？」と言うと、「俺やるよ」と言う人が出てきます。いるのです。

(レジュメ P52)

ところが、自己人格は思想的目覚めです。哲学的目覚めであり、人間学という名前がついていますが、自己人格に目覚めることは人間学的目覚めです。自己人格は年齢が定まりません。早い人は十代の頃、遅くとも三十代、四十代、もっと遅れたら六十代になってやっと自己人格に目覚める人もいます。私の独断的観測によると、日本人のほとんどが八十代ぐらいまで自我人格なのです。 ～中略～

だから自己主張は上手いけれど、相手の話を上手に聞き出すことが出来る人はあまりいません。そういう人はよほどすぐれた人で十人に一人ぐらいしかいないのです。もっと少ないかもしれません。働きざかりの二十歳代から六十代までの人で、恐らく五十人に一人ぐらいしかいないのです。

自己主張以外に相手の自己主張を引き出してあげる。相手との関係性をより好ましいものにするための主体性を持った発言のできる人は、五十人に一人ぐらいしかいません。だから非常に少ない人しか自己人格が目覚めるような刺激を受けている人はいないということです。

相手の自己人格を目覚めさせるような刺激をあたえることの出来る人が経営者になったらもの凄く良い会社をつくるのです。社員一人ひとりをよく見定めます。一人ひとりの個性と特徴を引き出し、指導していくということです。このような考え方が、日本の社会では非常に遅れていることは間違いありません。

このお話を聞いて、ここに紹介されているものが自己人格に目覚めた人の具体的な特徴なのだと受け止めました。

「関係性を新たに構築していく主体性」「相手の話を上手に聞き出すことが出来る」「相手の自己主張を引き出してあげる」「相手との関係性をより好ましいものにするための主体性を持った発言のできる人」「相手の自己人格を目覚めさせるような刺激をあたえることの出来る人」「一人ひとりの個性と特徴を引き出し、指導していく」

どの特長を取ってみても私には当てはまるとは思えませんでした。

実際の仕事を振り返ってみると、私が仕事をお願いする時には「これはこうだからこれを作ってください」とか「この取り扱いはこうなっているので、こう処理してください」など、お願いする仕事の材料や取扱いなどを全て与えて、作業だけをしたらいいようにして渡す事が多いです。

これは相手に考える余地を与えず、作業を間違いなくやってもらう為、機械の部分品みたいな扱いになっており、相手の主体性を引き出すとか、個性を活かすという要素が無く、全く育てることになっていないと感じます。

これは少し前から感じており、なるべく手を出さず、調べたり考えてもらい最後のマルを自分で付けられるようにと思っていますが、最後には手を出してしまっています。

この様なことが過去、勉強したりご指導いただいてダメなのが認識出来ているにも関わらず、どうしたらいいのか言語化出来ない。勉強したりご指導いただいた中に答えがあったはずにも関わらず、それをスルーしてしまっているのではないかと感じます。

何故スルーしているのかを考えると、どこかで責任を取りたくない自分がいるのではないかと思います。自分でやってしまった方が早いし、内容も理解できているので正確。お客様に対しては遅くなったり、ミスがあった際にお客様に謝るのは自分なので、それもしたくない。メンバーに対しては前にやり方や調べ方も教えているので、自分で少しは知識を付けるようにしろよ。というような他人に対しての成長に対して(巡り巡って自分の成長)の責任を取りたくないと思っている自分がいるのではないかと思います。

これは認めたくない自分ですが、それがなぜなのか。怖いから？めんどくさいから？いずれにしても逃げているのは間違いないと思います。

(レジュメ P67)

恐がれば恐がるほど、逃げれば逃げるほど、近くに寄ってくるものがある。それは貧窮だ。 逃げれば逃げるほど、君は悲惨になり安らぎを失う

まさにこの通りの状態になっていると思います。逃げないというのは相手としっかりと向き合って対話することだと思いますので、その時間を意識的に取り、私自身成長していかなければと思います。

株式会社 B
代表取締役 N.Y
年齢：55 歳 (男性)

① 開放可能

【高次元経営第V期第2講 感想文】

楠本代表、准子様はじめ楠本アライアンスメンバーの方々、日頃より大変お世話になり誠にありがとうございます。

ー実際の会議資料よりー

今、各自がやっている仕事の [目的]

- ・自分が惚れる仕事を自分が創る
- ・自分が惚れる自分の仕事、それは、自分が自分で誇れる仕事を自分が創る（創れる）の意
- ・それ（上述）が、仕事を通して自分を創る。という意味。

つまり、仕事＝生きる＝人生＝自分らしさ＝喜び

・自分で思考して、自分で行動して、自分が工夫して、自分がまた挑戦する。その自分を自分が尊敬し、その自分が幸福を創り、その自分が社会（顧客）に与えたものが、幸福となって自らに返ってくる。それをまた社会に返す。そのことが幸せを生み、そのことが積み重なる。それは、それだけは歳をとっても、死後にも、持っていける。

と楠本代表がお伝えしていることは、自己組織性の原理を仕事という場でこのように実践していますかと問われていると受け止めさせていただきました。

仕事＝生きる＝人生＝自分らしさ＝喜び である。あらためて深く深く大事にしておこうと思いました。勇気を頂いています。

と同時に

仕事を稼ぐための道具、生きるために必要なもの、仕事は面倒くさいもの、と捉える、汚い、醜い、ずるがしこい自分もいます。

また、今回一番心に響いたのは、**死後も、持っていける**。という一言です。

喜びとは感謝そのものではないかと思います。

その感謝の心を持って行ける。有り難いことです。

昨年他界した父を思い出します。

朝日に向かって拝み、夕日に向かって拝んでいた父の姿です。

感謝の心を大事にしていた父を改めて感じさせていただきました。

父との関係性を深めることができました。ありがとうございます。

感想文の公開： ②匿名希望

【高次元経営第 5 期 2 講 感想文】

いつも、ありがとうございます。

今回、楠本代表より、感想文を書く意味をお聞きして、「自分のために書く」「自己を知るために書く」「そして自己と向き合い続けること」とても、大変な作業を実感しています。そして今まで**さぼってきたり、逃げてきたこと**の時間が長く、より大変なことに取り組んでいるんだと、正直逃げ出したくなる気持ちもあります。

あなたは何者ですか？

書いてみる！でも書けない！

会社の代表として、会社の目標、目的を伝えたり、社員を鼓舞したり、時には褒めたり、叱ったりしていますが、薄っぺらいなあと自身で振り返ることも多いです。

理念はズボン履くんです！理念は泣くんです！とお上人がおっしゃるような経営者にはほど遠く、でもそれを目指していきたい。死ぬまでにできるかもわかりませんが、やるしかない、やらなければならないと思っています。

今回は、夫婦での参加というお話がとても多く、正直かなり心が痛みました。

私のわがままから妻には心を閉ざし、辛い思いをずっとさせて来ました。

今も改善されず、良い方向に向かう余地は、今はありません。

高次元経営を学ぶことで、改善されるとは思いますが、自身の成長によって、家族、会社、社会に良い影響が出ることも事実だと思っています。

本気でこのことに取り組むことで、いずれ、妻にも参加してもらえたり、弊社のスタッフにも参加してもらえるようなことがあるかもしれませんし、無いかもしれません。ただ、それを求めるのではなく、高い価値観や思想を学び続けることで、成長、変化をしたい、しなければいけない！そんな思いを強く持ちました。

ただ、そんなに簡単なことではなく、自己と向き合い、行動し、また少しずつ妻とも話し、自分自身がどう生きたいか、どう死にたいかを考え、行動して行きます。

P53「父親に挑戦的になる中学生の男の子の話」で、その原因が「お母さんに対してもっと優しくしてくれという要求だった」とわかり、これもかなりのショックでした。

一人娘とも関係性が良いとは言えません。ただ、露骨に反抗されたりしたことはなく、それが逆に申し訳なくいつも感じています。

娘は大学4年生で、就活も順調のようで、世間一般的には、普通の大学生を演じてくれています。悲しい思いをさせたり、諦めさせたりしてるようで、苦しいです。

仕事に逃げ、自分だけの居場所を作り、家族から逃げ続けている自分をなんとかしたい思

いをどう行動していくべきかを日々少しずつ逃げずに向き合います。

道場清規の「経営とは、人間のもつ最も醜い力を、もっとも美しい価値に、転換させることである。」を自身の一生かける土台のような気がしています。

経営を「人生」という言葉に変換して、「人生とは、人間のもつ最も醜い力を、もっとも美しい価値に、転換させることである。」とも理解し、毎朝、毎晩「祈り」をして行きたい、今、瞑想も学んでおり、この言葉も取り入れて行きたい、常に心の土台に据えて、日々仕事（逃げの仕事ではなく）に取り組んで行きます。

ありがとうございました。

会社名：弁護士法人 S
役職：代表弁護士 氏名：N・Y
年齢：50(男性)

感想文の公開：①開放可能

【高次元経営第5期2講 感想文】

-感想本文(MS 明朝)-

自分の文章を読み返して自己と向き合い、自己を知り、自己を確立することが成長に必要不可欠、自分は何者なのかを語れるようになるためには、深く内省をすることが必要です。法的な夫婦・社員ではなく、実際に心の繋がり信頼関係を築かねばなりません。信頼関係は一朝一夕に身に付くものではなく、小さな積み重ねをする必要があります。自分が苦手なところですが、知識よりも聞く力、共感する力を伸ばしていきます。運がいい人は、自分の価値観を大切に自分を丁寧に扱っている、他者を思いやる気持ちも人一倍もっている。運のいい脳にする方法は、祈り（神社に良く行く人）将来なりたい自分・成し遂げたい目標を一日二回行う。人は毎日整えないと煩悩に支配されます。毎日祈ります。

理念が歩いているような社長を目指すべきと思いますが、理念への確信を持つためには常に考え続ける姿勢が必要です。コミュニティの問題は自分の問題として捉えます。HOWTO は人を動かさない、なぜなら HOWTO は人の魂と紐づいていないから。AI 時代は思想の時代、思想で勝負したいです。すぐに HOWTO を求めてしまうのですが、自分の頭で考え抜く姿勢が必要です。自分が惚れる仕事を自分で創ります（仕事＝生きる＝人生＝自分らしさ＝喜び）。

今あるものに満たされない者は、これから欲しいものにも満たされない（ソクラテス）。幸せな人生を送りたいなら、幸せをなんらかの目的と結び付けなさい、人やモノとではなく（アインシュタイン）。どれも素晴らしい格言ですが、高い価値観を持つと過去の哲学者と一緒にお酒が飲めるという楠本先生の言葉に感激しましたし、そうなります。

動的平衡という「場」、秩序は守られるために絶え間なく壊されなければならない、生命とは互いに相反する動きの上に成り立つ同時的な平衡＝バランスである。諸行無常とは、動的平衡の断りのもっとも直接的な帰結であり、日本人の古層にある感性である。生命は境界線上の動きにある、生命とは代謝の持続的变化であり、この変化こそが真の姿である。

自己と向き合って出てきた目的が主体性を産む。自己人格とは関係性を創っていく主体性のこと。相手の自己人格を目覚めさせるような刺激を与えることのできる人が経営者になったら物凄く良い会社になる。自己というのは、自分と自分以外の人間、周囲の人間との関

係性、その関係性を自覚している自分といえる。例えば、自己の教育では、夫婦の関係性が先にあってそのパターンの中に入ったのは後と考える。

善の中から生まれる善は偽善、悪の中から生まれる善が本物。美しいものと醜いものは共にあると互いに引き立て合う、真実と偽物の関係性。

自分を守る＝身近な環境を守る、苦しいのは何故かを考え抜く、強くなるために必要なものは逆境。必要ない人に与えるのはこちらの傲慢、求めてくる人に分かち合うこと。

【高次元経営第5期2講 質問】

前回の質問を要約すると下記のとおりです。

「意識のレベル（価値観の高さ深さ）を上げるためにはどうしたらいいのでしょうか？

高次元経営で学び続けること、受講者と対話することは、意識のレベル（価値観の高さ深さ）を上げる一つの方法だと考えていますが、日常の中でどのような思考行動をすると上がっていくのか教えていただけると幸いです。」

第2講を聞いて、すぐに HOWTO の質問をする自分を発見することが出来ました。

自分の頭で考えていない。考えないから腹落ちもしない。チャレンジもしないから失敗もないが成長も発見もない。そのように考えるのが正しいでしょうか。

会社名：税理士法人 H
役職：代表社員 氏名：H・T
年齢：48(男性)

感想文の公開：①開放可能

【高次元経営第5期2講 感想文】

楠本代表、准子様、スタッフの皆様、今回も受講させていただきありがとうございました。資料は准子さんが用意されていると聞いて驚きました。大変な準備をさせていただいていることに、改めて感謝申し上げます。

(濱口さんに)「高い価値観を映像に残しているのは俺だ。これが俺の仕事だ。」「これ(高い価値観のお話)を映像に残すことが人類にとって日本にとって経営者にとってこの上なく重要なことなんだ。それが私の仕事だ。」ということを息子さんに言ってほしいのです。

と仰っているのを聴いて、自分も、ここで自分がお話を聴いて実践することの人類にとっての価値を、いつか息子に伝えたいと思いました。

P3 はじめに

社長＝理念でなければならない。というお上人様のお話を聴いてショックだった

というお話。・・・自分はどれほどショックを受けているか？自分は社長＝理念になっていない、ということは自覚できるが、楠本代表のように素直にショックをうけていない。なぜか？おそらくお上人からお話を伺った時も自分は「なるほどー」という感覚でしか受け止められていない＝思考力ゼロです。

社員が全て業務を進めてくれて、この場に私を立たせてくれている。また社員に厳しいことを要求したり、厳しいことを言っても、それは社員のことを思って考えてのことだということを受け止めてくれている。これが主体性。言い換えるとこれは、私が、自分の為とか、会社を自分の為に上手くいかせるために言っているのではない、ということを明確に受け取ってくれているから。

自分はどうか？と思いながら日々の自分の思考を振り返ってみると、自分に都合よくではいけないと思いながらも、いつの間にか、自分に都合よく、と考えている気がします。それは何故かというと、

組織の中に出来の悪いと思っている社員が居たとすると、その社員を通してしか気づかせてもらえないことがある。そのことに対する感謝。→前世の師匠である可能性。

＝嫌いなお客様からしか教えてもらえないことがある、ということかと理解しました。何度かご教示いただいているのに、すぐ自分に都合よく顧問先を選別してしまいます。

P8-9 の BANGASHIRA 様の会議でのお話は、同業で、お客様の経理改善に取り組んでいる我々にとって、とても参考になるお話でした。この 18 分ほどの部分を、3 日の 10 時までに、講義を受けていない社員にも聴いてもらう予定です。

伝えたい大事なこと

〇〇等、他に出来る事は全部出来る事になる（ただ活用すれば良いだけだから）

逆に、他が出来ないことは、**人間に対する真の問題特定と共有と共感する力。**

それが、それこそが我々に求められている

これを念じて、日々過ごしたいと思います。

P22 下部

どうやったら共感が身に付くのか？

更に、厳しい問いは、

いわんや仕事を通して？

しかも加えて、

チームの団結を生むのか？

これに H はどう答えるのか？一緒に学んでくれている仲間と話してみたいと思います。

P23

自由に！細胞なんだから、暴れてもらわないと困るのです。ところが多いの経営者は秩序正しく自分にとって都合よく、きちんと時間内にやるべきことをきちっとやって欲しいと経営者が思っているのです。それは管理という頭でしょう。「100 年勉強してもそれですか」と言われることです。都合よく思っているのです、部下のことを。人間じゃなくて。

代表もそう自分に言い聞かせているとおっしゃっていましたので、少し安堵しましたが、私はきっと仰った通りの「管理」の思考が、もう自分では卒業しつつあると思っていたけど、まだ全く抜けていないと思いました。

支店のごたごたによって業務が増えたにもかかわらず、5 月申告が何とかギリギリ終わって、その打ち上げの席で相変わらず社員に媚を売っている自分がいるのです。感謝の言葉を口にしながら、何に感謝しているかという、自分に都合よく、毎月なんとか会社の体面を守るように仕事を仕上げてくれていることにお礼を述べているのに過ぎないのです。結局は自分のために働け！と言っているのではないかと、思いたくありませんが、きっとそうなのだと思います。

そこには、社員が自ら細胞のように、組織全体を意識して暴れまくっていることに対する尊敬の念とは程遠いものがあります。

P33 からの本講 冒頭のお話

人間の持つ、最も醜い計算である損得という計算と駆け引きの中で真剣に必死に生きている、その経営者ならわかってくれるだろうと思ってお上人様は経営人間学講座を始められたのではないかと。

それを自分は、計算だけで自分のところの経営がうまく行くようにそっぽを向いて聴いていました。お上人様が我々に掛けてくださった期待がありがたく、申し訳なく思います。そのご期待に応える一人になりたいです。

仏典についての学び、安心を含み、そこにとどまらず、それらを超えて現実を変える行動に出る当事者になりたいです。

経営とは、人間の持つ最も醜い力を、最も美しい価値に、転換させることである。

ここが道場清規の中で一番好きで、ジーンと来るところですが、今まで自我で認識していた自分の問題だけからは、なぜここに惹かれるのか、理解レベルではつながるものの、今一つ納得が行かない感じでした。ひょっとしたら、自己がここに反応していたのかもしれないと、このお話を伺って、思った次第です。勘違いしやすい自分なので、危ういですが・・・感動しました。

P35 (1) 自己組織化の原理

この宇宙と、宇宙を構成する万物は、共に有機的生命システムの機能を有し、本質的に外部環境からの統制・コントロールを拒否する循環システムにより成立しています。

従って、外部からこうしろあーしろではないのです。内発動機というのは、ここから来るのです。

私が支店の社員にやっていたのは、これだったのか！と思いました。まさに、外部からあーしろこーしろ、とコントロールすることしかやっていませんでした。**本質的に外部環境からの統制・コントロールを拒否する循環システムにより成立しているとわかっていれば、外部からのコントロールがうまく行かないことは明らかなことなのに、言われてみれば、それは当たり前のことのように聞こえます。全く私はバカです。**

しかし、これに気づかせていただいたおかげで、支店の顧問先への挨拶回りの際に、「このことが私の問題の一つでありました」とお客様に明確にお伝えすることが出来ました。

今回はまた更に内容が濃すぎて、気づきが多すぎて、当たり前ですが、消化しきれません。勿体ないことをしています。時間が無いと言い訳をして必死になれない。人生に対して甘い。自分の問題がここにも出てしまっています。

以上

【高次元経営第 5 期 2 講 感想文】

いつもご指導頂き誠に有り難うございます。今回のご講義は、開始から終わりまで一貫して、代表の趣がいつも以上に和やかでありながら、厳かな様相が漂っており、このような事を申し上げてよいものか分かりませんが、初めて受講したときのお上人様のご講義を思い出すような感覚となり、講義の次元が変わったという感覚を覚えました。

お上人様のご講義の推敲は、あまりに深すぎて、読み返すたびに新たな発見があり、とてつもなく難しい内容に、頭がちぎれそうになりながらも、何故か、胸がドキドキ、ワクワクしながら読んでしまい、このような智性に今こうして出逢えている奇跡に、心から御礼申し上げます。

改めて、本講を何度も拝聴して振り返りましたので、ご指導頂きたく何卒よろしくお願い申し上げます。今回は、3 点について振り返っておりますが、社会問題を含む内容もございますため、開放は①のみとさせて頂きたくお願い申し上げます。

「たかが風邪」という問題を通しての自己との出逢い

「夫婦の関係性が先にあって、そのパターンの中に入ったのは後」という言葉に出逢い、「あーっ、まさに私たちは、これ無しに、それぞれの自我で勝手に解釈して、夫婦になったから、苦しみ続けた・・・」と腹に落ちすぎて、この一行の持つ言葉の深さに、硬直しました。

そして、その先にあった言葉に衝撃を受けます。

高次元経営第 5 期 2 講 58 ページ

私はあなたと結婚して、自分の健康がこんなに大事だって初めて気が付いたよ。というのはあなたを悲しませたくないからだ。私は元気でいなければいけない。朝起きるたびに、それを私はいつも思っているのだ。

私は、なぜか今回の講義の中で、この言葉を聞いた時、涙がぐわっと込み上げてきました。直観的に、私に足りないのはこれだ！と感じました。兎に角、この言葉がえぐられるほど突

き刺さっていました。

しかし、このような言葉に出逢ったにも関わらず、今回、3年ぶりに体調を崩し、本格的に寝込みました。2週間の出張から戻り2日後、やっと家族との時間という時に、悪寒と節々の痛さに襲われました。

コロナなど感染症の検査はすべて陰性でしたが、4日間完全ダウン。アレルギーによる鼻炎症状が1ヶ月以上続いていましたが、そこに加えて、高熱39度近くが続き、寒気、けだるさ、節々の痛み、途中からは咳で喘息をぶり返すほど、呼吸器官が痛くなりました。

だいぶ回復の兆しが見えてきた時、妻に「何か違和感とか感じてない？（私はずっと何かを求められているのではないかという感覚を抱いている）」と話しかけられました。これまでの膨大な対話があったので、特に、不満や違和感を感じていないつもりでしたが、「風邪」というものに対する認識のズレを改めて言語化しました。

○Mさんの認識

- ・人は風邪をひくもの
- ・所詮は風邪
- ・病院行って、薬をもらって飲めば治る
- ・だから、兎に角、寝かせてもらえればよい（それ以上何も求めるものはない）
- ・身体をさすって欲しいとか、何かを持ってきて欲しいとか一切求めていない
- ・大人だから自分のことは自分で出来る
- ・家のことはやって欲しいとは思うが、放っておいてくれたら自分の事は自分です
- ・欲しいものがあれば、遠慮なく言える関係性がある（昔はそれすら出来なかった）
- ・上記の方針なので、風邪ひいたら、薬飲めば治ると思っている

○私の認識

- ・そもそも、風邪は引かないと決めている
- ・だから、風邪を引きそうになったら、引く前にやれる限りの対策をする
- ・風邪は、免疫系を駆使した自分との闘い
- ・もしひいてしまった場合、漢方・サプリは摂取しながら、基本的には自己治癒力で治す
- ・薬は極力飲まない。抗生剤は、原則、絶対に摂取しない（ウィルス性で自己治癒が困難な場合は、例外。）
- ・極力、添加物などは避けて、シンプルな食事をする
- ・自己治癒には、薬の投与よりも時間を要することは経験上わかっているので、だからこそ、絶対に風邪をひかない対策を常にしている。

- ・したがって、実際に、アレルギー・感染症以外に、風邪はひくことはない。
- ・事実、Mさんも「夫は風邪をひかない人」という認識がある。

「風邪」に対する認識がまるで別の物体ではないかと思うほど、受け止めの前提から、対処療法まで異なります。Mさんは頻繁に風邪をひくので、私は、上記の前提に立っているの
で、必要な世話や家事だけでなく、身体に手をあてたり、気で治そうとするような事も常に
します。

一方、Mさんは「そもそも風邪でしょ？薬で治せば終わりでしょ？」と思っているので、
私に対して、そのような対応をしてもらう事をそもそも望んでいません。したがって、当然、
私が今回のように風邪をひいても、やるべき（私が出来ない事）世話はしてくれますが、手
を当てるとか彼女にとって無意味、無価値な事はしません。

このお互いの価値観の違いに対して、Mさんは「それって寂しいんじゃないの？」、「同じ
ことをして欲しいって望まれている（期待）に応えないと思ってしまう」と言われましたが、
「うーん、何か違うんだよね」という違和感をずっと言語概念化出来ずにいました。

そもそも論として、これまでの関係性があるので、その部分だけを取って、寂しいとは思
いません。確かに、彼女の風邪に対する認識は問題だと思っているので、追々ゆっくり話し
ていきたいが、これだけの認識のズレがあれば、彼女にそれを求めるのは私の自我でしかな
いので、寂しさとしては現れていない。むしろ、納得感の方が強い。

それ以上に、私にとっては、高次元でご紹介頂いたお上人様の言葉が引っかかっていまし
た。日常生活に戻れる程度に回復して、真っ先に、朝起きて、まずはこれをそのまま伝えよ
うとしました。

「私はあなたと結婚して、自分の健康がこんなに大事だって初めて気が付いたよ。」と話
し始めましたが、「というのはあなたを悲しませたくないからだ。」という言葉を読み込んで
しまいました。

だって、彼女は私が風邪をひいたとき、「所詮風邪でしょ。そのうち治る」と思っている
と教えてくれています。「あなたを悲しませたくない」というか、そもそも「悲しんでない
し」という前提がある人に、この言葉を言ったところで・・・という思考が走った瞬間、ハ
ッと気づきました。

私の自我は、私の健康が損なわれる事に対して、Mさんが悲しんでくれる事を、彼女に要

求していたのだと思いました。つまり、彼女が違和感として捉えていた「寂しさはないのか?」、「何かを要求されている感じがする」は、やはり正解でした。その瞬間、自我が収まるところに収まり、自己が輪郭を持って現れました。

私にとって、妻がどのように思っているかは、ある意味問題ではなく、私自身が「**M**を悲しませたくないからだ。私は元気でいなければいけない。朝起きるたびに、それを私はいつも思っている」と心から想っているという自己との出逢いである事に気づきました。

改めて、Mさんに対して、「俺は、自分の健康がこんなに大事だって初めて気が付いた。というのはMを悲しませたくないから。俺は元気でいなければいけない。朝起きるたびに、最近、本当にそれをいつも思っている」と伝えた瞬間、涙がぐわっと溢れそうになり、「**すると奥さんは喜びます。それだけで女性は言葉が出てこなくなるのです。**」という言葉の意味が、すっと落ちました。

改めて、私が見過ごしていた自我は、「Mさんは、私が身体を壊しでもしないと私の身体を労ってくれない」という認識です。ここに大きな間違いがありました。

私の自己は、「彼女を悲しませたくないから、元気でいなければならない」と心から願っている。私の身体はもう私だけのものではないと確信しているから、私は彼女の為に自分の身体を大切にしなければならない。このようなやり取りが出来る関係性の中に入っていくことが夫婦なのだと改めて教えて頂きました。

この想いこそが、私が私の身体に対して、自ら責任を負う根拠だと受け止めました。こんなシンプルな事がわからず、時に、身体を自暴自棄に扱おうとする自分の実体が明確になった気がしております。という事は、今回の風邪は、私が自ら創り出したものだと確信しました。

■現実の問題を通した「開放系」についての受け止め

ここまで、自己の問題について整理してきましたが、夫婦の関係性について、お上人様(楠本代表)が、なぜお話してくださっていたかという、「自己組織性の原理」の3つの特徴の一つ「開放系」について説明する為でした。

高次元経営第5期2講 44 ページ

—開放系—

自己は、自己自身と、自己の環境とを区別する境界を決定することによって自己を創造することができる。自己が環境との間に作る境界は、自己と環境を区別すると同時に、自己と環

境を相互に統合させる境界ともなる。境界は、自己と環境の同一性と差異性との矛盾を統合している。その意味で、自己は、境界を通して、環境に対して開かれていると共に閉じており、閉じていると共に開かれている。

「自己というのは、自分と自分以外の人間、周囲の人間との関係性なのです。その関係性を自覚している自分」と教えて頂きました。私というのは、「私」と「Mさん」との関係性。この関係性を自覚している自分。

今回も夫婦という関係性を自分だと思っているからこそ、新たな自己に出逢わせて頂けたと受け止めています。そう考えた時、「多様性の原理」との関係性が浮き上がってきます。

高次元経営第5期2講 38 ページ

宇宙における自然システムの典型的な特徴、それは物質とエネルギーの相互互換の無限的繰り返しによって変化する「関係性の場」を通し、間断なく古いものを新しい創造に変換する働きにあります。

その際の変換のプロセスにおいて、新たに加えられたり、浪費が生じることは一切あり得ず、そこに、自然そのものがもつ、常に最小のエネルギーで最高の価値を創造する仕組みを見てとることができます。

つまり、自然界の物質とエネルギーを完璧なまでに節約しながら創造的に再生産しつづける姿であり、その明らかな証明こそが、宇宙全体に生きづく豊穡な多様性なのです。

「新たに加えられたり、浪費が生じることは一切あり得ず」と教えて頂きましたが、確かに、夫婦の対話という「関係性の場」において、何一つ足したりしたものはありません。

この瞬間、これまでやってきた「社内対話の場」の意味と価値が再認識でき、「社内 IG」と概念化された所以が、妙に腹落ちするとともに、システム思考という原理原則に基づいた、奇跡のようなやり取りを仲間と共にさせて頂いている事に改めて、深い感謝が込み上がってきます。

「自己組織性の開放系」に戻ります。これまで、私たち夫婦は「二人が結婚したことにより成立する関係性」を関係性だと捉え、「いや、私は関係性なんか関係ないよ。私は私自身が大事なのです。」という前提のもとお互いがやりたいようにやってきました。

しかし、今、この次の言葉の意味が痛いほどわかります。「夫である自分と妻である奥さ

んが結婚して、初めてできた関係ではありません。夫婦という関係はそれ以前にできているのです。」

これまで、楠本ご夫妻に、何度も何度も何度もご指導いただきながら、「夫婦という関係性」についてご指導頂いてきたという事が、今、やっと分かったように思います。つまり、「自己の教育」、「夫婦の関係」、「信頼の関係」、「経営者と社員の関係」これらはすべて一つだという事だと受け止めました。

高次元経営第5期2講 58 ページ

自己の教育ではこのように考えます。夫婦の関係性が先にあって、そのパターンの中に入ったのは後だというのです。そこで、妻にはこのような気遣い、このような心配り、妻は夫にこのような気遣い、このような心配りをしなければいけないという小さな条件項目がこのあといっぱい出てきますが、その前提として、この夫婦が「夫婦という立場」を「共有した時」に、お互いに夫婦だといえます。

「夫婦」とは、私にとって最小単位の「自己組織性の原理（開放系・非平衡・触媒性）」、「相互関係性の原理」、「多様性」を実現させる為の道場であると改めて確信しました。

そして、まるで異なる個性の「私」と「M」（多様性）が作り出す、最小単位の自己組織化された夫婦が、お互いに自己革新することが、「触媒性」によって「自社コミュニティ」への影響を与え、それがそのまま波及して「K アライアンスへの貢献」となり、そして「国家への貢献」と繋がっていく。

言葉にしてしまえば、あまりに当たり前の気づきかもしれませんが、私たち夫婦、そして、当コミュニティが持つ無限の可能性への責任は計り知れないと再確認致しました。

「だから、経営人間学講座に、離婚しそうな夫婦がお聴きに来られたら離婚が止まります。経験的にこれはわかっています。まあ、これは冗談です(笑)。」この言葉が如何に冗談ではなく、どれほどに真実であるか、私たち夫婦ほど、「まさにその通りでございます。」と言える者は居ないのではないかと思います。

離婚が良いとか悪いとか思いませんが、離婚は止まります。楠本代表からは、「風が吹いたら、喧嘩するどころか、風が吹いたら、殺人事件」と言われるほどの夫婦関係がガラリと変わりました。これは事実です。

会社名：株式会社 K

氏名：I. N

年齢：30 歳 (女性)

【高次元経営第 5 期 2 講 感想文】

楠本代表、准子さん、K アライアンスの皆様、今回も貴重な講義を聴かせて頂きありがとうございます。

レジュメ P9

・体系化（整理整頓）する。

（一体、何ができるのか？→それは、顧客の①真の問題が分かり、それを②共有したら、全部解決できるからです。）

理由 → 宇宙に連れってって！とは言わないから。一緒に階段を登っていけば良いんです。そのために必要な地図。→ それを整理整頓してみることで、各自の思考の枠が広がる。

問題は何か？ → その問題の背景にある問題は何か？ →その為に、何処からと、何から、どの様にして、どう階段を登るのか？ → そこでの顧客の役割と、私の役割は何か？ → それが分かれば、全て完璧、顧客と共に成長していけるから。

『知識』よりも『聴く力』『共感する力』

『問題解決』とは、『依存させない』こと。

『問題解決』とは、共に道を歩くもの

『問題解決』とは、その事を通して『信頼の関係を構築する』こと

問題の本質を知って、そこ（問題の本質）に辿り着いた道（プロセス）を、一つ一つ（共に）登って行くこと。その事（仕事）そのものが幸福であり、自らの人間としての成長と統合される。

伝えたい大事なこと

〇〇等、他に出来る事は全部出来る事になる（ただ活用すれば良いだけだから）

逆に、他が出来ないことは、人間に対する真の問題特定と共有と共感する力。

それが、それこそが我々に求められている。

経理改善（経理強化）という業務をさせて頂く中で、お客様と問題を共有し、共に解決していく。つまり出来る事で作業をして、相手を依存させるのではなく、共感し、共に思考し、共に解決し、仕事をドラマ化していきたいと意識するほど、いかに出来る事に頼ろうとしているか、その出来る事で感謝してもらうことに満足してしまう自分であるかという事を自

覺させられます。

H 歯科様は記帳代行先ではありますが、院長の希望によりクラウド会計を導入することになりました。最初にご依頼を頂いた段階では I さんが税務担当者として、A さんが経理改善責任者として関わって頂いておりましたが、1 年以上、最初の提案後の動きがストップしておりました。私は直接メンバーでは無かったので、動きがない事が気に掛かり何度か声掛けするに留まり、なかなか動きださないという状況でした。

K 君が税務担当者となり、S さんが記帳代行をする体制に代わってから、記帳に 2~3 日も掛かってしまうという問題を解決するために、このクラウド会計導入を再度進めたいと S さんが投げかけて下さり、ソフトや進め方についてアドバイスを貰えればと私も声掛け頂き、ミーティングに参加しました。そのミーティングの中で、再度先生にヒアリングをする必要があるという話になり、私がその役割を引き受けることになりました。

先生とのミーティング後、またメンバーで打合せを行い、タスクと期限を整理しました。週に何度か声掛けするも、そのタスクがなかなかあがってこない、進まないという状況に直面しました。その時、私の中で「こんなに丁寧に声掛けしているのに何故進まないのか?」「私の時は、事前にここまでスケジュールや進め方を教えてもらわず、自分で考えて、自分からアドバイスを貰いに行きながら進めていたけどな。」と、私の価値観では十分に支援しているにも関わらず、スムーズにいかない状況に苛立ちがありました。

その中で、S さんより、「どうしてもやりたくないエネルギーが働いている」というメッセージを貰いました。最初、その言葉を見た時は、カチンときて、「だったらやめればいい」という気持ちが溢れました。ここまで時間を掛けて、資料に目を通して手入れして、段取りも一から伝えて、進捗も声掛けして、やりたくないと言われるなら、やめてしまっ、今まで通りの記帳代行でいいのではないかと思います。

自分でもどのように考えて良いか分からなくなり、A さんに時間を頂いて、状況を整理し、自分の気持ちをずっと聞いてもらいました。話を聞いてもらい気持ちが落ち着くと、よくよく考えてみると、「自分が正しい」という価値観で、S さんが今、何に困っているのか、何故進まないのか、S さんの立場や想いに寄り添うこともせず、これだけやってあげれば出来るはずだというこちら側の考えだけで進めようとし、思い通りに進まないから腹を立てるというとても身勝手に、幼稚な私自身であるということに気づきました。

お客様に経理改善を実施する時と、S さんに経理改善を教える時で、問題を共有し、共に解決していくというスタンスが変わるはずがないにも関わらず、S さんの状況を知らないま

ま、私に出来る事、私が持っている知識をただ渡すだけで進めようとしていました。そのような私自身であるという事を踏まえて、今、問題だと思っている内容と、これからの進め方について再度整理してSさんに連絡したところ、その内容を真剣に受けとめて下さり、やりたくないエネルギーの背景が何であったかの言語概念化に挑戦すると共に、私が伝えた通りの進め方にのっとって内容を詰めてくれ、今までの停滞が嘘のようにグンと進みました。

こんなに何とか進めようという気持ちを持っていたのに、私がそのエネルギーを活かすことが出来ず、むしろ殺してしまっていたのだと大変申し訳ない気持ちになりました。そして、私が伝えたことについて、真剣に向き合い、返してくれる沙季さんに大変ありがたい気持ちになりました。

油断をするとすぐに、自分都合で、自分に出来る事で、自分の思う通りに進めようとする私自身であるということを常に忘れず、引き続き、Sさんと共にH歯科様へのご支援を進めていきたいと思います。

会社名：税理士法人 T
役職：なし 氏名：O. A
年齢：30(男性)

感想文の公開：①開放可能

【高次元経営第5期2講 感想文】

楠本代表、准子さん、日本的経営研究会の皆様、今回も貴重な学びの場をありがとうございました。先日、ふと気になって第1期の自分の感想文を見直してみると、当時の自分と今の自分の差を感じ、「この時はこんな風に考えていたな」と感慨深くなりました。あの初めて受講したときから、今このときまで学び続けていること、この場に居合わせていることに感謝申し上げます。

■ 自分の仕事(勉強)について

レジュメ 9P

今、各自がやっている仕事の[目的]

- ・自分が惚れる仕事を自分が創る
- ・自分が惚れる自分の仕事、それは、自分が自分で誇れる仕事を自分が創る（創れる）の意
- ・それ(上述)が、仕事を通して自分を創る。という意味。

つまり、仕事＝生きる＝人生＝自分らしさ＝喜び

・自分で思考して、自分が行動して、自分が工夫して、自分がまた挑戦する。その自分を自分が尊敬し、その自分が幸福を創り、その自分が社会（顧客）に与えたものが、幸福となって自らに返ってくる。それをまた社会に返す。そのことが幸せを生み、そのことが積み重なる。それは、それだけは歳をとっても、死後にも、持っていける。

レジュメのこの部分を読んだとき、特に「自分が惚れる仕事を自分が創る」というところについて共感しました。以前学んだお上人様のお言葉で「自分の人生に感動したい」というところがありましたが、自分が惚れる仕事をつくる＝自分の人生に感動する、と受け止めました。

現在税理士の受験勉強をしていますので、仕事を勉強に置き換えると、「自分の惚れる勉強(法)を自分で創る」となります。そのように捉えると、今の自分は自分が惚れる程の勉強をしていないなと感じます。また、勉強法についても、「どこかに完璧な勉強法があるのではないか」「誰かが教えてくれるのではないか」と探してしまいましたが、それは自分で創り出していかねばならないのだと気づかせていただきました。

自分が自分に誇れる勉強を、自分自身と向き合って進めていきます。

■ 運がよくなる行動をしているか

レジュメ 17P

たとえば、運がいいといわれる人たちは、みな、いろいろな意味で自分を大事にしています。常識や世間一般の平均的な考え方に流されることなく自分の価値観を大切にして、自分をていねいに扱っています。

また、他者を思いやる気持ちも人一倍もっています。どんなときもひとり勝ちしようとせず、他者のために、そして他者と共に生きることをめざしています。

総じていうなら、よりよく生きている——。

逆にいえば、よりよく生きているからこそ、運も彼らの味方をするのでしょう。

中野信子さんのこの部分を読んだときドキッとしました。税理士試験に向けて勉強をしているところですが、今の私の生活について、本当に運がよくなる行動になっているだろうかと自問したときに、はっきりと頷くことができなかったからです。受かるためになんでも取り入れていかなければと思っているところですが、「運」というところまで頭が回っていませんでした。

もちろん勉強が大事ではありますが、試験当日に事故に遭わない・突然の病に罹らない等、少なからず運というものが左右してくるのもまた事実です。「運」も実力のうち、とはよく言いますが、「運」も万全にして当日に臨めるようにします。

■ 福岡伸一さんの『動的平衡』について

レジュメ P23

生命の本質はその動きにある。生命は細胞の内にあるのではない。むしろ生命は細胞の外にあるわけでもない。生命は内と外の間、つまり境界線の上にある。

レジュメ P24

生命とは何か？ それは自己複製するシステムである。20 世紀半ば、DNA という自己複製分子の発見をもとに、私たちは生命をそのように定義した。

螺旋状に絡み合った 2 本の DNA 鎖は他を相補的に複製し合うことによって、自らのコピーを生み出す。こうして極めて安定した形で情報が DNA 分子の内部に保存される。これが生命の永続性を担保している。

レジュメ P26

肉体というものについて、私たちは自らの感覚として、外界と隔てられた個物としての実体があるように感じている。しかし、分子レベルではその実感はまったく担保されていない。

私たち生命体は、たまたまそこに密度が高まっている分子のゆるい「淀み」でしかない。し

かも、それは高速で入れ替わっている。この流れ自体が「生きている」ということであり、常に分子を外部から与えないと、出ていく分子との収支が合わなくなる。それゆえに私たちは食べ続けなければならない。

以前の高次元でも福岡伸一さんの『動的平衡』についてとりあげられていましたが、今回の内容を読んでまた一つ「生」と「死」について理解と確信が深まったように思います。特にレジュメのこれらの部分について読んだときに、科学的にはこう説明すればいいのだなと感心しました。

もちろん「生」と「死」というのはいろいろな視点から定義することができ、ここでは「感情」・「精神」・「魂」というものが論じられていないことから、これが人間の「生」と「死」のすべてであるとは思いません。しかし、もし私が「生」と「死」を語ることが必要なときの思考の1つとして大変重要なものだなと感じております。

今回の講義後に代表とお話させてもらったときにも感じましたが、高い価値観を学ばせていただいている、ようやく、中野信子さんであったり福岡伸一さんであったり、各分野の最前線で戦っている人達の能力の高さ・凄さというものがわかったような気がしています。私であれば何回生まれかわってもそんなところまでいかない、「どうやったらこの高い価値観を学ばずにその結論まで来れるのか」と感動します。

それと同時に、このように考えられるようになったこと(思想を学ぶ前の私は「へー、そうなんだー」で終わっていたはず)に違和感というか驚きを覚え、改めてこの高い価値観の凄さを体感しました。

■ 本講の内容(お上人様の内容)について

レジュメ P33～P64 のお上人様の内容について、正直理解すら追いつかず、何度か読んでいるのですが、何か理解できない、何が理解できていないのかわからない状態で、何か感想を書かなきゃと思う一方で、何も思いつかないのが正直なところです。大変恥ずかしいのですが、将来の自分が「こんなときもあったな」と思えるように、ここにそんな私を書き記しておきたいと思います。

■ レオナルド・ダ・ヴィンチの言葉について

レジュメ P67

大いなる苦悩無くしては、如何なる完成せる才能もあり得ない

ダ・ヴィンチのどの言葉も唸るほどのものですが、今のわたしには上記の言葉が刺さりま

した。以前代表が「苦しい思いをしたものしか、今の身になっていない」とおっしゃられていましたが、ここを読んで「ああ、ダ・ヴィンチですらそうなんだなあ」と、当たり前のことではありますが、改めて心に沁みました。

今私にとっては苦しい税理士試験ですが、この過程(税理士という資格はともかく、このプロセス)が必ず私という物語の1ページになることを確信しています。

レジュメのお上人様の所がまだまだ理解できず、日々見直していかなければすぐ忘れてしまう私ではありますが、苦しい日々だからこそこのお勉強を続けていきたいと、そう思っています。これからもご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。

会社名：(株)K
氏名：A・S
年齢：28 歳 (女性)

【高次元経営第 5 期 2 講 感想文】

-感想本文 (MS 明朝)-

代表、准子さん、事務局の皆様、今回も学びの場を頂き大変ありがとうございます。自己、今の私の実体を知る為、気になったこと、気付いたこと、一つ一つ丁寧に言葉にしていきたいと思います。

別添資料 2 ページ

書かない人が居る。
書けない人が居る。
書く人が居る。
書く内容が異なる。
書かない理由が異なる。

自己認識は、自分のために書かないと、知識の横滑りになり、現実の世界で生かされない。

武道やスポーツと同じです。
聞いているだけで理解して、OKなのは、これまでの勉強。
数字や英語や物理では、感想文など求められなかった。

国語の時間に求められる感想は、理解の程度を確認する為のもの。
ここ (高次元経営) での気付き。
自己の振り返りは、自己を知る。自己の確立。現実を変える為。

書いてみる → その書いた内容が、今の自分 → その自分を知るから、自分を語れる。
書いてみる → 書けない。
その書けない理由、書かない理由を正直に、素直に書いてみる。

そして、自分の書いたものを見る。

それが、今の自分。

それで自分を知る。

書いて開放する仲間が居る。

お互いを知る。その事でまた、自分を知る。

信頼の関係が、はじまる。 はじめる。

恥ずかしいのですが、私が感想文を書く理由が、自己を知る、知りたいと思って書くというより、まだまだ「提出しなければいけないもの」であり、提出しなかった場合、その理由を聞かれることも「出さなかったお前が悪い！と咎められる」という意識が強くあり、書いている私がいまいました。

また、「自分の為」「自己を知る為」ではなく、「良いもの書きたい」「凄いね！と褒められるものを書きたい」と思っている私もいます。以前（第4期第6講「稼げる夫に育て、全力で支える事を誓います」という感想文を提出した際）、代表から「今回の感想文良かったよ」と言って頂いた際、ほっとし「ありがとうございます！」と言ってしまいました。書いた感想文に対し、正直に書いた文章でしたが、その後、すぐに、このほっとは、思考の方向性が間違っていないと言われたというほっとではなく、良い文章を書けたのだと思ってしまい、恥ずかしく、まだまだこれからであるのに、ほっとした自分に対して嫌気がさしました。

改めて、ここを聴いて、入社式での発表のため、時間をかけ、自己と向き合った事、言葉になったことを整理し、メンターチームで発表し、そこで皆さんと対話が出来た事、自分を言葉にすることが少し楽しいと実感したことを思い出しました。まだまだ出逢えていない自分と出逢う為、自己を知る為、成長するため、感想文を書きたいと思う事ができ、ここの話を聞いて感想文を書く事に対し、一歩前向きな気持ちになりました。

レジュメ 14 ページ

今運がいいと思っている人はこれからも運がいいです。今運が悪いと思っている人はこれからも運が悪いのです。今生きて、こうやって高い思想のお話を聞けている事が、どれだけの感謝すべきの運がいい事なのかとういこと思っていない人がいたら今すぐ我社をやめてくれと先日言いました。

イブニングニュースでここの話をされる前、私は、今の私の状況を振り返り「私って運がいいのかも？」と思う事がありました。それは、高い思想に出逢えて、勉強させて頂いているから、運命が変わったのかもと薄々考えておりましたが、イブニングニュースを聞いて改めてやっぱりそうだと思います。しかし、ここの言葉を筆耕にして読めば読むほど、まだ

まだ受け止めが浅かったと実感しております。

「運がいいのかも」思い振り返るきっかけになった出来事は、恥ずかしい程レベルの低い内容になりますが、今までの人との出会いを振り返り、特に実感している事が、昨年から町内のバレーボールに参加させて頂いております。その中で、なかなか新しい人を快く受け入れないチームの雰囲気の中で、何故か、私はずっと受け入れてもらい、更に、色々な町内の方から「こっちに引っ越しておいで！」「こっちならこのマンション空いているからおいでよ」と声をかけてくれることが多いです。

その様に声をかけて頂くことが、嬉しいと思う事で止まっていましたが、ふと、「なんでこんな事が続くのか？」と考えた時に、「運がいいのかも。何故？思想の勉強をしてくれているから？」と漠然と考えておりました。その後、イブニングニュースで「運がいい」という事の話をして頂き、「運がいい」というのは本当にあるだという事を認識しました。

思想的な振り返りがまだ出来ておりませんが、昨年からずっと問題意識としてあった、私は何のために今ここに存在しているのか？今ここで私ができる事はなにか？を考え行動することを心掛けてきたことが、繋がっているのではないかと考えています。

仕事だけでなく、プライベートでもその事を考え、K アライアンス以外の方と出逢うと、失礼な言い方ですが、子どもみたいな大人が多く、ソフトバレーは理念や目的がない為、自己主張したりするのは当然で、だからこそ、今理念・目的があって仕事ができる、思想を学んでいる上司、先輩、後輩、夫と仕事ができる事が幸せを感じました。

そして、私が何のためにここに存在するのか、私の個性を活かすとなると何ができるか？という事を考えられる環境があることがとてもありがたいです。これからも、自分の置かれた環境をどのように見るのか、目の前の環境は何を教えてくれているのか、考え行動していきたいと思います。

レジュメ 47 ページ

初秋の頃に東京のある大きな神宮に参りますと、参道の脇に銀杏の葉っぱが全て落ちてしまします。朝などは太陽の光が参道を照らし出すとキラキラ光るのです。太陽に当たったものは光ります。このことは物凄く重大な意味があるのです。太陽の光が当たるとすべての万物は光り出します。自然に、自然的に存在するものは光るのです。

光らないのは人間だけ。人間のかけているメガネは光りますが、人間の顔は光らないのです。それは、人間が一番罪が深いからではないでしょうか。人間だけが、宇宙の法則と違う

ところで生きています。だから人類の最期が来るかもしれません。宇宙が淘汰させるのです。厚かましい人はあまり長生きできない。これが宇宙の真理です。

だから世の中に役に立つようなことをして、ビジネスでもお客様を喜ばせ、関係者を喜ばせ、協力してくれた人に何倍もお返しをして、それを喜びにできるような価値観の経営者でないと、企業の経営はかえって社会や宇宙に迷惑をかけることになります。ゴミの山をつくったり、自分のエゴだけでビジネスをやるような人は経営者には不向きだということです。

ここの話を聞いてドキッとしました。「人間が一番罪深い。」正直、ここの言葉はまだ深く受け止めきれていないです。お上人様がそういわれるからそうなのか、とずっと心に入っていました。「一番罪深い」人間でも、だからこそ、私は、少しでも世の中に立つ仕事をしたい、お客様、上司、先輩、後輩、夫、娘、家族、私を支えて頂いている方々に恩返しをして、それが喜びにできる私でありたい、そういう人生を歩みたいと思いました。

この世に生まれてきたことに感謝ができる自分でありたいと、A・S が生まれてきて、よかったと思って貰える人でありたいと思いました。

レジュメ 57

結婚する前、自分の身近な周りには別の人がいました。実家で親と一緒に暮らしていたとすると、その当時は自分と親との間に、親子という関係性の中にあったのです。

そして、結婚して妻と一緒に同居するようになり、結婚生活が始まって、自分の対象が親ではなく奥さん(妻)にかわって、ご夫妻の関係性をそこで保証したことになります。実は、ご主人と奥さんが存在している。その両者の間に関係性があります。

普通は結婚して関係性が成立したと思うでしょう。だって結婚するまでは他人同士だったのだから。

この関係性が大事か、自分自身が大事かというと、関係性の方が大事だと考えます。

それを自己というのです。

「いや、私は関係性なんか関係ないよ。私は私自身が大事なのです。」それは自我なのです。

つまり、ご夫婦の場合だったら、ご主人の場合で言うと、自分自身を自己として認識したら、その目の前にいる奥さんとの関係性が非常に重要なのです。

夫に対する文句苦情が出てくるたびに、まだまだ「関係性を大事にする私」よりも「自分自身が大事」という意識が強い私であると日々痛感しています。

「相手の事を知ろう」とか「どうしたらいいのだろう？」「どういう考え方なんだろう？」等相手の事を知りたい私ではなく、やっぱり自分が正しいと思い、自分中心の私でしかない、日々の感謝は表面的なものでしかなかった、という事も自覚してしまいます。

関係性を深くしたいと思っている私ではありますが、夫の顔色を窺い、落ち込まれることが面倒くさいと、いちいち指摘されたことに落ち込んでよ！と責めている私がいいます。（この自分をなくしたいと思っているということも感想文を書きながら気づきました。）

その私が出てきた時、私自身を振り返り、私の夫（周囲の人）に対する、配慮、伝え方等、どうだったのか？を振り返る必要がありますが、私の中にある「被害者意識」が強く根付存在し、「また、これも関係性か？何が関係性なんよ…いや、もっと夫がこうしてくればいいのに！（配慮が足らん！）」と関係性という言葉に苦しみ、自分がしている事がいい事、正しい事と決めつけ相手を責めていると考えています。

そう気づいた時、一緒に思想を学んでくれている夫であれば、素直に「ごめん。また被害者意識が出てきてしまった。こうしてほしかった。」など、一緒に学んでいるからこそ伝えられるはずなのに、それをしてきていなかった、思想を学んでいるなら分かるでしょ？というような態度であったという事に気付きました。

イラっとすることもある、そのイラっとした時に、きちんと言葉にして、相手の事を考え伝えていく事を意識して行動していきます。

レジュメ 58 ページ

私は妻という立場で夫婦、夫は夫という立場で夫婦。しかし夫婦の立場が成立したことが先なのか、関係性が先なのかとなった時に、実は関係性が先だといえます。そのように考える考え方が昔からあるのです。その関係性のルールも法則もあります。それを私たち夫婦がお互いに学びあうのです。

例えば、夫が「朝起きて、挨拶するのはそっちから挨拶しろ。」と、そんなことは言うなという教えがあります。そうではなくて「おはようございます。どうだ、体調はどうか。今日はご機嫌かね。」夫がそのように訊くと、まだ若い結婚してまだ間がないご夫婦である奥さんが、「もちろん、私は元気でピチピチしているよ。あなたはどうか？あなたも同じですか。」

と奥さんは訊きます。

「もちろん、一緒だ。」「若い者同士って幸せだな。心配することがなくて。健康に恵まれるってことは幸せだね。」そういうことなのです。「私はあなたと結婚して、自分の健康がこんなに大事だって初めて気が付いたよ。というのはあなたを悲しませたくないからだ。私は元気でいなければいけない。朝起きるたびに、それを私はいつも思っているのだ。」→責任

最後の「私が健康でいなければいけない責任」という言葉を聞いたときに、同時に、「私の責任は夫を支えるために健康である」＝「だから、夫を健康でいてもらう責任が私にある」と受け止めました。間違っていましたらご指摘頂きたいです。

その様に受け止めた背景は、3月決算申告業務で、先月1か月間、夫は必死にほぼ夜も寝ずに仕事をしていました。そのせいか、5月の中旬ごろから、低音難聴になり、それが良くなったかと思うと、頭痛、足が痛い、などあちこちに不調が出ておりました。

「寝ろと言っても寝ないし、寝れない状況なのもわかる。本人もやりたいのだから…」と思っていました。どうしたら寝れるのだろうか、私ができる事は何か？と考え、夫に仕事で何かできる事があるか？と聞いても、なかなか回答が貰えず、様子見でした。

何をどういっても聞かない、聞けない状況にある、私もどうしていいのかわからない、夫も「去年より明らかに忙しい、きついけど、苦ではない」と前向きな言葉を言っている。上司からの心配の声が私に届き、心配させてしまっている不甲斐なさと、私自身の仕事も心配し、家のことは任せろ！と言い切れない状況であったのがとても苦しかったです。

Mさんにもご心配をおかけし、協力も頂いたことで、なんとか5月を乗り切りましたが、私自身が支えられていないことを再認識させられました。必死で夫が働いている事を私が必死で支えなければいけない、私が健康でいる事と同時に、夫を健康でいさせる責任が私にはあったと、支えきれていなかったから夫に不調が出てきたと受け止めています。

正直、夫の体調管理まで私が？と思っていたましたが、ここの話を聞いて夫との関係性を考えると、私がすべきことなのだと思う事が出来ました。これから来年に向け、どの様に仕事に向き合っていくべきなのか、夫婦で話し合い、仕事のやり方も試行錯誤しながら取り組んでいきます。

会社名：株式会社 K

氏名：M・S

年齢：60

感想文の公開：①開放可能

【高次元経営第5期2講 感想文】

楠本代表をはじめ事務局の皆様、今回も貴重なお話を聞く機会を頂きまして、誠にありがとうございます。成長の遅い私が受講させて頂ける事に感謝し、今回も素直に素直にお話をお聴きし、そのまま受け入れたいと願い受講させていただきました。

テキスト P18 新版 科学者がつきとめた「運のいい人」

中野信子著より

運をよくするために、まずは脳を「運のいい脳」に変えてしまう、というのもいい方法だと思います。

ここまで、運がいい人の共通の考え方や行動パターン、また運よくするための振る舞いなどについて書いてきました。結局、運というのは、その人がもともと持っているものだけではなく、生まれつき決まっているものでもなく、その人の「考え方」と「行動パターン」によって変わる、といえます。

だとするなら、その人の考え方や行動パターンを決める脳そのものを「運のいい脳」にしていればよいのです。

以前は、人間の脳は「成人になったら脳細胞は増えず、減る一方」と考えられていました。人の脳は、それぞれの人がもつ遺伝子によって設計図のようなものが決められていて、成人になると、脳はその設計図どおりに固定されてしまう、とされていたのです。しかし、1998 年、スウェーデンのエリクソンとアメリカのゲージにより、大人の脳の中でもシナプス(神経細胞間の接合部)が新しく生まれていることが発見されました。彼らは、入院している患者さんの協力を得て、その死後に脳を調べたところ、海馬の歯状回で神経新生が起こっていることがわかったのです。

また、「人が新しい経験」をし、「脳が新しい刺激を受ける」ことで、「脳の中はどんどん変化する」こともわかっています。これを脳の可塑性と呼びます。

つまり、私たちは何歳になっても脳を育てていけるのです。

「私たちは何歳になっても脳を育てていける」という言葉が衝撃的でした。

私は、成人を過ぎると脳はだんだんと委縮していき、記憶力も判断力も年々衰えていくと信じて疑っていませんでしたが、20 年以上前に、既にこのような研究結果が出ていたことを、今回知ることができた私は「運がいい」と思いました。

運・不運というのは、だれの身にも公平に起きていて、その運をどう生かすかに少なくとも人は主体的にかかわっていける、というのが私の考えです。

目の前の現実(環境)をどのように捉えるのか(価値観)が重要だという事を、改めて感じました。

P10

幸せな人生を送りたいなら、
それをなんらかの目的と結びつけなさい。
人や、モノと、ではなく

——アルバート・アインシュタイン——

代表が統合学術研究所の再生について「できるかどうかは分からない」と仰っていました。それでも、その目的に向かって、その道の上を真っすぐに進んで行こうとされるお姿に、共感し、応援したいと思いました。私も自分の人生の目的を自己に問い、私の人生が終える日まで真っすぐに歩み続ける道を早く特定したいと思います。目的が特定できた時に初めて、依存からの脱却(自立)ができて、回りの評価に一喜一憂する人生から、本当に自分を誇れる、幸せな人生を歩むことが可能になるのだと思いました。

これからもご指導の程、どうぞよろしくお願いいたします。

会社名:株式会社 K

氏名:I・M

年齢:58(女性)

【高次元経営第5期 第2講 感想文】

代表、准子さん、事務局の皆さん、いつも学びの場をつくっていただき感謝いたします。

レジュメ 35 ページ 自己組織化の原理

宇宙に包まれたサブシステムの内のひとつである企業は、システムであるが故に、その本質に巨大な創造的エネルギーを宿している。そして、もっぱら独自の特徴の保持につとめる自己組織化の形態による進化のプロセスを通して、次々と自然発生的にその具体的な姿を創発させるのである。

これら自然の生命システムを支配する自己組織化の原理は、企業ビジネスを導く上で多くの方法に関する教訓を含んでいます。つまり、**財務諸表に基づく定量的管理を止め、仕事の現場を構成する顧客のニーズに対応する為の自然システムに範を求めて、自社独自の戦略の促進に置き換える必要がある**のです。

ここを読んで、私たちが取り組んでいる 30 項目の深化・進化と各自の社内独立は、「もっぱら独自の特徴の保持につとめる自己組織化の形態による進化のプロセス経営を通じて、次々と自然発生的にその具体的な姿を創発させる」という自己組織化の原理に基づいているのだと思いました。そう思うと、30 項目の深化・進化という重要な取り組みについて自分のペースで進めてしまっていることが、自分と全体の関係性を無視した行為であることであり、組織と自分に対して大変申し訳ないことをしていたのだと気づきました。

「顧客のニーズに対応する為の自然システムに範を求めて、自社独自の戦略の促進に置き得る必要がある」と言われていますので、しっかり取り組んでいきます。

レジュメ 45 ページ 自己組織性の原理

- (1) 自分らしさの個性に基づく価値を確信できる自己の「主体性」とは何か。その欠如、喪失こそが問題を引き起こす自分自身にほかならない。
- (2) 自分にしか出来ないことが、自前で出来る為には何が、どのような条件が揃った時なのか？それは個として自己と組織の全体が相互互換の関係で貫かれている事実に気付いた時である。
- (3) 自己の内部世界が、他人の世界と無関係ではあり得ないことがわかった時から、組織に対し真の自己の主体性が確立する。

「自分にしか出来ないこと」とは何か。それは仕事を通して私は何を達成したいのか？という「目的=自己理想」なのだと思います。自分の外にはなく、自己の中に隠されている、生まれている時に持っていた「目的=何のために生まれてきたのか」を自分の言葉で語れるようになりたいし、必ずします。

「個として自己と組織の全体が相互互換の関係で貫かれている事実気付いた時」「自己の内部世界が、他人の世界と無関係ではあり得ないことがわかった時から、組織に対し真の自己の主体性が確立する」というところも、まだ私に足りていないところです。

レジュメ 47 ページ 15 行目

光らないのは人間だけ。人間のかけているメガネは光りますが、人間の顔は光らないのです。それは、人間が一番罪が深いからではないでしょうか。人間だけが、宇宙の法則と違うところで生きています。だから人類の最期が来るかもしれません。宇宙が淘汰させるのです。厚かましい人はあまり長生きできない。これが宇宙の真理です。

だから世の中に役に立つようなことをして、ビジネスでもお客様を喜ばせ、関係者を喜ばせ、協力してくれた人に何倍もお返しをして、それを喜びにできるような価値観の経営者でないと、企業の経営はかえって社会や宇宙に迷惑をかけることになります。ゴミの山をつくったり、自分のエゴだけでビジネスをやるような人は経営者には不向きだということです。数字で物事を捉えたり分析したれしているうちは、人間の未来は、寂しく孤独になってい
かざるをえないような暗い予感がするばかりです。人間は助け合うから心がいつまでも安心に満たされます。自分が動けなくなっても優しく声をかけてくれる人がいくらでもいるのです。そういうことを信じられたら歳をとることに安心感が保証されます。

「人間だけが、宇宙の法則と違うところで生きています。だから人類の最期が来るかもしれません。宇宙が淘汰させるのです。」という言葉は、原理原則(真理)を無視した近代社会への警告です。私たち一人ひとりが経営者として道に立つために、片時もこの警告を忘れず、目的と相互互換の摂理を軸に社会や顧客そして組織の問題を価値に転換し、関係する人に心からの「安心」が保証されると嬉しい(すみません、まだこんな程度です)と思います。

レジュメ 9 ページ

- ・自分が惚れる仕事を自分が創る
- ・自分が自分で誇れる仕事を自分が創る(創れる)の意。
- ・それが、仕事を通して自分を創る。という意味。
つまり、仕事=生きる=人生=自分らしさ=喜び
- ・自分で思考して、自分が行動して、自分が工夫して、自分がまた挑戦する。その自分を自分が尊敬し、その自分が幸福を創り、その自分が社会に与えたものが、幸福となって自らに

返ってくる。それをまた社会に返す。そのことが幸せを生み、そのことが積み重なる。それは、それだけは歳をとっても、死後にも、持っていける。

このことに、挑戦しています。少しワクワクしております。

ご指導、どうぞよろしくお願いいたします。

会社名：(株)K
氏名：A・K
年齢：28 歳 (男性)

【高次元経営第 5 期 2 講 感想文】

楠本代表、准子さん、高次元経営スタッフの皆様、今回も学びの場を創って頂き、ありがとうございます。

まず、冒頭に、自分が提出した感想文をもう一度読み直すというお話がありましたが、私は、提出をして終わりになっていました。他の方の感想文だけ読むのではなく、自分がその時にどんな事を書いているのかを読み返していない（どういう自分なのかを知ろうとしていな）事に気が付きました。自分がどういう人間なのかを自己を通して知るためには、とても重要な事ではないかと思います。本当は、自分がこれまでに書いた内容を見るのは、恥ずかしいです。稀に読んだ時も、読んでいて、カーッととなり、恥ずかしくて途中で読むのを辞めていましたが、自己を知る（認識する）ための機会だと捉えて、過去の自分が書いた内容を読む事にも取り組んでいきます。

高次元経営第 5 期 2 講 P9

今、各自がやっている仕事の[目的]

- ・自分が惚れる仕事を自分が創る
- ・自分が惚れる自分の仕事、それは、自分が自分で誇れる仕事を自分が創る（創れる）の意

私が今やっている仕事が、惚れる仕事になっているのか？と考えた時、惚れた仕事にはなっていません。それは、ここのお話の中で、代表が仰っていたように、自分で惚れる仕事を創ろうと思っていないからだと考えています。「俺は絶対に、この仕事を惚れる仕事にしてやる。」と思っていない。「そうになったら、いいな。」くらいのレベルです。それでは、いつまで経っても、自分の仕事を深化させ、顧客に、「ありがとうございます。」と喜んでもらう事は不可能だと受け止めています。

高次元経営第 5 期 2 講 P58

私は妻という立場で夫婦、夫は夫という立場で夫婦。しかし夫婦の立場が成立したことが 先なのか、関係性が先なのかとなった時に、実は関係性が先だといえます。そのように考える考え方が昔からあるのです。その関係性のルールも法則もあります。それを私たち夫婦がお互いに学びあうのです。

例えば、夫が「朝起きて、挨拶するのはそっちから挨拶しろ。」と、そんなことは言うな という教えがあります。そうではなくて「おはようございます。どうだ、体調はどうか。今日はご機嫌かね。」夫がそのように訊くと、まだ若い結婚してまだ間がないご夫婦である奥さんが、「もちろん、私は元気でピチピチしているよ。あなたはどうか？ あなたも同じですか。」と奥さんは訊きます。

「もちろん、一緒だ。」「若い者同士って幸せだな。心配することがなくて。健康に恵まれるってことは幸せだね。」そういうことなのです。「私はあなたと結婚して、自分の健康がこんなに大事だって初めて気が付いたよ。というのはあなたを悲しませたくないからだ。私は元気でいなければいけない。朝起きるたびに、それを私はいつも思っているのだ。」→責任

私は、ここのお話を聞いて、如何に自分が、夫婦と言う関係性を蔑ろにして、自分の事しか考えていなかったのかと思いました。最近、寝不足が原因で、私の左耳が聞こえづらくなっていました。私の仕事の仕方に問題がある事は言わずもがなですが、そもそも私自身が、自分の身体を大切にせず、「身体がどうなってもいいや。」と思いながら、仕事をしていた事に問題があったと受け止めています。「だって、自分の身体なんだから、どうだろうと自分の勝手じゃん。」とまで思っていました。自分の身体だから、迷惑がかかるのは自分。寧ろ、何でこんな状況になってるんだと、環境のせいになっている自分も居ました。本当に、近代におかされているなと思います。

病院に通わなくてはいけないと思いつつも、仕事が終わっていないからと言い訳を付けて、病院を受診する事を後回しにしていました。Sさんが、もの凄く心配して、「今日は絶対に行け。」と言われて初めて、病院に行くようなかたちでした。今回に限らず、これまでもずっとそうでした。

この文章を読み、自分の健康が如何に大事かという事に初めて気づきました。自分の身体は、自分のものだけではない。妻にも、子供にも、Kアライアンスにも、顧客にも、国家にも、全て関係しているのだという事です。だからこそ、私は、私の身体を物凄く大切にしなければいけないんだと言うか、大切にしたいと初めて思いました。逆を言えば、自分の身体を大切に出来ない人間は、妻の身体や子供の身体、関係する全ての方の身体を大切に出来ないんだと思います。これは、身体だけでなく、相手を守るという事と同じだと思います。問題（今回で言えば病气）は、お知らせだという事を以前からご指導頂いていますが、今回、その事を身をもって感じました。そして、耳が聞こえづらくなった事に対して、「教えてくれてありがとう。」という気持ちが生まれました。

そして、P58の夫婦の会話のような、自分自身にも、妻にも、家族にも、会社にも責任を持って、現実と向き合っていかなければいけないと考えています。

また、寝不足になった原因には、仕事と休む事を分離していたという問題もありました。休む事も遊ぶ事も、育児も仕事だと捉え、思考ゼロの行動を、思考して行動する頭にまず転換したいと考えています。ただ、今後の事を考える中で、どうしても手法や効率等ばかり考えがちになってしまうので、何の為にそれをするのか？を明確にしたうえで、行動に落とし込んでいきます。

また、今年の6月で、Kアライアンスに入社して、4年目を迎える事になりました。これまでを振り返ってみると、およそ普通の会計事務所の未経験の者が経験出来ない事も、沢山経験させて頂いています。そんな中で、昨年、私が仕事が出来なくなった経験が出来た事に対しても、最近、感謝の気持ちを持つようになりました。もし、Kアライアンスに入社せず、他の会社に勤めて、同じ様に仕事が出来ない事があったとすると、そこから復帰できていないんじゃないかとも思います。復帰できても、繰り返したり、その事に対して、会社や上司に恨みをもったり、その事を悔んだりしているのではないかと思います。一步間違えば、そういう自分がいるという事実もあるのですが、しかし、私は初めて、「こういう自分があるんだ。」と、自己について知ることが出来ました。認めたくなかった自己を、認めてあげたいと思う様になりました。

それはまだまだ、ほんの一部で、まだ私の知らない自分や、根深いところにある価値観にも気付いていなかったり、思っている事を溜めがちになってしまう事も多々あるのですが、昨年仕事が出来なくなった事は、自分が成長する為には、絶対に欠かせない出来事だったんだと受け止めています。Kアライアンスに入り、皆様に出逢い、高い価値観を学んでいるからこそ、知ることが出来たのだと思います。本当にありがとうございます。

日々、多くの問題と直面するのですが、その問題に対して、一つ一つ丁寧に向き合っていきます。御指導のほどよろしくお願いいたします。

会社名：株式会社 T

氏名：KM

年齢：31(女性)

【高次元経営第5期2講 感想文】

貴重なお話を聞く機会をいただきありがとうございます。

日本ではいじめはこれからどんどん深刻になるでしょう。日本のいじめは止まりません、人間学という学問を充実しない限り絶対に止まらないのです。「経営人間学」という言葉は、人間を哲学的に考察するという意味です。これが学校教育の中にきちんと受け入れられれば一変にピタッと止まります。すごいスピードでぱっと止まります。それぐらい大事なことを教育の現場の人達は勉強していないのです。(P55)

私はいま子育て中であり、過去に警察のボランティアとしていじめ、暴力、犯罪などの加害者となった小学生たちと関わりをもった経験から、子どもたちの問題はとても気になっています。加害者となった子どもたちについて複雑な家庭環境であったり、元々暴力的であったりと加害者になる子には問題を起こすような背景があると考えていましたが、とても浅はかな考えでした。全くそんなことはありませんでした。ほんの些細なきっかけで子どもたちが加害者となる現実を見て、自分自身もほんのきっかけで加害者となる可能性があると感じました。犯罪、暴力ではなくても、人を傷つける言葉、態度をとることも加害です。「人間学を学校教育にきちんと受け入れられれば一変にピタッと止まる」学校教育が始まる前、自己学習が始まる前の年齢の子ども、私の息子に人間学・価値観を学んでもらうには、関わる大人、私がまず学び、行動で示すことが学びに繋がると考えます。私の子どもにはそのように学ばせていきたいと考えます。

会社名：株式会社 K

氏名：M・K

年齢：31(男性)

感想文の公開：①開放可能

【高次元経営第5期2講 感想文】

代表、准子さん、スタッフの皆さん、受講生の皆さん、今回も講演の準備や気づきを頂きありがとうございます。前は会場参加が出来ませんでしたが今回からはまた会場受講させていただきます。

いつも WEB 配信やアーカイブ配信を見ていましたが、会場受講をすることで身が引き締まる思いで受講しています。代表の講義の熱量も直に伝わりいつもよりもメモも多い気がしましたし、WEB 配信では叶わない会場受講者との出逢いも大切にしたいと思います。

昨日、90 歳のお父さんの面倒を見るのが大変だという事で、60 代の床屋さんが首を絞めて殺し、警察に連絡をしたというニュースを見ました。

高齢化という事は少子化も同時に起きることで「孤独死」がこれから増え、日本にとっては深刻な問題になるそうです。

そのニュースをみた時に「共同体の時代になる」と私は思いました。

年齢を重ね痴呆症がでてきた時に、本人の意識が無いので金銭関係をどのようにするのか、行政上の手続きを誰がするのか?を考えました。

当たり前の話ですが相続対策を専門家は法律の世界でやってしまいます。税理士であれば相続税法を 1 つ基軸に置き、弁護士の先生は争わない相続にならないために行動するでしょう。

私は専門家一人に任せないというのが当たり前になると思っています。つまり信頼できる方の専門家を越える専門家の集まり＝共同体になると思っています。人間そのものは私も含め信用できないのです。

だからこそ、高次元のお勉強をして頂いている士業のメンバーでチームを創り、共同体の一員になったメンバーに預けるというのは「安心」だと感じています。

うちのメンバーはこの話を聞いて考え始めている人がいるはずなのです。

先ず、このニュースと代表の話を聞いて「これは私に言われているな」と感じました。「孤独死」というテーマと LCS とが紐づき、新たな LCS サービスが展開できるのではないかと感じました。

専門家一人に任せないというのが重要なポイントで、生活面での困りごとの中で専門家との懸け橋になれるような立ち位置で LCS がサービスとして展開できるのではないかと思いますし、ニュースを聞いて、60 代の床屋さんが一人で悩まなくて良いような制度を考えていかなければいけないと強い責任感を感じています。具体的に練っていく必要があると感じています。

代表は話していたように、高齢化社会が進む一方で少子化も進んでいくので「孤独死」というテーマと、限られた人員での「介護」と「介護者の負担の緩和」が悲しい事件が起きない為のポイントなのだと受け止めております。少子化による相続を始めとする人間関係のトラブルも、今後は更に増えていくように感じます。

高次元を学ぶ私達だからこそ、高い思想を通じ人間が持つ醜さや愚かさの芯をとらえることができると思うので、高次元経営やイブニングニュースを通して自身の愚かさをしっかりとつかんで貢献したいと感じています。

また、今回の事件のようなことが目の前のお客様でも同じように起きてしまう可能性があると感じました。常日頃から税務以外のお悩み事をお客様が一人で抱え込まないようにヒヤリングしていきたいと思います。

会社名：株式会社 K

氏名：M. H

年齢：25 歳 (男性)

感想文の公開：①開放可能

【高次元経営第 5 期 2 講 感想文】

-感想本文-

毎回、会場で受講させて頂きありがとうございます。

今回一番心の中に残った言葉は、「**自分が惚れる仕事を自分が創る**」という言葉です。

テキスト P9

今、各自がやっている仕事の[目的]

・ **自分が惚れる仕事を自分が創る**

・ 自分が惚れる自分の仕事、それは、自分が自分で誇れる仕事を自分が創る（創れる）の意

・ それ(上述)が、仕事を通して自分を創る。という意味。

つまり、仕事＝生きる＝人生＝自分らしさ＝喜び

・ 自分で思考して、自分が行動して、自分が工夫して、自分がまた挑戦する。その自分を自分が尊敬し、その自分が幸福を創り、その自分が社会（顧客）に与えたものが、幸福となって自らに返ってくる。それをまた社会に返す。そのことが幸せを生み、そのことが積み重なる。それは、それだけは歳をとっても、死後にも、持っていける。

代表の講義を聞きながら、関係性や理念、目的などが全て統合されている仕事自分が惚れる仕事なのだと強く感じました。

それは、今回の講義の中で代表が仰った言葉で受講生、スタッフ、社会、両親、お上人様、准子さんあらゆる関係性への感謝を述べられていました。

また、高次元経営という場は、私自身を創っていつている、私の遺書、私を残す作業(承継)、喜び、過去と未来、会社の問題解決、お上人様との関係性の構築、感謝と恩返し、挑戦など、全てが統合された場だと思いました。

そのような仕事を創造できれば、本当の幸せ(喜び)なのだと思いますし、そういう仕事を創造していきたいと思いました。

一方、自分の仕事と向き合ってみたときに、今の仕事が自身で誇りに思えているだろうか、と問いかけるとそうですと言えないです。

今の私自身の仕事は、例えば、私自身の一つ一つの仕事に対して、理念、目的に立ち返っているだろうか、業界の問題に対して向き合っているだろうか、と様々な問いが出てきます。

少し綺麗ごとのようなことかもしれませんが、今自分が何故ここにいるのか、存在しているのかをより自分自身の中に刻みたいという一心での考えです。

イブニングニュースでもありましたが、自分が惚れる仕事、理想の仕事を創造するために、事業計画書着実に進めていきます。

今後ともご指導のほど宜しくお願い致します。

会社名：株式会社 K

氏 名：S・N

年齢：62 歳 女性

今回も高次元経営聞かせていただきありがとうございました。
代表をはじめ准子さん運営スタッフの皆様ありがとうございます。

p 9

今、各自がやっている仕事の[目的]

- ・ 自分が惚れる仕事を自分が創る
- ・ 自分が惚れる自分の仕事、それは、自分が自分で誇れる仕事を自分が創る（創れる）の意
- ・ それ（上述）が、仕事をして自分を創る。という意味。
つまり、仕事＝生きる＝人生＝じぶんらしさ＝喜び
- ・ 自分で思考して、自分が行動して、自分が工夫して、自分がまた挑戦する。その自分を自分が尊敬し、その自分が幸福を創り、その自分が社会（顧客）に与えたものが、幸福となって自らに帰ってくる。それをまた社会に返す。そのことが幸せを生み、そのことが積み重なる。それは、それだけは歳をとっても、死後にも、持っていける。

「自分が惚れる仕事の創造について考えよう」という週目の時、チームリーダーのFさんから「お客様同士の会合でウチの事をなんて言われるか？を想像しながら仕事をすると仕事は変わるのでは？」と問いかけられました。

入社当時から、当たり前のように仕事を与えて頂き、当たり前のように諸先輩方から教えて頂いたやり方で業務を行ってきました。諸先輩方から教えて頂いた事なので、間違いないという思い込みもあり、創意工夫することなくただ作業として受け止めてしまっていたと思います。

それは私都合の仕事のやり方であり、私の目の前にいる担当者とその先にいるお客様の事は何も考えられていなかったと思います。目の前の仕事を通して、どのように踏み込んでいけるのか。コミュニケーション（対話）が大切だと思いました。

「自分が惚れる仕事を自分が創る」為に、情熱を持って取り組み、柔軟に対応し、継続的に学び続けることで、自分自身が本当に満足できる仕事を創り出すことができると思いま

す。自分が自分で誇れる仕事を自分が創るために、今一度自分の仕事と向き合い、今の仕事を変えていく(価値化する)思考をしたいと思います。

会社名：(株)K
役職：なし 氏名：M・H
年齢：41(男性)

感想文の公開：①開放可能

【高次元経営第5期2講 感想文】

-感想本文(MS 明朝)-

楠本代表、准子さん、第2講も貴重なご講義ありがとうございました。第1講に続き、書籍等から引用いただいた各分野の専門家の意見が、これからの時代、統合の思想の重要性を再確認できました。沢山の資料を共有いただきありがとうございます。

P58 夫婦の関係性について

自己の教育ではこのように考えます。夫婦の関係性が先にあって、そのパターンの中に入ったのは後だというのです。そこで、妻にはこのような気遣い、このような心配り、妻は夫にこのような気遣い、このような心配りをしなければいけないという小さな条件項目がこのあといっぱい出てきますが、その前提として、この夫婦が「夫婦という立場」を「共有した時」に、お互いに夫婦だといえます。

私は妻という立場で夫婦、夫は夫という立場で夫婦。しかし夫婦の立場が成立したことが先なのか、関係性が先なのかとなった時に、実は関係性が先だといえます。そのように考える考え方が昔からあるのです。その関係性のルールも法則もあります。それを私たち夫婦がお互いに学びあうのです。

例えば、夫が「朝起きて、挨拶するのはそっちから挨拶しろ。」と、そんなことは言うなという教えがあります。そうではなくて「おはようございます。どうだ、体調はどうか。今日のご機嫌かね。」夫がそのように訊くと、まだ若い結婚してまだ間がないご夫婦である奥さんが、「もちろん、私は元気でピチピチしているよ。あなたはどうか？あなたも同じですか。」と奥さんは訊きます。

「もちろん、一緒だ。」「若い者同士って幸せだな。心配することがなくて。健康に恵まれるってことは幸せだね。」そういうことなのです。「私はあなたと結婚して、自分の健康がこんなに大事だって初めて気が付いたよ。というのはあなたを悲しませたくないからだ。私は元気でいなければいけない。朝起きるたびに、それを私はいつも思っているのだ。」→私が健康でなければならぬ責任なのです。

講義を聞いた妻から「講義でも言ってたでしょ、あなたの体はあなただけのものではない。

もう少し体に気を使って」と言われました。自分は体力のギリギリのところ仕事をする
ことが多く、食生活、睡眠時間が乱れています。体重も増え、健康診断でも引っかかり、深夜、
私の物音で妻は私が倒れたのではないかと心配して、起きてきます。いつも心配をかけてい
ます。今頑張れるからなんとか大丈夫と、無茶な仕事の仕方をする自分自身の行動をあらた
め、適度な運動など自分の体を大切にする責任が私にあること忘れないようにします。そし
て家庭があるから今の私がある、妻がいるからこれだけ仕事を思いっきりできている、その
感謝を忘れないようにします。

P70 より

自分を守る = 身近な環境を守る

(夫・妻・子・親・上司・部下・組織・国家・人類)

身近な環境を守る人 = 守られるものから、守るものへ

守る為に必要なもの = 自らの足りないものを知る。逆境からの教え

(強くなる為に必要なもの「逆境」)

その為に必要なもの = 新たな行動(挑戦)に出る。失敗・不都合と向き合う

自分は自分(=身近な環境)を、身近な環境(=自分)を守らない人間なのか?

(つまり、自分にとって都合の良い環境を求めているのか?)

それとも…

自分は守る人(支える人)でありたい人間なのか?

(つまり、支える人である事から生じる、相互信頼・尊敬の関係を求めているのか?)

私は、支える立場の人間である、と確信した人は、

その時、既に支えられる人になっている。

幸福 = 安心 = 相互信頼 = 相互尊敬この関係は、全て自己の中に在る。

↓

テクニック・手法ではない

↓つまり、

どうしたら良いのか? ではない

↓では、何か?

確信

である。

これまでKの皆様に支えて、沢山の出会いや学びをいただきました。楠本代表をはじめ諸
先輩方に支えていただき、自分は目の前の自分の事にしか気が回っていません。自分の目の
前の事と環境は繋がっているとはいえ、Kや環境(妻・子・親・上司・部下・組織・国家・
人類)の未来への責任観が希薄です。これから先、私がKや環境の未来を創る、守る(支え
る)リーダーになるという覚悟を持って、Kをはじめ環境の未来に責任を持ち、支える立場

の人でありたいと思いました。そのためにも思想学習、現実を巻き込んだ自己革新を続けていきます。

第2講の講義もありがとうございます。一つ一つを丁寧に振り返り、自分のものとします。引き続きご指導の程、宜しくお願い致します。

感想文の公開：②匿名希望

【高次元経営第5期2講 感想文】

楠本代表、准子さん、この場を支えて下さる皆様、いつも本当にありがとうございます。

仕事とは問題解決。問題解決とは依存させない事。弊社の一人ひとりのメンバーが将来の色々なことの過程において不安や心配をすることは問題なんです。その問題を私が問題を解決する為には、その部下なら部下に依存させないことです。私が助けるのではない。本人が解決できるようにしてあげること。子供の教育も同じです。国家の未来ですから子供は。問題解決とは共に道を歩くものという意味なのです。うちの場合、問題解決はそのことを通して信頼の関係を構築していくことを問題解決と言います。うちの問題解決は仕事なんです。

実はこの最近まで、後輩はいても部下はもったことがないという認識が強かったのですが、最近、KさんからIさんが成長していないとしたらそれはOの責任だとはっきりお話いただきました。この最近の経理のミスや関係性、前回の高次元のお話からも、私自身が責任を取るということの重さを引き受けたくないと思っているということも感じており、経理の仕事を引き継ぐにあたっても教えることはするけれども、育てるということに全く至っていないということを痛感しています。

Iさんの時間や業務量を思うと、成長に私が寄与できていないことに申し訳なく思うと同時に、自分自身の成長がないからこそ成長に寄与できていないということもわかってきております。

その中で今回引かかったのは、問題解決とは依存させないこと、本人が問題を解決できるようにしていくことです。前回の高次元より本人に考えさせるということを意識してきたつもりでしたが、自分自身がすっきりいかないことが多く、何か違うなと思っていたところでした。今回のお話で思ったのは、私の行動は、本人が解決できるようにと思いながらも、私が思う最善策に誘導するようなものであるということです。

では、本人が問題解決できるようにとはどうしたら良いのか？本人に尋ねるということだと考えました。それをしなければ、本人の良いものを引き出すこともできないし、私を超えてもらうことなどできないからです。これは、私を超えてはいけない、私が正解であると、無意識に相手に感じさせ刷り込み、結果的に上司の中にある正解を探らせるということをさせていたのではないかと思います。そしてこれが依存させることになるのだと考えました。恥ずかしい限りです。

私は、お話にあったように、問題解決を通して信頼の関係を構築していくことを望みます。

相手の中から引き出すことに注力し仕事をしてまいります。またこのことから、依存をさせるだけでなく、私自身が依存をしていることを自覚し行動に移せるよう日々を丁寧に過ごしてまいりたいと考えています。どうぞご指導くださいますようお願いいたします。

会社名：株式会社 K

氏名：N.S

女性

感想文の公開：①開放可能

【高次元経営第5期2講 感想文】

代表、准子さんはじめ、事務局の皆様、いつも本当に有難うございます。こうして学ばせて頂ける機会を頂ける事に感謝申し上げます。

レジュメ 8～9 ページ

普遍的理念と目的があるから、現実の問題は目的達成の為の気づきとなる

本日伝えたい鍵(キーワード)

頭(思考)を使って、行動(挑戦)に出る。

スキルは結果、付いてくる。

その付いたスキルは、手離す。(人に与える。執着しない)

それ(手にしたスキル)を使いたくなるが、使うのは頭(思考)。

行動に出たその「結果の事実」から、これと向き合い、頭(思考)を使って次の行動に出る。

普通の人、スキルを手にしてから何かをやろうとする。

そんなスキルはすぐに使えなくなる。また、そんなスキルを持っている人は沢山いる。

思考できる人は少ない

[前提]

・人口減少→雇用の難しさ→雇用の流動性→辞めさせない為の業務の簡略化(経理の負担の軽減)→それでも万が一辞めた時・辞めざるを得ない時の為の財務・経理の整理整頓。これ(整理整頓)は突然そうなった時(穴が開かないように)、つまり、①経理の流れの「透明化」と、②その(経理の流れ)「共有化」と、③その(万が一、経理が居なくなった)場合「代行」として入れるように

・その為には、継続的関与(財務役員・経理部長・経理課長等として入る必要がある)

理由①→①会社は常に動いている。(変化している)

→②放っておくと経理は(他の業務も)仕事を複雑にして行く。(同じ事を繰り返すから)

→③定期的見直しの必要性。

理由②→万が一実際に辞めて、常勤が必要な時

- ①面接してもその実力を判断することが出来ない
- ②或いは優秀な人に仕事内容について聞かれた時に答えられる存在が居ない
- ③共に経理を構築する役割

理由③→AI 等、常に、劇的に、加速度的に進化している。(税制、その他の法律の要件もこれから目まぐるしく変化する)→これからは、この財務部(番頭)が専門家を使い倒して会社を守る

今、各自がやっている仕事の[目的]

- ・自分が惚れる仕事を自分が創る
- ・自分が惚れる自分の仕事、それは、自分が自分で惚れる仕事を自分が創る(創れる)の意
- ・それ(上述)が、仕事を通して自分を創る。という意味。
つまり、仕事＝生きる＝人生＝自分らしさ＝喜び
- ・自分で思考して、自分が行動して、自分が工夫して、自分がまた挑戦する。その自分を自分が尊敬し、その自分が幸福を創り、その自分が社会(顧客)に与えたものが、幸福となって自らに返ってくる。それをまた社会に返す。そのことが幸せを生み、そのことが積み重なる。それは、それだけは歳をとっても、死後にも、持っていける。

[目標]

- ・〇〇の[正社員不足問題を解決！経理のアウトソーシングで新たな働き方・・・]のようなものの良いところを頂き、**思想で光を当てて**(相手本位→つまり相手によって変える→つまりオリジナルに相手のために作る)

- ・体系化(整理整頓)する。

(一体、何ができるのか？→それは、顧客の①真の問題が分かり、それを②共有したら、全部解決できるからです)

理由→宇宙に連れてって！とは言わないから。一緒に階段を登っていけば良いんです。そのために必要な地図。→それを整理整頓してみることで、各自の思考の枠が広がる。問題は何か？→その問題の背景にある問題は何か？→その為に、何処からと、何から、どの様にして、どう階段を登るのか？→そこでの顧客の役割と、私の役割は何か？→それが分かれば、全て完璧、顧客と共に成長していけるから。

『知識』よりも『聞く力』『共感する力』

『問題解決』とは、『依存させない』こと。

『問題解決』とは、共に道を歩くもの

『問題解決』とは、その事を通して『信頼の関係を構築する』こと。

問題の本質を知って、そこ(問題の本質)に辿り着いた道(プロセス)を、一つ一つ(共に)登って行くこと。その事(仕事)そのものが幸福であり、自らの人間としての成長と統合される。

伝えたい大事なこと

〇〇等、他に出来る事は全部出来る事になる(ただ活用すれば良いだけだから)

逆に、他が出来ないことは、人間に対する真の問題特定と共有と共感する力。

それが、それこそが我々に求められている。

毎週、週番の方が週目を考えて推進をしてくれていますが、5月の週目を通して、私自身の問題に沢山気付かせて頂いており、改めてアーカイブを見直した際に、ここに何か隠されている気がしたので言語化しておきたいと思います。

5月の週目を通して気付かせて頂いた事は、「顧客に踏み込む前に、社内のメンバーにすら踏み込めていない」という事と、「私自身の立場でしか思考出来ていない(周りをみれていない)」という事です。

私は、主担当先を殆ど持っておらず、主担当(窓口担当者)が居て、記帳代行や監査、決算書類作成を任せて頂く事が多いのですが、それらを私自身の立場でしか仕事が出来ていなかったなと気付かされました。決算のスケジュールが遅れる事があっても、「先方での処理が遅れたのかな」「この人(担当者)は、今こういう事をしていて忙しそうだな」等、担当者に配慮をしたつもりで、それはただ私の立場でしか仕事を見れていないだけなのだという事がわかりました。

どういう背景があって遅れているのか?という事を深堀り出来ていないから、これまでの仕事と何も変化がなく、進化出来ていない。ただの作業になってしまっているという問題が出てきました。これでは、自分が惚れる仕事を創る事は出来ないと感じています。

記帳代行、監査、決算書類作成をただの作業として終わらせるのではなく、これらの仕事を通して顧客に貢献出来る事は何か?顧客が持っている問題を表面的にだけ判断するのではなく、深くまで踏み込み、顧客の立場に立って聞く。それは、思想学習を通して自己と向き合い、振り返り、言語化していく事が重要になるのだと改めて考えさせられています。

■夫婦の関係性について

例えば、ご夫婦でいえば、ご主人と奥さんの中で、ご主人がご自分のことを自己というふうに理解していかなければならないとしたら、受け止めるとしたら、自己というのは自分、つまり、ご主人と一番身近な人間は、奥さんと子供です。まず奥さんと自分との関係性があって自分がここに存在しています。妻もここに存在しているのです。このような関係性が夫婦という両者の人格の存在を可能にしています。

その時に、二人が結婚したことにより成立する関係性をここで関係性といっているのではありません。ここが大事なところなのです。

結婚する前、自分の身近な周りには別の人がいました。実家で親と一緒にくらしていたとすると、その当時は自分と親との間に、親子という関係性の中にあったのです。

そして、結婚して妻と一緒に同居するようになり、結婚生活が始まって、自分の対象が親ではなく奥さん(妻)にかわって、ご夫婦の関係性をそこで保証したことになります。実は、ご主人と奥さんが存在している。その両者の間に関係性があります。

普通は結婚して関係性が成立したと思うでしょう。だって結婚するまでは他人同士だったのだから。

この関係性が大事か、自分自身が大事かというと、関係性の方が大事だと考えます。

それを自己というのです。

「いや、私は関係性なんか関係ないよ。私は私自身が大事なのです。」それは自我なのです。

つまり、ご夫婦の場合だったら、ご主人の場合で言うと、自分自身を自己として認識したら、その目の前にいる奥さんとの関係性が非常に重要なのです。

夫である自分と妻である奥さんが結婚して、初めてできた関係ではありません。夫婦という関係はそれ以前にできているのです。どちらが先かという問題なのです。結婚するまで夫はいません。独身だったある男性と独身だったある女性が結婚することによって、それぞれが夫婦という関係性で結ばれて、それで夫には夫の立場があり、妻には妻の立場がそこで揃います。

関係性が先か、それとも夫の立場に落ちついてからの関係性なのか、妻は妻の立場に落ちついてからの関係性なのか。どちらが優先的か、どちらが先かと考えた時、皆さん間違わないでください。自分たちが優先的に結婚したから夫婦の絆になったのだ、夫婦の関係性の世界ができあがったのだと考えたいのですが、どちらかといえばそのイメージに近い解釈をする方が一般的傾向としては多いといえます。それは自我の教育しか受けていないからなのです。

自己の教育ではこのように考えます。夫婦の関係性が先にあって、そのパターンの中に入ったのは後だということです。そこで、妻にはこのような気遣い、このような心配り、妻は夫にこのような気遣い、このような心配りをしなければいけないという小さな条件項目がこのあといっぱい出てきますが、その前提として、この夫婦が「夫婦という立場」を「共有した時」に、お互いに夫婦だといえます。

私は妻という立場で夫婦、夫は夫という立場で夫婦。しかし夫婦の立場が成立したことが先なのか、関係性が先なのかとなった時に、実は関係性が先だといえます。そのように考える考え方が昔からあるのです。その関係性のルールも法則もあります。それを私達夫婦がお互いに学びあうのです。

例えば、夫が「朝起きて、挨拶するのはそっちから挨拶しろ。」と、そんなことは言うなという教えがあります。そうではなくて「おはようございます。どうだ、台帳はどうか。今日のご機嫌かね。」夫がそのように訊くと、まだ若い結婚してまだ間がないご夫婦である奥さんが、「もちろん、私は元気でピチピチしているよ。あなたはどうか？あなたも同じですか。」と奥さんは訊きます。

「もちろん、一緒だ。」「若い者同士って幸せだな。心配することがなくて。健康に恵まれるってことは幸せだね。」ということなのです。「私はあなたと結婚して、自分の健康がこんなに大事だって初めて気が付いたよ。というのはあなたを悲しませたくないからだ。私は元気でいなければいけない。朝起きるたびに、それを私はいつも思っているのだ。」→責任

すると奥さんは喜びます。それだけで女性は言葉が出てこなくなるのです。こんな素晴らしいことを言ってくれる人なんていません。でもこれは習ったとおり言ってもらわなければなりません。自己人格を教育で勉強したら、優しい言葉をかけるよりもこのような言葉をかけなさい。すると、もっと深いものとして相手に伝わっていくから、心に通じるからです。

常に夫婦の関係性については、考えている事があり、ここに何かヒントが隠されているのではないかという事は感じていても、なかなか理解が出来ず(これまでより内容が難しく感じ)、まだ言語化するところまで出来ておりません。

私自身が夫婦の関係性の所で抱えている問題をきちんと言語化し、こんかい気になって抜粋したこちらの箇所についても、何度も読み返し、気づきを得たいと思います。

段々と内容が難しくなってきた事を感じるとともに、なかなか振り返りが進まないという状況になっています。何故進まないのかという所まで振り返る事が出来ていないのですが、私自身が抱えている夫婦の関係性に関する問題を言語化出来ていない事が背景にあるのだらうと感じています。気づきを得て一歩進んでは一歩戻ってを繰り返しているような気がしています。上手くは言えず、この表現が正しいのかは分かりませんが…。

もう少し私自身の問題と向き合う事をしていかなければ、得るものも得られないと思います。引き続き思考していきます。今後とも宜しくお願い致します。

会社名：株式会社 K

氏名：H・S

年齢：52(男性)

楠本代表、准子さん、事務局の皆様、いつも貴重なご講義ありがとうございます。
価値観を学べる機会と学べる場を頂けているこのご縁と、自分に問いかける機会を頂いている事に対して感謝申し上げます。

テキスト P9 **今、各自がやっている仕事の[目的]**

- ・自分が惚れる仕事を自分が創る
- ・自分が惚れる自分の仕事、それは、自分が自分で誇れる仕事を自分が創る（創れる）の意
- ・それ(上述)が、仕事を通して自分を創る。という意味。つまり、仕事＝生きる＝人生＝自分らしさ＝喜び
- ・自分で思考して、自分が行動して、自分が工夫して、自分がまた挑戦する。その自分を自分が尊敬し、その自分が幸福を創り、その自分が社会（顧客）に与えたものが、幸福となって自らに返ってくる。それをまた社会に返す。そのことが幸せを生み、そのことが積み重なる。それは、それだけは歳をとっても、死後にも、持っていける。

現在携わっている税務・会計業務について誇れる仕事になっているのか。自分への受け止めとして、経営計画立てていく中でこれまで行なってきた税務・会計の価値を私自身が分かっていない。何よりも後輩に対して税務業務の価値・楽しさ・やりがいについて伝えられていない。後輩が苦しんでいる姿を見て、それは私自身が誇りを持てることになることで、変えていけるのではないかと受け止めています。

テキスト P54 **■価値観を学ばない限り、人は謙虚になれない**

自分の仕事に責任をとる、自分の失敗は自分の責任だから喜んでその失敗に責任をとるという価値観がありません。偉そうにする人に限って上からも下からも信頼されていません。それは基本的に価値観の教育を受けていないからです。人間は価値観教育を学ばない限り、自分の問題に気付き、これを受け容れ、人に対して謙虚になることはありません。そういうことを考えたことがない日本人がやたらと多くなっています。

責任をとることばかり考えている自分を「自己」といいます。だから、自己というのは非常に立派な自分です。自己人格に目覚めた人の周囲にはその人を尊敬している人がたくさんいます。普通の人とは段違いです。桁違いにその人が好きだ、好きだ、好きだという人が周囲にたくさん出てきます。

3月決算を通じて、私の仕事は責任を取らないように、お客様から確認(言質)をとり、仕

事を進めている私がいます。「価値観教育を学ばない限り、責任をとる価値観がない」と教えて頂きました。私はこれまで自分の価値観の中で自分なりに責任を取ろうとしていた、これは自分の都合のいいように取ろうとしていたことをしていたために、結果責任が取れていない現実を引き起こしているのだと受け止め、あらためて仕事への誇り、責任についてあらためて課題として思考と整理を続けていきたいと感じています。